

Pioneer *sound.vision.soul*

MDLP



MD/CD/チューナー・WMA/MP3/AAC/WAV 対応
DSP メインユニット

FH-P070MD

取扱説明書

目次 4 ページ

carrozeria

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

警告

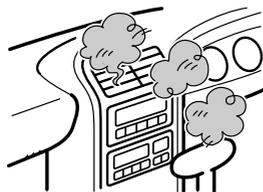
[異常時の処置]

故障のまま使用しない



画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

目次

はじめに

1	各部の名前	8
2	本機の操作の基本	10
3	ご使用になる前に 「CD TEXT」について	12
4	本機のリセットについて	14
5	リモコンの準備	15
6	フロントパネルの角度を調節する	15
7	サブウーファースの設定について	16
8	音・音場と音質の調節について	18

ここだけで

ここだけ読めばすぐ使えます

1	聞きたいソース (音源) を選ぶ 電源を切る	20
2	CDのふだんの操作 CDを再生する 曲を選ぶ 早送り/早戻しをする 音量を調節する CDを取り出す	22
3	WMA/MP3/AAC/WAVのふだんの操作 CD-ROMを再生する フォルダーを選ぶ 曲を選ぶ 早送り/早戻しをする 音量を調節する CD-ROMを取り出す	24
4	MDのふだんの操作 MDを再生する グループを選ぶ 曲を選ぶ 早送り/早戻しをする 音量を調節する MDを取り出す	26
5	ラジオのふだんの操作 バンドを選ぶ 放送局を選ぶ 音量を調節する	28
6	マルチCDのふだんの操作 CDを選ぶ 曲を選ぶ 早送り/早戻しをする 音量を調節する	30

内蔵CD

内蔵CDでCDを聞く

1	聞きたい曲を直接選ぶ	32
2	モードの切り換えかた	32
3	同じ曲を繰り返し聞く	33
4	いつもと違う曲順で聞く	34
5	聞きたい曲をさがす	34
6	CD再生を一時停止する	35
7	CDの音質を調節する	36
8	選曲方法を切り換える	37
9	10曲飛びに選曲する	37
10	CDのタイトルなどを表示する	38
11	聞きたい曲を一覧からさがす	38

WMA/MP3/AAC/WAV

WMA/MP3/AAC/WAVを聞く

1	聞きたい曲を直接選ぶ	40
2	モードの切り換えかた	40
3	同じ曲やフォルダーを繰り返し聞く	41
4	いつもと違う曲順で聞く	41
5	聞きたい曲やフォルダーをさがす	42
6	WMA/MP3/AAC/WAV再生を 一時停止する	43
7	WMA/MP3/AAC/WAVの音質を 調節する	43
8	選曲方法を切り換える	44
9	フォルダー内の曲を 10曲飛びに選曲する	44
10	WMA/MP3/AAC/WAVの タイトルなどを表示する	45
11	聞きたいフォルダーや曲を 一覧からさがす	46

内蔵MD

内蔵MDでMDを聞く

1	聞きたい曲を直接選ぶ	48
2	モードの切り換えかた	48
3	同じ曲やグループを繰り返し聞く	49
4	いつもと違う曲順で聞く	49
5	聞きたい曲やグループをさがす	50
6	MD再生を一時停止する	51
7	MDのタイトルなどを表示する	52
8	聞きたいグループや曲を一覧からさがす	53

ラジオ

ラジオを聞く

- | | | |
|---|------------------|----|
| 1 | モードの切り換えかた | 54 |
| 2 | 複数の放送局を自動的に記憶させる | 54 |
| 3 | 放送局を1局ずつ記憶させる | 55 |
| 4 | 記憶させた放送局を呼び出す | 55 |
| 5 | 聞きたい放送局を一覧からさがす | 56 |
| 6 | 放送局名を選ぶ | 56 |
| 7 | 放送局名などを表示する | 57 |

すぐに使いたいときは、
ここをお読みください。

ここ
だけ
読めば
すぐ
使え
ます

マルチCD

マルチCDでCDを聞く

(別売のマルチCDを組み合わせたときのみ)

- | | | |
|----|-----------------------------|----|
| 1 | 聞きたいCDを直接選ぶ | 58 |
| 2 | 聞きたい曲を直接選ぶ | 58 |
| 3 | モードの切り換えかた | 59 |
| 4 | 同じ曲やCDを繰り返し聞く | 60 |
| 5 | いつもと違う曲順で聞く | 61 |
| 6 | 聞きたい曲やCDをさがす | 61 |
| 7 | 聞きたい曲だけ指定しておく | 62 |
| 8 | 指定した曲だけ再生する | 63 |
| 9 | 曲の指定を1曲ずつ解除する | 63 |
| 10 | 曲の指定をCDごとに解除する | 64 |
| 11 | CDのタイトルを記憶させる | 64 |
| 12 | CD再生を一時停止する | 66 |
| 13 | CDの音質を調節する | 66 |
| 14 | 聞きたいCDを一覧からさがす | 67 |
| 15 | 聞きたい曲を一覧からさがす | 68 |
| 16 | CDのタイトルなどを表示する | 69 |
| 17 | 「CD TEXT」のタイトルや
歌手名を表示する | 70 |

はじめに

内蔵CDでCDを聞く

WMA/MP3/AAC/WAVを聞く

内蔵MDでMDを聞く

ラジオを聞く

マルチCDでCDを聞く

音を調節する

音場と音質を調節する

別売DSPで音を調節する

別売DSPで音場と音質を調節する

便利な機能と初期設定

その他 (付録)

音の調節

音を調節する

- | | | |
|---|-----------------------|----|
| 1 | オーディオ調節モードの切り換えかた | 72 |
| 2 | 前後左右の音量バランスを調節する | 73 |
| 3 | 小音量時の音にメリハリをつける | 73 |
| 4 | サブウーファーを使う | 74 |
| 5 | 低い音をスピーカーから
出力させない | 76 |
| 6 | 各ソースの音量をそろえる | 78 |

音場と音質の調節

音場と音質を調節する

- | | | |
|----|-------------------------------|----|
| 1 | DSP 調節モードの切り換えかた | 80 |
| 2 | 音楽に合った音質を設定する | 81 |
| 3 | イコライザーカーブをだまかに補正する | 81 |
| 4 | イコライザーカーブを細かく調節する | 82 |
| 5 | 音場の中心で聞く | 83 |
| 6 | タイムアライメントを選ぶ | 83 |
| 7 | タイムアライメントを調節する | 84 |
| 8 | オートイコライザーをON/OFFする | 85 |
| 9 | イメージに合った演奏会場を再現する | 86 |
| 10 | 騒音に合わせて音量を変える | 87 |
| 11 | オートタイムアライメント&
イコライジングを行う前に | 88 |
| 12 | オートタイムアライメント&
イコライジングを行う | 90 |

音の調節
(別売DSP)

別売 DSP で音を調節する

- | | | |
|----|--------------------------|----|
| 1 | オーディオ調節モードの切り換えかた | 92 |
| 2 | 前後左右の音量バランスを調節する | 93 |
| 3 | 接続したスピーカーの設定をする | 94 |
| 4 | サブウーファーの位相を切り換える | 95 |
| 5 | クロスオーバー周波数を設定する | 95 |
| 6 | スピーカーレベルを調節する | 96 |
| 7 | テストトーンで
スピーカーレベルを調節する | 96 |
| 8 | タイムアライメントを選ぶ | 97 |
| 9 | タイムアライメントを調節する | 97 |
| 10 | ダウンミックス機能を使う | 98 |
| 11 | ダイナミックレンジ
コントロールを使う | 98 |
| 12 | オリジナルの音質で聞く | 99 |
| 13 | 各ソースの音量をそろえる | 99 |

音場と音質の調節
(別売DSP)

別売 DSP で音場と音質を調節する

- | | | |
|----|-------------------------------|-----|
| 1 | DSP 調節モードの切り換えかた | 100 |
| 2 | 音楽に合った音質を設定する | 101 |
| 3 | 3 バンドパラメトリック
イコライザーを調節する | 102 |
| 4 | 音場の中心で聞く | 103 |
| 5 | ドルビープロロジック を使う | 104 |
| 6 | ミュージックモードの切り換えかた | 105 |
| 7 | SFC で音場を再現する | 106 |
| 8 | オートイコライザーをON/OFFする | 107 |
| 9 | オートタイムアライメント&
イコライジングを行う前に | 108 |
| 10 | オートタイムアライメント&
イコライジングを行う | 110 |

便利な機能

便利な機能と初期設定

1	瞬時に音量を小さくする	112
2	時計を表示する	112
3	交通情報を受信する	113
4	よく使う機能を直接操作する	113
5	エンタテインメント表示 を切り換える	114
6	外部機器に合わせて デジタル接続に切り換える	115
7	初期設定モードの切り換えかた	116
8	時計を合わせる	117
9	外部機器の音声を聞く	117
10	外部機器の名称を入力する	118
11	夜間のディスプレイの 明るさを切り換える	118
12	ディスプレイの明るさを調節する	119
13	RCA 外部出力から 出力される信号を選ぶ	119
14	音の歪みを補正する	120
15	ミュート/アッテネートを切り換える	120
16	フィーチャーデモをON/OFFする	121
17	リバースモードをON/OFFする	122
18	CDタイトルなどのスクロールの しかたを切り換える	122
19	オーディオ設定をリセットする	123

すぐに使いたいときは、
ここをお読みください。

ここ
だけ
読めば
すぐ
使え
ます

はじめに

内蔵 CD で CD を聞く

WMA/MP3/AAC/WAV を聞く

内蔵 MD で MD を聞く

ラジオを聞く

マルチ CD で CD を聞く

音を調節する

音場と音質を調節する

別売 DSP で音を調節する

別売 DSP で音場と音質を調節する

便利な機能と初期設定

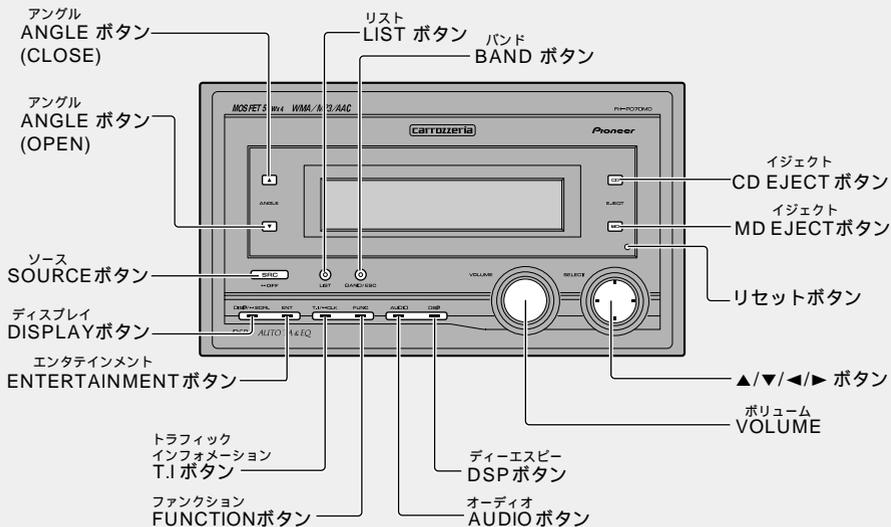
その他 (付録)

その他

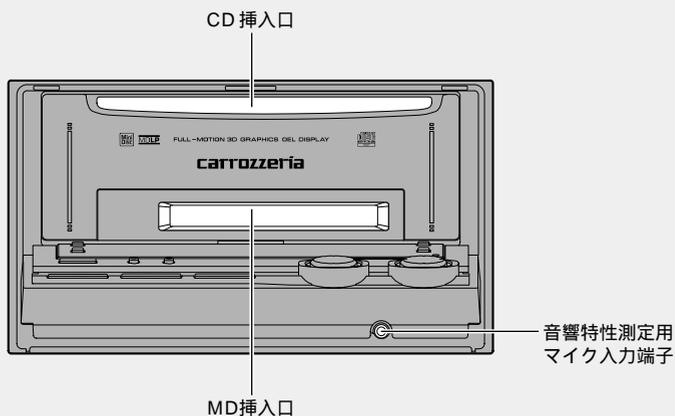
その他 (付録)

1	CD の正しい使いかた	124
2	WMA/MP3/AAC/WAV ファイル について	126
3	MD の正しい使いかた	129
4	故障かな?と思ったら	130
5	こんなメッセージが表示されたら	134
6	保証書とアフターサービス	135
7	用語解説	136
8	おもな仕様	138

本体 (クローズ時)

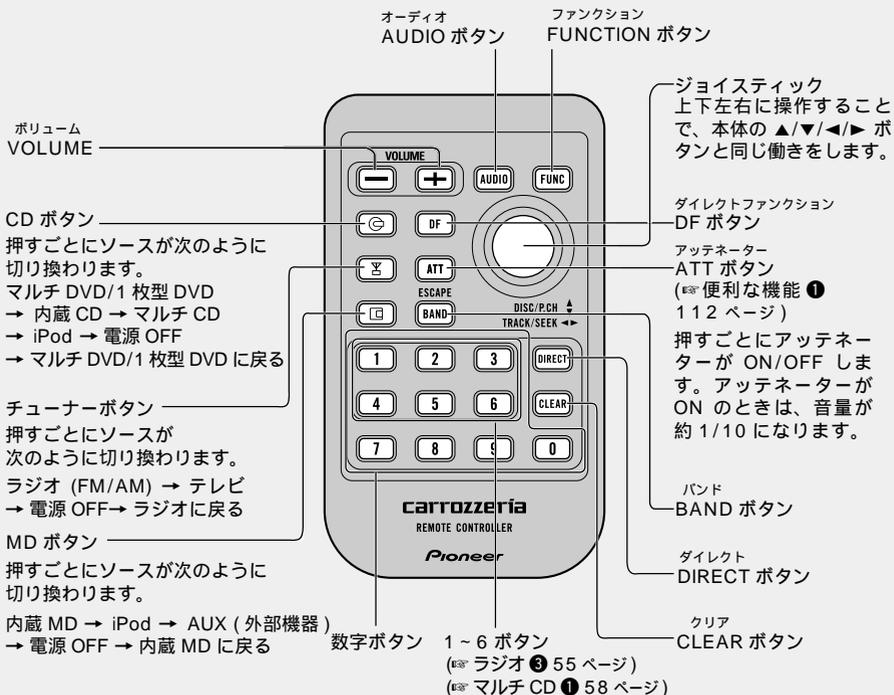


本体 (オープン時)



リモコン

本体と同じなまへのボタンは、本体のボタンと同じ働きをします。



DF ボタンについて

DF ボタンを押すと、ソースごとにあらかじめ記憶されている機能を直接操作することができます。内蔵 CD・WMA/MP3/AAC/WAV・内蔵 MD・マルチ CD でポーズ、ラジオで BSM、テレビで BSSM を操作することができます。(※ 便利な機能 ④ 113 ページ)

数字、DIRECT、CLEAR ボタンについて

数字、DIRECT、CLEAR ボタンを操作すると、ダイレクトサーチ機能を使うことができます。

- (※ 内蔵 CD ① 32 ページ)
- (※ WMA/MP3/AAC/WAV ① 40 ページ)
- (※ 内蔵 MD ① 48 ページ)
- (※ マルチ CD ② 58 ページ)

ジョイスティックについて

中心を押した場合は、本体の LIST ボタンと同じ働きをします。ただし内蔵 MD では、トラックリストだけ表示できます。グループリストは表示できません。(※ 内蔵 MD ⑧ 53 ページ)

メモ

接続していないソースには切り換わりません。ディスクがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。AUX (外部機器) の設定 (※ 便利な機能 ⑨ 117 ページ) を ON にしないと、AUX には切り換わりません。

本機の操作の基本

本機を操作するとき、よく使うボタンなどについての説明です。

ふだん使う機能の操作のしかた

ふだん使う機能は、▲/▼/◀/▶ ボタンおよびBAND ボタンで操作します。

聞いている ソース 操 作	CD、WMA/MP3/AAC/WAV、MDを 聞いているとき	ラジオ、テレビを聞いているとき
◀または▶ ボタン	選曲、早送り/早戻し	自動選局、手動選局
▲または▼ ボタン	再生するフォルダーの切り換え (WMA/MP3/AAC/WAV) 再生するディスクの切り換え (マルチCD) グループの切り換え (MD)	記憶させた放送局の切り換え
BAND ボタン	音楽データとMP3/WMA/AAC/WAVファイルの切り換え (WMA/MP3/AAC/WAV) (※ここだけで⑨ 25ページ) ROOT フォルダーの選択 (2秒以上押す) (WMA/MP3/AAC/WAV)	バンド (FM/AM) の切り換え TV1 と TV2 の切り換え

便利な機能の操作のしかた

ふだん使う機能以外は、オペレーションモードを切り換えて操作します。
オペレーションモードは5種類あり、それぞれ次の手順で操作します。

手 順	モード	ファンクション モード	詳細設定 モード	初期設定 モード	オーディオ 調節モード	DSP 調節 モード
1	それぞれの モードにする	FUNCTION ボタンを 押す。	FUNCTION ボタンを 2秒以上 押す。	電源OFFの ときに FUNCTION ボタンを2 秒以上押す。	AUDIO ボタンを 押す。	DSP ボタンを 押す。
2	機能を切り換える	FUNCTION ボタンを押す。			AUDIO ボタン を押す。	DSP ボタンを 押す。
3	機能をON/OFFする または 項目を選ぶ	▲または▼ ボタンを押す。		▲/▼/◀/▶ ボタンを押す。 (選択または調節)		
		◀または▶ ボタンを押す。				
4	それぞれの モードを解除する	BAND ボタンを押す。				

それぞれのモードで操作できる機能について

- ファンクションモード** : CDのリPEAT再生 (E3 内蔵CD③ 33ページ) やマルチCDのスキャン再生 (E3 マルチCD⑥ 61ページ) など、それぞれのソースの便利な機能を操作できます。
- 詳細設定モード** : CDのタイトル入力 (E3 マルチCD① 64ページ) やラジオの放送局名選択 (E3 ラジオ⑤ 56ページ) など、便利な機能の詳細を設定できます。
- 初期設定モード** : 外部機器 (E3 便利な機能⑨ 117ページ) やディママー (E3 便利な機能⑩ 118ページ) などの設定ができます。
- オーディオ調節モード** : フェーダー/バランス (E3 音の調節② 73ページ) など、音に関する調節ができます。
- DSP調節モード** : イコライザー (E3 DSP調節② 81ページ) など、音場と音質に関する調節ができます。

はじめに

ガイド表示について

本機を操作しているとき、ディスプレイにガイド表示が出ます。ガイド表示は、操作に使うボタンを示しています。



表示の例	内容
	FUNCTION ボタンで機能を切り換えることができます。
	AUDIO ボタンで機能を切り換えることができます。
	DSP ボタンで機能を切り換えることができます。
	▲/▼/◀/▶/ボタンで項目を選ぶことができます。
	▲または▼ボタンで機能をON/OFFすることができます。
	◀または▶ボタンで項目を選ぶことができます。

本機の特長

本機は、音楽CD、WMA/MP3/AAC/WAVの再生に対応しています。

CD再生

音楽用のCD/CD-R/CD-RWを再生することができます。

WMA/MP3/AAC/WAV再生

WMA/MP3/AAC/WAVファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMの再生に対応しています。ISO9660のレベル1、レベル2、および拡張フォーマット (Joliet, Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。(※ その他⑦ 136ページ)

WMAについて



外装箱に印刷された、Windows Media™のロゴは、本機がWMAデータの再生に対応していることを示しています。

WMAとは、「Windows Media Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver.7以降を使用してエンコードすることができます。

Microsoft、Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

メモ

WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。本機で画像データを含むWMAファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

MP3について

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページ<http://www.mp3licensing.com>をご覧ください。

営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送 (地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア)、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

AACについて

AACとは、「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG-2およびMPEG-4で使用される音声圧縮技術に関する基本フォーマットです。

AACデータは、作成に使用したアプリケーションによってファイル形式と拡張子が異なります。

本機では、iTunes Ver.4.1.1.54以降を使用してエンコードされたAACファイルの再生に対応しています。

本機は、iTunesで作成された拡張子 (.m4a) が付いているファイルを、AACファイルとして再生します。故障の原因となりますので、.m4以外の拡張子の付いたAACファイルを再生しないでください。

iTunesは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。

メモ

ACCファイルをエンコードしたiTunesのバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。

AACファイルをライティングしたiTunesのバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。

本機で画像データを含むAACファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

「CD TEXT」について

「CD TEXT」とは、CDのタイトル/歌手名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。ディスクタイトル面に下記マークの付いているCDは、「CD TEXT」です。(下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。)



タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけではなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

50枚型マルチCDプレーヤーの使用について

本機では、50枚型マルチCDプレーヤーの取扱説明書に記載されている50枚型マルチCDプレーヤー特有の機能进行操作することはできません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能のみです。

メモ

本機のディスクリスト機能 (※ マルチCD 67ページ) は、50枚型マルチCDプレーヤーでは操作できません。

長時間録音されたMDの再生について

本機は、MDLPに対応しています。長時間録音されているMDも再生することができます。

MDLPについて

MDLPとは、今までお使いになっているMDで、従来の録音できる時間より長く(2倍、4倍の時間)録音することができる圧縮方式です。

MDグループディスク再生について

本機は、MDグループ機能の再生に対応しています。MDに収録されている曲をグループとして登録したディスク(グループディスク)を再生している場合、グループ名を表示したり、お好みのグループだけを再生したりすることができます。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源OFFのときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のエンジンスイッチをON(またはACC)にしないでください。バッテリーが上がる恐れがあります。

ドルビープロロジックについて

当社の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」と組み合わせると、5.1チャンネルで収録された映画/音楽のDVDを臨場感豊かに再現することができます。



Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

BBEについて

この製品はBBEサウンド・インコーポレーテッドからの実施権に基づき製造されています。この製品は米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc.の登録商標です。

はじめに

3

ご使用になる前に

(つづき)

デモモードについて

本機には、リバースモードとフィーチャーデモの2つのデモモードがあります。

リバースモードについて

リバースモードは、各ソースを聞いているときに約30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10秒間隔で行われます。

リバースモードを解除したいときは、車のイグニッションスイッチがON(またはACC)のときに本機の電源をOFFにしてBANDボタンを押してください。もう一度押すと、ONになります。

フィーチャーデモについて

フィーチャーデモは、本機が電源OFFのときに、各ソースや本機の機能(エンタテインメントやSFCなど)の画面を表示して紹介する機能です。

フィーチャーデモを解除したいときは、フィーチャーデモが表示されているときにENTERTAINMENTボタンを押してください。もう一度押すと、デモが始まります。

車のエンジンを止めた状態で、フィーチャーデモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。

メモ

赤リード線(アクセサリ電源)は、常に車のバッテリーから電源が供給される電源回路には接続しないでください。車のイグニッションスイッチと本機の電源をOFFにしても、デモンストレーションが表示され、バッテリー上がりの原因になります。

はじめに

4

本機のリセットについて

リセット

本機を初期状態に戻すことができます。

リセットボタンについて

リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期状態(ご購入直後の状態)に戻ります。次のようなときに、リセットボタンを押してください。

接続が終わったあと

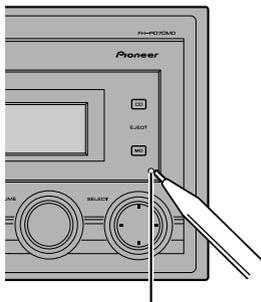
本機が正しく動作しないとき

ディスプレイが正しく表示されないとき

リセットボタンを押すと、本機の記憶(時計やラジオのプリセットなど)が消去されます。もう一度、セットしなおしてください。

1 本機をリセットする

ペン先などでリセットボタンを押す



リセットボタン

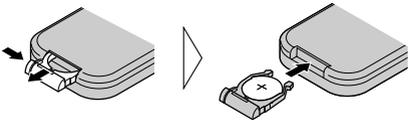
リモコンの準備

付属のリモコンを使うための準備です。

リモコンに電池を入れる

リモコンを裏返し、電池ホルダーを取り出して、リチウム電池 (CR2025) を ⊕ 側を上にしてセットします。

初めてお使いになるときは、電池ホルダー部から出ているフィルムを引き抜いてください。電池があらかじめセットされていますので、すぐにお使いいただくことができます。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

リモコンの取り扱い上のご注意

リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障する恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。本体に直射日光が当たっていると、リモコンの操作ができないことがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。

付属の電池は充電できません。

リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。

電池の液もれが起こったときは、内部についた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。

不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示 (条例) に従って処理してください。

フロントパネルの角度を調節する

角度調節

フロントパネルの角度を調節して、ディスプレイを見やすくしたり、操作をしやすくすることができます。

1 フロントパネルの角度を調節する

ANGLE (OPEN/CLOSE) ボタンを押す

OPEN : ボタンを押すごとにフロントパネルが傾きます。2秒以上押すと、完全に開きます。

CLOSE : ボタンを押すごとにフロントパネルが立ち上がります。2秒以上押すと、完全に閉まります。

ご注意

角度の調節は、手動で行わないでください。フロントパネルに強い力が加わると、故障することがあります。

ディスクを挿入口に差したままにしないでください。フロントパネルが開められなくなります。

メモ

フロントパネルの角度は、12段階に調節することができます。

車のACC (アクセサリー) 電源をOFFにすると、約6秒後にフロントパネルが閉まります。もう一度ONにすると、元の位置に戻ります。(ただし、安全のため、完全に開いた位置には戻りません。)

! 注意



手を挟まれないよう注意

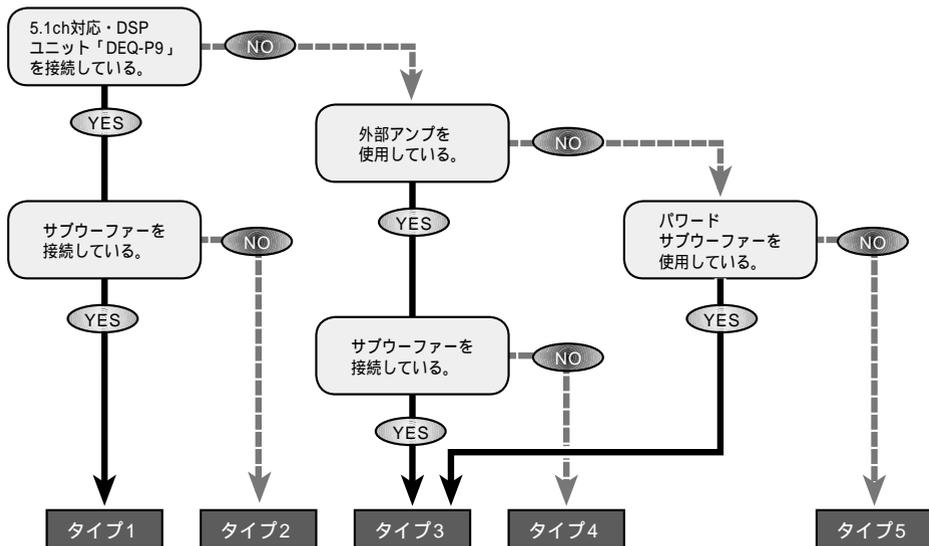
フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。



フロントパネルを開けたまま、走行しないでください。急ブレーキ時にフロントパネルに体が当たったりして、思わぬケガをする恐れがあります。

サブウーファーの設定について

本機とサブウーファーを組み合わせている場合、本機を使ってサブウーファーを設定できます。サブウーファーの接続方法やシステムによって、サブウーファーの設定方法は大きく異なります。次の表に従い、お手持ちのシステムに合わせてサブウーファーを正しく設定してください。



タイプ1

入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合：入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する
ローパスフィルター付きパワーアンプの場合：ローパスフィルターをOFFに設定する
パワードサブウーファーの場合：遮断周波数を最も高い値に設定する

- 1.スピーカー設定モードで、スピーカーの有無を設定する（Sub W.はONに設定）
(☞ 音の調節 (別売DSP) ⑨ 94 ページ)
- 2.リスニングポジションをFront RightまたはFront Leftに設定にする
(☞ 音場と音質の調節 (別売DSP) ④ 103 ページ)
- 3.Auto TA&EQを行う
(☞ 音場と音質の調節 (別売DSP) ⑨ 108 ページ)
- 4.必要な場合は、オーディオ調節・DSP調節モードで微調節をする

タイプ2

- 1.スピーカー設定モードで、スピーカーの有無を設定する（サブウーファーはOFFに設定する）
(☞ 音の調節 (別売DSP) ⑨ 94 ページ)
- 2.リスニングポジションをFront RightまたはFront Leftに設定する
(☞ 音場と音質の調節 (別売DSP) ④ 103 ページ)
- 3.Auto TA&EQを行う
(☞ 音場と音質の調節 (別売DSP) ⑨ 108 ページ)
- 4.必要な場合は、オーディオ調節・DSP調節モードで微調節をする

タイプ3

入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合：入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する
ローパスフィルター付きパワーアンプの場合：ローパスフィルターをOFFに設定する
パワードサブウーファーの場合：遮断周波数を最も高い値に設定する

- 1.初期設定モードで、RCA 外部出力を S/W にする
(☞ 便利な機能⑬ 119 ページ)
- 2.リスニングポジションを Front Right または Front Left に設定する
(☞ 音場と音質の調節⑤ 83 ページ)
- 3.Auto TA&EQ を行う
(☞ 音場と音質の調節① 88 ページ)
- 4.必要な場合は、オーディオ調節・DSP 調節モードで微調節をする

タイプ4

入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合：
入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する
ローパスフィルター付きパワーアンプの場合：
ローパスフィルターをOFFに設定する

- 1.初期設定モードで、RCA 外部出力を Rear にする
(☞ 便利な機能⑬ 119 ページ)
- 2.リスニングポジションを Front Right または Front Left に設定する
(☞ 音場と音質の調節⑤ 83 ページ)
- 3.Auto TA&EQ を行う
(☞ 音場と音質の調節① 88 ページ)
- 4.必要な場合は、オーディオ調節・DSP 調節モードで微調節をする

タイプ5

- 1.初期設定モードで、RCA 外部出力を Rear にする
(☞ 便利な機能⑬ 119 ページ)
- 2.リスニングポジションを Front Right または Front Left に設定する
(☞ 音場と音質の調節⑤ 83 ページ)
- 3.Auto TA&EQ を行う
(☞ 音場と音質の調節① 88 ページ)
- 4.必要な場合は、オーディオ調節・DSP 調節モードで微調節をする

音・音場と音質の調節について

本機と「DEQ-P9」のオーディオ調節機能・DSP調節機能の違い

別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」と組み合わせた場合、本機に内蔵のオーディオ調整機能およびDSP調節機能は無効になります。代わりに、「DEQ-P9」のオーディオ調節・DSP調整機能が使用できます。

本機と「DEQ-P9」のオーディオ調節機能・DSP調節機能の違いは、次の表のとおりです。

オーディオ調節機能・ DSP調節機能のモード名	本機	DEQ-P9
音量バランス調節		
LOUDNESS		×
サブウーファー設定		×
サブウーファー調節		×
サブウーファースロープ調節		×
ハイパスフィルター設定（フロント）		×
ハイパスフィルター調節（フロント）		×
ハイパスフィルター設定（リア）		×
ハイパスフィルター調節（リア）		×
SLA		
イコライザー選択		
イコライザー調節		×
リスニングポジションセクター		
タイムアライメント選択		
タイムアライメント調節		
オートイコライザー		
SFC		
ASL		×
オートタイムアライメント&イコライジング		
スピーカー設定	×	
クロスオーバー周波数設定	×	
スピーカーレベル設定	×	
テストトーン	×	
ダウンミックス	×	
ダイナミックレンジコントロール	×	
ダイレクト	×	
3バンドパラメトリックイコライザー	×	
ドルビープロロジック	×	
ドルビープロロジック ミュージック	×	

音・音場と音質の効果的な調節の順序

音・音場と音質を効果的に調節するには、正しい順序で行っていただく必要があります。以下の順序どおりに各モードで設定してください。

本機の場合

- リスニングポジションセクターモード
(音場と音質の調節 5 83ページ)
Front Right (前部右座席) か、Front Left (前部左座席) を選んでください。
- Auto TA&EQ設定モード
(音場と音質の調節 b 88ページ)

オートタイムアライメント&イコライジング (Auto TA&EQ) を行うと、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな状態に最適化されます。Auto TA&EQを行ったあとに、以下のモードの設定をすると効果的です。

- イコライザー選択モード
(音場と音質の調節 2、3 81ページ)
- イコライザー調節モード
(音場と音質の調節 4 82ページ)
- ASLモード
(音場と音質の調節 a 87ページ)
- ラウドネスモード
(音の調節 3 73ページ)
- SFCモード
(音場と音質の調節 9 86ページ)
- SLAモード
(音の調節 6 78ページ)

Auto TA&EQを行うと、以下のモードの設定は自動で最適な状態に調節されます。必要に応じて微調整をしてください。

- 音量バランス調節モード
(音の調節 2 73ページ)
- サブウーファー設定モード
(音の調節 4 74ページ)
- サブウーファー調節モード
(音の調節 4 75ページ)
- サブウーファースロープ調節モード
(音の調節 4 75ページ)
- ハイパスフィルター設定モード (フロント)
(音の調節 5 76ページ)
- ハイパスフィルター調節モード (フロント)
(音の調節 5 76ページ)
- ハイパスフィルター設定モード (リア)
(音の調節 5 76ページ)
- ハイパスフィルター調節モード (リア)
(音の調節 5 76ページ)
- タイムアライメント選択モード
(音場と音質の調節 6 83ページ)
- タイムアライメント調節モード
(音場と音質の調節 7 84ページ)
- オートイコライザーモード
(音場と音質の調節 8 85ページ)

「DEQ-P9」を接続した場合

- スピーカー設定モード
(音の調節 (別売 DSP) 3 94ページ)
スピーカーの有無 (ON/OFF) を設定してください。
- リスニングポジションセクターモード
(音場と音質の調節 (別売 DSP) 4 103ページ)
Front Right (前部右座席) か、Front Left (前部左座席) を選んでください。
- Auto TA&EQ設定モード
(音の調節 (別売 DSP) 9 108ページ)

オートタイムアライメント&イコライジング (Auto TA&EQ) を行うと、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな状態に最適化されます。Auto TA&EQを行ったあとに、以下のモードの設定をすると効果的です。

- イコライザー選択モード
(音場と音質の調節 (別売 DSP) 2 101ページ)
- ドルビープロロジック モード
(音場と音質の調節 (別売 DSP) 5 104ページ)
- ダイレクトモード
(音の調節 (別売 DSP) c 99ページ)
Auto TA&EQの効果を確認したいときにご使用ください

Auto TA&EQを行うと、以下のモードの設定は自動で最適な状態に調節されます。必要に応じて微調整をしてください。

- 音量バランス調節モード
(音の調節 (別売 DSP) 2 93ページ)
- クロスオーバー周波数設定モード
(音の調節 (別売 DSP) 5 95ページ)
- スピーカーレベル調節モード
(音の調節 (別売 DSP) 6 96ページ)
- テストトーンモード
(音の調節 (別売 DSP) 7 96ページ)
- タイムアライメント選択モード
(音の調節 (別売 DSP) 8 97ページ)
- タイムアライメント調節モード
(音の調節 (別売 DSP) 9 97ページ)
- 3バンドパラメトリックイコライザーモード
(音場と音質の調節 (別売 DSP) 3 102ページ)
- オートイコライザーモード
(音場と音質の調節 (別売 DSP) 8 107ページ)

DVDを再生しているときは、お好みに合わせて以下のモードの設定をしてください。

- ダイナミックレンジコントロールモード
(音の調節 (別売 DSP) b 98ページ)
- ダウンミックスモード
(音の調節 (別売 DSP) a 98ページ)

聞きたいソース (音源) に切り換えることができます。

1 ソースを切り換える

SOURCE ボタンを押す

SOURCE ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

- ラジオ (FM/AM)
- ↓
- テレビ (別売)
- ↓
- AV (ビデオ入力) (別売)
- ↓
- マルチDVD/1枚型DVD (別売)
- ↓
- 内蔵CD
- ↓
- マルチCD (別売)
- ↓
- iPod (別売) ¹
- ↓
- 内蔵MD
- ↓
- エクスターナルユニット1 (別売) ²
- ↓
- エクスターナルユニット2 (別売) ²
- ↓
- AUX (外部機器) (別売) ³
- ↓
- ラジオに戻る

メモ

接続していないソースには切り換わりません。CDやMDがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。本機の青リード線 (オートアンテナ) に車側のオートアンテナのコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。AVソースを持つユニット (「AVX-P7」など) を本機に接続してAVソースを設定している場合に、AV入力ソースに切り換えることができます。

¹iPod (別売) を接続するには、iPodアダプター「CD-IB10」 (別売) が必要です。iPodは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。

²エクスターナルユニットとは、本機がソースとして対応していないパイオニア製品 (将来発売される製品など) の基本的な機能をコントロールできるように用意している特別なソースです。本機では、2台のエクスターナルユニットをコントロールすることができます。2台のエクスターナルユニットを接続した場合、本機によって、エクスターナル1、エクスターナル2が自動的に設定されます。

³AUX (外部機器) の設定 (☞ 便利な機能 117ページ) をONにしないと、AUXには切り換わりません。

iPodアダプターを接続したときは

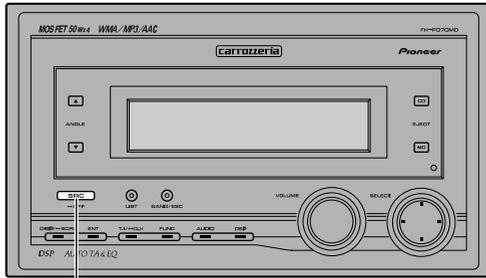
操作のしかたは、iPodアダプター「CD-IB10」の取扱説明書をご覧ください。

マルチMDを接続したときは

本機は、マルチMD (例: 「MD-P100II」) をエクスターナルユニットとして操作することができます。操作のしかたは、マルチMDの取扱説明書の「メインユニット ③」を参照してください。

2 電源を切る

SOURCE ボタンを1秒以上押す
本機の電源が切れます。



ソース
SOURCEボタン

テレビ、マルチDVD、1枚型DVD、AVを接続したときは

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

組み合わせ例

ソース	製品の型番
テレビ	「AVX-P7」
マルチDVD	「XDV-P9II」
1枚型DVD	「SDV-P7」
AV	「AVX-P7」

上記の製品の取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作を説明している場合があります。その製品と対応しているボタンで操作してください。

1枚型DVDまたはマルチDVDを接続したときは、次の操作がそれぞれの取扱説明書と異なります。

早送り/早戻し

DVDを再生しているとき

◀または▶ボタンを押します。

ビデオCDまたはCDを再生しているとき

◀または▶ボタンを0.5秒以上押します。

チャプター/トラックを進める/戻す
DVDを再生しているとき

◀または▶ボタンを0.5秒以上押します。

ビデオCDまたはCDを再生しているとき

◀または▶ボタンを押します。

ファンクションモードの切り換え

DVDまたはビデオCDを再生しているとき

再生範囲切換モード → ポーズ設定モード

→ 再生範囲切換モードに戻る

CDを再生しているとき

再生範囲切換モード → ランダムプレイ

設定モード → スキャンプレイ設定

モード → ITSプレイ設定モード (マルチDVDのみ)

→ ポーズ設定モード →

再生範囲切換モードに戻る

ディスクタイトル入力、ITS機能

マルチDVDでCDを再生している場合に

操作できます。操作方法はマルチ

CDと同じです。(※ マルチCD⑦~⑩

62 ~ 65 ページ)

ここだけで CD のふだんの操作

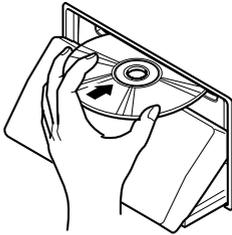
CD を再生する 曲を選ぶ

ここだけの操作で、内蔵のCDプレーヤーでCDを聞くことができます。

1 CD を再生する

CD EJECT ボタンを押す
フロントパネルが開きます。

CD を CD 挿入口に差し込む
タイトル面を上にして差し込みます。



ご注意

CDシングル (8cm CD) もアダプターなしで
セットできます。アダプターは絶対を使用しな
いでください。

フロントパネルが自動的に閉まり、CDの
再生が始まります。

2 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の曲を選ぶとき (または早送り)
- ◀ : 前の曲を選ぶとき (または早戻し)

曲番号



再生経過時間

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し ¹	0.5秒以上押し 続けている間

¹ 選曲方法をラフサーチに設定した場合は、
10曲飛びに選曲します。
(内蔵CD 37ページ)

! 注意

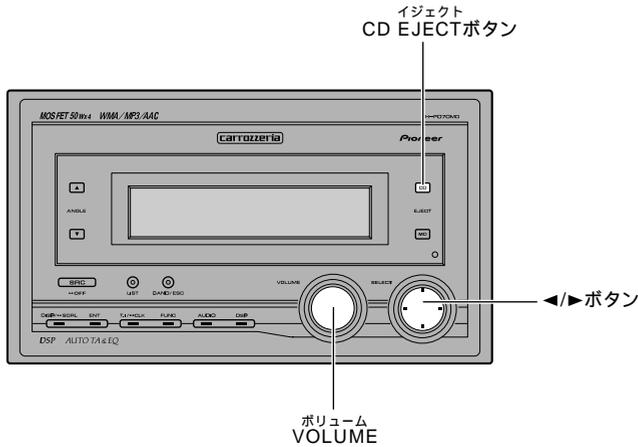


手を挟まれない
よう注意

フロントパネルの開閉動作
中は、指などを挟まない
ようご注意ください。

メモ

CDをセットしたまま電源をOFFにしたり、他の
ソース (ラジオやMDなど) に切り換えることも
できます。(ここだけで 20ページ)
CD挿入口には、CD以外のものを絶対に入れな
いでください。故障の原因となります。
ディスクを挿入すると、ファイル形式を読みと
る間、“Format read” と表示されます。



3 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出きます。

もう一度押すと、元に戻ります。

VOLUME を右または左に回す

右に回す：大きくするとき

左に回す：小さくするとき

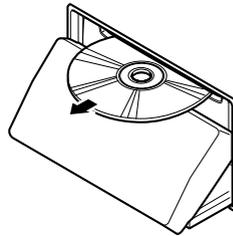
音量は0～40の範囲で調節できます。

約4秒間、音量が表示されます。

4 CDを取り出して CD再生をやめる

CD EJECT ボタンを押す

フロントパネルが自動的に開き、CDが出てきます。



出てきたCDはすぐに取り出して、保管してください。

CD EJECT ボタンを押す

フロントパネルが閉まります。

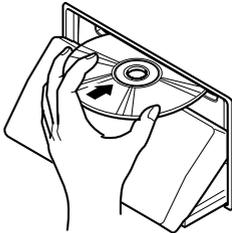
CD挿入口にゴミやホコリが入るのを防ぐため、フロントパネルを閉めてください。

ここだけの操作で、内蔵のCDプレーヤーでWMA/MP3/AAC/WAVを聞くことができます。再生できるWMA/MP3/AAC/WAVについては (☞ ④ 126 ページ)

1 CD-ROMを再生する

CD EJECT ボタンを押す
フロントパネルが開きます。

CD-ROMをCD挿入口に差し込む
タイトル面を上にして差し込みます。



フロントパネルが自動的に閉まり、CD-ROMの再生が始まります。

2 聞きたいフォルダーを選ぶ

▲または▼ボタンを押す

▲：次のフォルダーを選ぶとき

▼：前のフォルダーを選ぶとき

フォルダー番号



WMA/MP3/AAC/WAV
インジケータ

BAND ボタンを2秒以上押すと、フォルダー01 (ROOT) に戻ります。ただし、フォルダー01 (ROOT) にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。

3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ボタンを押す

▶：次の曲を選ぶとき (または早送り)

◀：前の曲を選ぶとき (または早戻し)

曲番号



ビットレート表示

再生経過時間

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択 0.5秒未満

曲の早送り/早戻し 1 0.5秒以上押し

続けている間

WMA/MP3/AAC/WAV ファイルを早送り/早戻ししているときは、音声は出力されません。

1 選曲方法をラフサーチに設定した場合は、10曲飛びに選曲します。

(☞ WMA/MP3/AAC/WAV ④ 44 ページ)

⚠ 注意

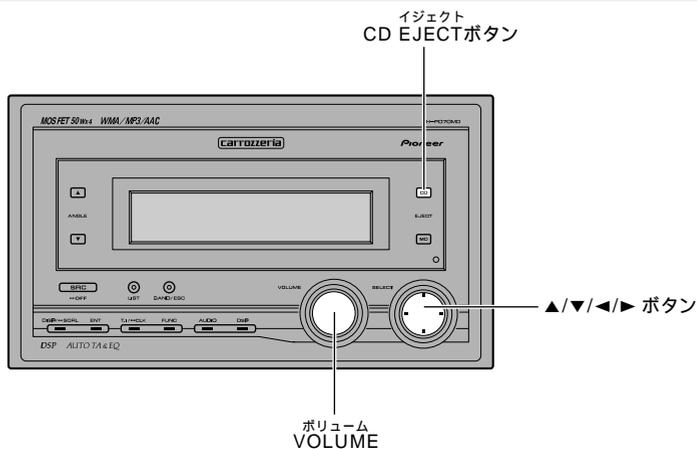


手を挟まれない
よう注意

フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。

メモ

CD-ROMをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース (ラジオやMDなど) に切り換えることもできます。(☞ ここだけで① 20 ページ)
CD挿入口には、CD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。
ディスクを挿入すると、ファイル形式を読みとる間、“Format read”と表示されます。
VBR (可変ビットレート) で録音されたファイルを早送り/早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。



4 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出きます。

もう一度押すと、元に戻ります。

VOLUME を右または左に回す

右に回す：大きくするとき

左に回す：小さくするとき

音量は0～40の範囲で調節できます。

約4秒間、音量が表示されます。

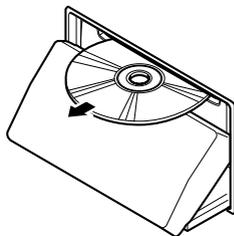
音楽データの切り換えについて

WMA/MP3/AAC/WAVファイルと、音楽データが混在しているディスクの場合、BANDボタンを押して、WMA/MP3/AAC/WAVファイルと音楽データを切り換えて再生することができます。WMA/MP3/AAC/WAVファイルと音楽データを切り換えた場合、再生は一番先頭の曲から始まります。

5 CD-ROMを取り出してCD-ROM再生をやめる

CD EJECT ボタンを押す

フロントパネルが自動的に開き、CD-ROMが出てきます。



出てきたCD-ROMはすぐに取り出して、保管してください。

CD EJECT ボタンを押す

フロントパネルが閉まります。

CD挿入口にゴミやホコリが入るのを防ぐため、フロントパネルを閉めてください。

ここだけで 4 MD のふだんの操作

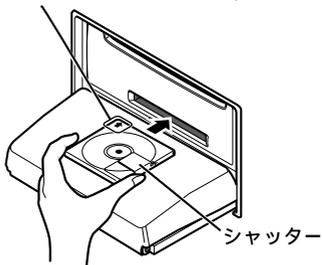
MD を再生する グループを選ぶ

ここだけの操作で、内蔵のMDプレーヤーでMDを聞くことができます。

1 MD を再生する

MD EJECT ボタンを押す
フロントパネルが開きます。

MD を MD 挿入口に差し込む
MD のラベル面を上にして差し込みます。
矢印の向きに差し込みます。



確認

MDのシャッターが閉まっていることを確認してから差し込んでください。

自動的にフロントパネルが開まり、MDの再生が始まります。

⚠ 注意



手を挟まれない
よう注意

フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。



フロントパネルを開けたまま、走行しないでください。急ブレーキ時にフロントパネルに体が当たったりして、思わぬケガをすする恐れがあります。

2 聞きたいグループを選ぶ (グループディスクの場合)

- ▲または▼ ボタンを押す
- ▲ : 次のグループを選ぶとき
- ▼ : 前のグループを選ぶとき

グループ番号



3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

- ◀または▶ ボタンを押す
- ▶ : 次の曲を選ぶとき (または早送り)
- ◀ : 前の曲を選ぶとき (または早戻し)

長時間再生表示

曲番号



再生経過時間

選曲と早送り/早戻しの使い分け

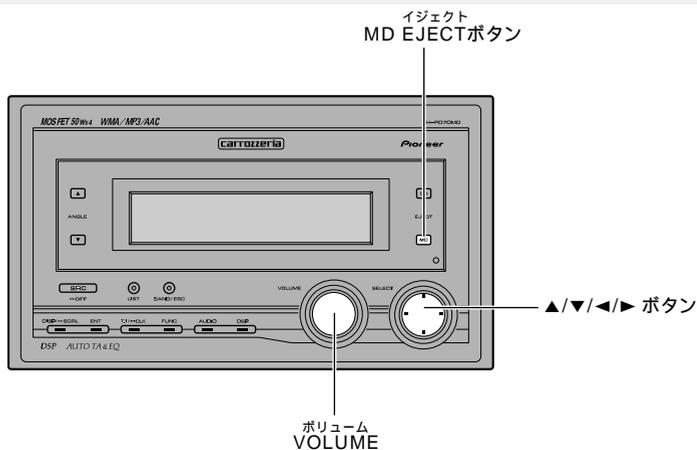
聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5秒以上押し 続けている間

2倍長時間録音のMD再生時は“×2”が、
4倍長時間録音のMD再生時は“×4”が
表示されます。

メモ

MDをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース(ラジオやCDなど)に切り換えることもできます。(P.20) 20ページ
MD挿入口には、MD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。

ここだけ読めば
すぐ使えます



4 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出きます。

もう一度押すと、元に戻ります。

VOLUME を右または左に回す

右に回す：大きくするとき

左に回す：小さくするとき

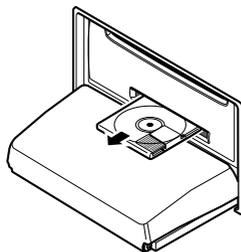
音量は0～40の範囲で調節できます。

約4秒間、音量が表示されます。

5 MDを取り出して MD再生をやめる

MD EJECT ボタンを押す

フロントパネルが自動的に開き、MDが出てきます。



出てきたMDはすぐに取り出して、保管してください。

MD EJECT ボタンを押す

フロントパネルが閉まります。

ここだけの操作で、ラジオを聞くことができます。

1 ソースをラジオにする

SOURCE ボタンを押して選ぶ
ラジオを受信します。

バンド表示

ステレオ表示



受信周波数

ステレオ放送を受信すると、ステレオ表示が点灯します。

2 バンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

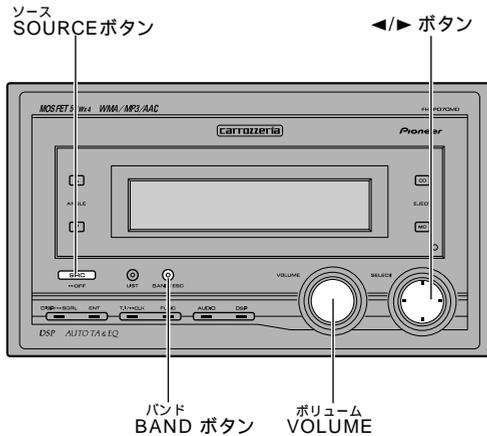
BAND ボタンを押すごとに、次のようにバンドが切り換わります。

FM-1 FM-2 AM-1 AM-2
FM-1 に戻る

バンドごとに放送局を6局ずつ記憶できます。(ラジオ ② 54、55 ページ)

バンド1とバンド2を切り換えて使うことでより多くの放送局を記憶できます。例えば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を記憶させておきます。旅行先など、どんな放送局があるのか知らない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSM (ラジオ ② 54 ページ) を使うと便利です。バンド1に記憶させた放送局を消さずに済みます。

ここだけ読めば
すぐ使えます



3 放送局を選局する

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 高い周波数の放送局を選局するとき
- ◀ : 低い周波数の放送局を選局するとき

選局方法の使い分け

手動選局 (1ステップずつ)	0.5秒未満
自動選局	0.5秒以上

0.5秒以上押し続けている間、途中の放送局をとばすことができます。ボタンを離れたところから自動選局を開始します。電波の強い放送局を選局するには、自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには、手動選局をおすすめします。

4 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。

もう一度押すと、元に戻ります。

VOLUME を右または左に回す

右に回す：大きくするとき

左に回す：小さくするとき

音量は0～40の範囲で調節できます。

約4秒間、音量が表示されます。

5 ラジオの受信をやめる

他のソースに切り換えるか、電源OFFにする (E) ここだけで① 20ページ

ここだけで

6

マルチCDのふだんの操作

CDを選ぶ

曲を選ぶ

ここだけの操作で、別売のマルチCDプレーヤーでCDを聞くことができます。

1 ソースを マルチCDにする

SOURCE ボタンを押して選ぶ
マルチCDの再生が始まります。

2 聞きたいCDを選ぶ

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ : 次のCDを選ぶとき

▼ : 前のCDを選ぶとき



3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀ または ▶ ボタンを押す

▶ : 次の曲を選ぶとき (または早送り)

◀ : 前の曲を選ぶとき (または早戻し)



再生経過時間

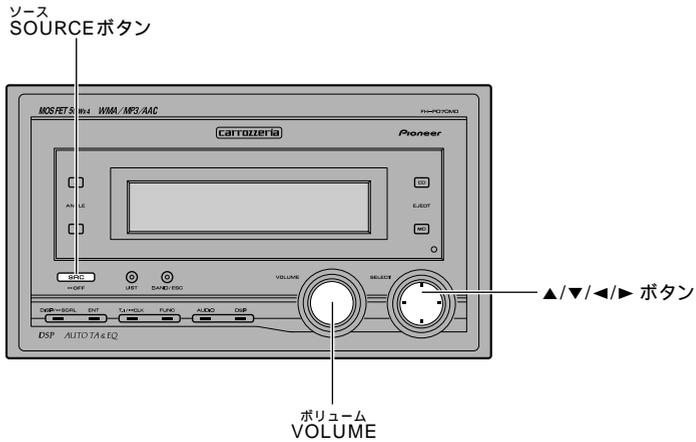
選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5秒以上押し 続けている間

メモ

マルチCDが準備動作 (CDの有無の確認やCDの情報の読み込みなど) をしている場合があります。このとき、ソースをマルチCDに切り換えると“Ready”が表示されます。

マルチCD再生中にマルチCDからマガジンを取り出すと、“NO MAGAZINE”と表示されます。



4 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。

もう一度押すと、元に戻ります。

VOLUME を右または左に回す

右に回す：大きくするとき

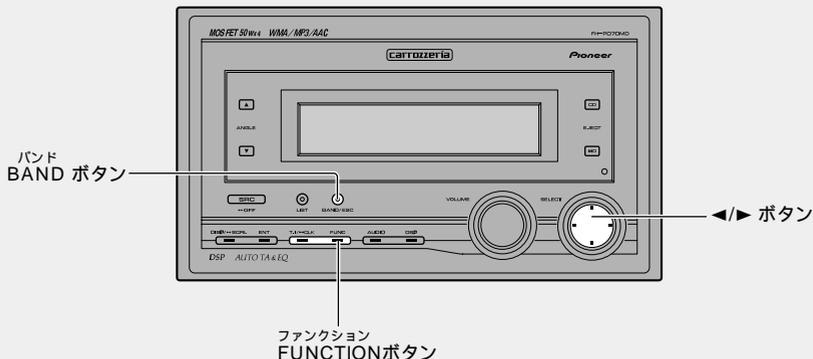
左に回す：小さくするとき

音量は0～40の範囲で調節できます。

約4秒間、音量が表示されます。

5 マルチ CD 再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源 OFF にする (☞ ここだけで① 20ページ)



内蔵CD
1

聞きたい曲を 直接選ぶ

ダイレクトサーチ

リモコンを使って、聞きたい曲を直接選ぶことができます。

1

曲番号入力画面を表示する

リモコンのDIRECT ボタンを押す
(☞ はじめに① 9 ページ)

2

聞きたい曲の番号を入力する

リモコンの数字ボタンを押す



3

聞きたい曲を再生する

リモコンのDIRECT ボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

曲番号入力画面は、約8秒間何も操作しないと解除されます。
リモコンのCLEAR ボタンを押すと、入力した番号を消去することができます。

内蔵CD
2

モードの切り換えかた

ファンクションモードの切り換え

1

ファンクションモードを 切り換える

FUNCTION ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

再生範囲切換モード (☞ 内蔵CD③)



ランダムプレイ設定モード
(☞ 内蔵CD④ 34 ページ)



スキャンプレイ設定モード
(☞ 内蔵CD⑤ 34 ページ)



ポーズ設定モード (☞ 内蔵CD⑥ 35 ページ)



コンプレッション設定モード
(☞ 内蔵CD⑦ 36 ページ)



ラフサーチ設定モード
(☞ 内蔵CD⑧ 37 ページ)



再生範囲切換モードに戻る

メモ

ファンクションモードを解除するには、BAND ボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)

今聞いている曲を繰り返し聞き聞かすことができます。

再生範囲について

再生範囲 (繰り返し聞く範囲) は、次の中から選ぶことができます。

再生範囲	リピート再生の内容
トラックリピート	再生中の曲を繰り返し再生します。
ディスクリピート	本機にセットされているディスクを通して再生します。(通常はこのモードにしておきます。)

詳細設定モードの切り換え

1 詳細設定モードにする

FUNCTION ボタンを 2 秒以上押す
タイトル入力モードになります。
(内蔵 CD ⑩ 38 ページ)

メモ

詳細設定モードを解除するには、BAND ボタンを押します。

「CD TEXT」を再生しているときは、詳細設定モードに切り換わりません。(「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは変更できません。)

1 再生範囲切換モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ
(内蔵 CD ②)

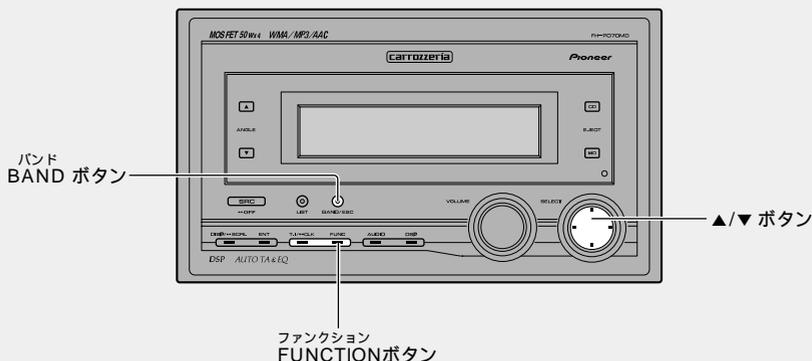
2 再生範囲を切り換える

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに、Disc (ディスクリピート) と Track (トラックリピート) が切り換わります。



BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。



内蔵CD
4

いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲をCDプレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順(ランダム)で再生することができます。

1 ランダムプレイ設定モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ
(内蔵CD② 32 ページ)

2 ランダム再生をONにする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンでOFF)



次の曲から、ランダムに選曲します。

BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

内蔵CD
5

聞きたい曲をさがす

スキャン再生

曲の出だし部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。

1 スキャンプレイ設定モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ
(内蔵CD② 32 ページ)

2 スキャン再生を始める

▲ ボタンを押す



曲の出だしの約10秒間が次々に再生されます。

スキャン再生を始めて約30秒たつと、自動的にファンクションモードが解除されます。

CD再生を一時停止することができます。

3 聞きたい曲が再生されたら スキャン再生をOFFにする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、まず手順1の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてください。次に、スキャン再生をOFFにします。

スキャンプレイ設定モードのときに、▼ボタンを押す



BANDボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

スキャン再生を始めた曲まで戻るとスキャン再生は解除されます。

1 ポーズ設定モードにする

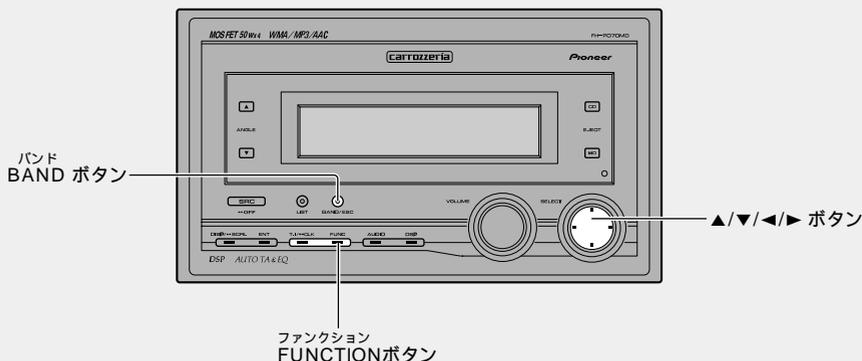
FUNCTIONボタンを押して選ぶ
(内蔵CD ② 32ページ)

2 CD再生を一時停止する

▲ボタンを押す (▼ボタンで再生)



BANDボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。



内蔵CD 7 CDの音質を調節する

COMP/BMX

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、残響音を補正することができます。

COMPについて

COMPは、COMPreSSION (コンプレッション) の略です。大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

BMXについて

BMXは、Bit Metrix (ビット メトリックス) の略です。音楽の残響音を補正し、自然な広がりを持った音質に改善する機能です。WMA/MP3などの残響音の成分を補正し、本来の音質を再現することができます。

1 コンプレッション設定モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ
(48 内蔵CD ② 32 ページ)

2 機能を選ぶ

▲または▼ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

OFF	→	COMP 1
↑		↓
BMX 2		COMP 2
↑		↓
BMX 1	←	OFF



現在のCOMP/BMXの状態が表示されます。

BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

COMP、BMXともに1より2の方が効果が大きくなります。

内蔵CD

8

選曲方法を切り換える

◀または▶ ボタンを押し続けたときに、早送り/早戻しにするか、10曲飛びに選曲するラフサーチにするかを選ぶことができます。

1 ラフサーチ設定モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ

(☞ 内蔵CD② 32ページ)

2 選曲方法を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

▶ : Rough (ラフサーチ) を選ぶとき

◀ : FF/REV (早送り/早戻し) を選ぶとき



BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

内蔵CD

9

10曲飛びに選曲する

ラフサーチ

10曲以上収録されているディスクの場合、10曲飛びに選曲することができます。

1 ラフサーチ設定モードにしてラフサーチを選ぶ

(☞ 内蔵CD⑧)

2 聞きたい曲を選ぶ

◀または▶ ボタンを0.5秒以上押す

▶ : 10曲先の曲を選ぶとき

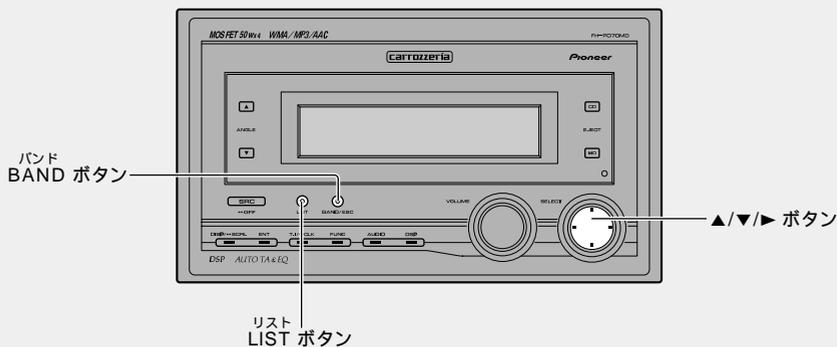
◀ : 10曲前の曲を選ぶとき



曲番号

メモ

10曲以下のディスクでラフサーチを行うと、最初の曲と最後の曲が選択されます。ラフサーチ後に残りの曲が10曲以下になった場合も同様です。



内蔵CD
10

CDのタイトルなどを表示する

タイトル表示

CDのタイトルを表示するために、あらかじめタイトルを入力して記憶させておきます。

タイトル表示について

タイトル表示は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。タイトルを入力しておくこと、CD再生時に入力したタイトルが表示されます。

タイトルの記憶および表示のしかたは、マルチCDと同じです。(P.64、69ページ)

「CD TEXT」を再生したときのタイトルの表示のしかたは、マルチCDと同じです。

(P.70ページ)

タイトルは、10文字まで入力できます。

内蔵CDのタイトルは、48枚分の記憶ができます。

48枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

タイトルを記憶させたCDをマルチCDにセットしたときは、ディスプレイにタイトルを表示させることができます。

マルチCDを組み合わせると、最大100枚分のタイトルを記憶することができます。

「CD TEXT」(P.13ページ)には、タイトル入力することはできません。

内蔵CD
11

聞きたい曲を一覧からさがす

トラックリスト

「CD TEXT」再生中に、曲名の一覧(トラックリスト)を見ながら聞きたい曲をさがすことができます。

1 トラックリストモードにする

LIST ボタンを押す

2 聞きたい曲を表示する

▲または▼ボタンを押す
ボタンを押すごとに、選択される曲名が切り換わります。



再生中の曲。反転表示されます。

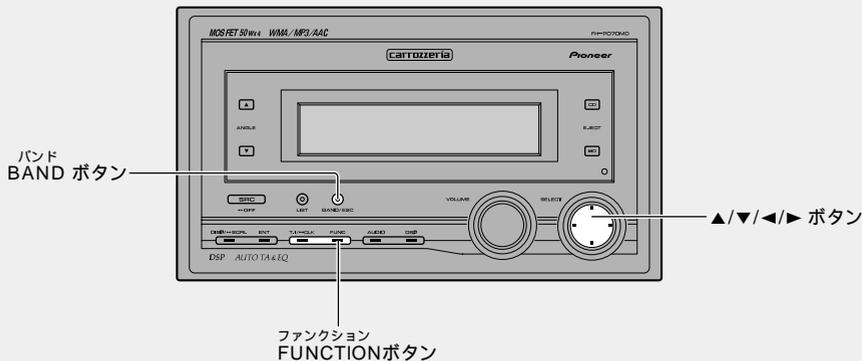
3 聞きたい曲を再生する

聞きたい曲が選択されているときに、▶ ボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

BAND ボタンを押して、トラックリストモードを解除してください。

メモ

「CD TEXT」に曲名が収録されていないときは、「No T. Title」と表示されます。トラックリストモードは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。



WMA/MP3/AAC/WAV 1 聞きたい曲を直接選ぶ

ダイレクトサーチ

リモコンを使って、今聞いているフォルダー内で聞きたい曲を直接選ぶことができます。

1 曲番号入力画面を表示する

リモコンのDIRECT ボタンを押す
(☞ はじめに① 9 ページ)

2 聞きたい曲の番号を入力する

リモコンの数字ボタンを押す



3 聞きたい曲を再生する

リモコンのDIRECT ボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

曲番号入力画面は、約8秒間何も操作しないと解除されます。
リモコンのCLEAR ボタンを押すと、入力した番号を消去することができます。

WMA/MP3/AAC/WAV 2 モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードを切り換える

FUNCTION ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

- 再生範囲切換モード
(☞ WMA/MP3/AAC/WAV⑤)
- ↓
- ランダムプレイ設定モード
(☞ WMA/MP3/AAC/WAV④)
- ↓
- スキランプレイ設定モード
(☞ WMA/MP3/AAC/WAV⑤ 42 ページ)
- ↓
- ポーズ設定モード
(☞ WMA/MP3/AAC/WAV⑥ 43 ページ)
- ↓
- コンプレッション設定モード
(☞ WMA/MP3/AAC/WAV⑦ 43 ページ)
- ↓
- ラフサーチ設定モード
(☞ WMA/MP3/AAC/WAV⑧ 44 ページ)
- ↓
- 再生範囲切換モードに戻る

メモ

ファンクションモードを解除するには、BAND ボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)

WMA/MP3/
AAC/WAV

3

同じ曲やフォルダーを繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲や1つのフォルダーなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲（繰り返し聞く範囲）は、次の中から選ぶことができます。

再生範囲	リピート再生の内容
トラックリピート	再生中の曲を繰り返し再生します。
フォルダーリピート	再生中のフォルダーを繰り返し再生します。
ディスクリピート	本機にセットされているディスクを通して再生します。 (通常はこのモードにしておきます。)

1 再生範囲切換モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ

(WMA/MP3/AAC/WAV ②)

2 再生範囲を切り換える

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



Disc (ディスクリピート)



Track (トラックリピート)



Folder (フォルダーリピート)



Disc に戻る

BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

フォルダーリピートは、再生中のフォルダー内の曲 (WMA/MP3/AAC/WAV ファイル) だけを再生します。サブフォルダー内の曲は再生されません。

WMA/MP3/
AAC/WAV

4

いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲をCDプレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ

(WMA/MP3/AAC/WAV ③)

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ランダムプレイ設定モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ

(WMA/MP3/AAC/WAV ②)

3 ランダム再生をONにする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンでOFF)

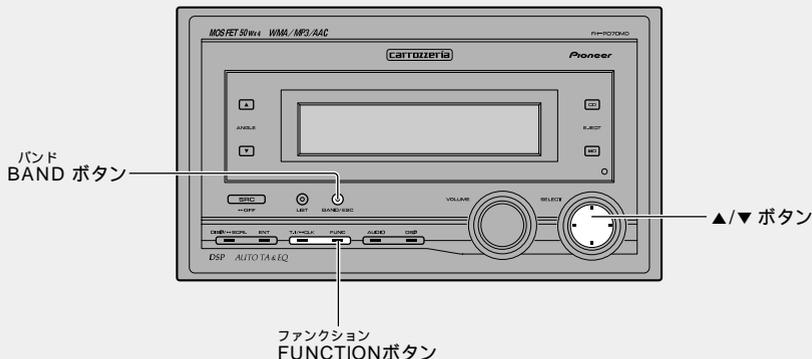


次の曲から、ランダムに選曲します。

BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

トラックリピートのときにランダム再生をONにすると、再生範囲がフォルダーリピートに切り換わります。



WMA/MP3/AAC/WAV 5 聞きたい曲やフォルダーをさがす

スキャン再生

今聞いているフォルダーの曲の出だし部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、全フォルダーの1曲目の出だし部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ

(WMA/MP3/AAC/WAV ④ 41 ページ)

聞きたい曲をさがすとき
(トラックスキャン再生)

再生範囲をフォルダーリピートに切り換えます。再生中のフォルダーの全曲を、約10秒ずつ再生できます。

聞きたいフォルダーをさがすとき
(フォルダースキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。ディスク内のすべてのフォルダーの1曲目だけを、約10秒ずつ再生できます。

曲の出だしの約10秒間が次々に再生されます。

スキャン再生を始めて約30秒たつと、自動的にファンクションモードが解除されます。

4 聞きたい曲(フォルダー)が再生されたらスキャン再生をOFFにする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、まず手順2の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてください。次に、スキャン再生をOFFにします。

スキャンプレイ設定モードのときに、▼ボタンを押す



2 スキャンプレイ設定モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ
(WMA/MP3/AAC/WAV ② 40 ページ)

3 スキャン再生を始める

▲ボタンを押す



BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

スキャン再生を始めた曲(またはフォルダー)まで戻ると、スキャン再生は解除されます。トラックリピートのときに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がフォルダーリピートに切り換わります。

WMA/MP3/AAC/WAV
再生を一時停止する

ポーズ

WMA/MP3/AAC/WAV再生を一時停止することができます。

1 ポーズ設定モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ
(WMA/MP3/AAC/WAV ② 40 ページ)

2 WMA/MP3/AAC/WAV
再生を一時停止する

▲ ボタンを押す (▼ ボタンで再生)



BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

WMA/MP3/AAC/
WAVの音質を調節する

COMP/BMX

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、残響音を補正することができます。

COMP について

COMPは、COMPression (コンプレッション) の略です。大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

BMX について

BMXは、Bit Matrix (ビット メトリックス) の略です。音楽の残響音を補正し、自然な広がりを持った音質に改善する機能です。WMA/MP3などの残響音の成分を補正し、本来の音質を再現することができます。

1 コンプレッション設定
モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ
(WMA/MP3/AAC/WAV ② 40 ページ)

2 機能を選ぶ

▲ または ▼ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

OFF	→	COMP 1
↑		↓
BMX 2		COMP 2
↑		↓
BMX 1	←	OFF

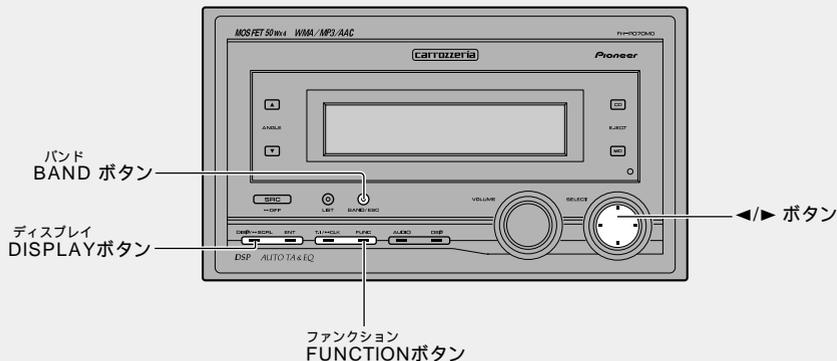


現在のCOMP/BMXの状態が表示されます。

BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

COMP、BMXともに1より2の方が効果が大きくなります。



WMA/MP3/AAC/WAV 8 選曲方法を切り換える

◀または▶ ボタンを押し続けたときに、早送り/早戻しにするか、10曲飛びに選曲するラフサーチにするかを選ぶことができます。

1 ラフサーチ設定モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ
(WMA/MP3/AAC/WAV ② 40 ページ)

2 選曲方法を選ぶ

- ◀または▶ ボタンを押す
- ▶ : Rough (ラフサーチ) を選ぶとき
- ▶ : FF/REV (早送り/早戻し) を選ぶとき



BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

WMA/MP3/AAC/WAV 9 フォルダー内の曲を10曲飛びに選曲する

ラフサーチ

10曲以上収録されているフォルダーの場合、10曲飛びに選曲することができます。

1 ラフサーチ設定モードにしてラフサーチを選ぶ

(WMA/MP3/AAC/WAV ⑧)

2 聞きたい曲を選ぶ

- ◀または▶ ボタンを 0.5 秒以上押す
- ▶ : 10曲先の曲を選ぶとき
- ▶ : 10曲前の曲を選ぶとき



曲番号

メモ

10曲以下のフォルダーでラフサーチを行うと、最初の曲と最後の曲が選曲されます。ラフサーチ後に残りの曲が10曲以下になった場合も同様です。

WMA/MP3/AAC/WAVファイルに記録された、曲名やフォルダー名、アルバム名などの文字情報のほか、ビットレートなどを表示させることができます。一度に表示可能なのは、全角で11文字、半角で22文字までです。また、隠れている文字はスクロールさせて見ることができます。

表示の切り換え

1 表示を切り換える

DISPLAY ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

WMA/MP3/AACの場合

上段：
下段：ビットレートと再生経過時間表示



上段：
下段：フォルダー名



上段：
下段：ファイル名



上段：
下段：トラックタイトル



上段：
下段：トラックアーティストネーム



上段：
下段：アルバムタイトル



上段：フォルダー名
下段：ファイル名



上段：トラックタイトル
下段：トラックアーティストネーム



上段：
下段：ビットレートと再生経過時間表示
に戻る

WAVの場合

上段：
下段：サンプリング周波数と再生経過時間表示



上段：
下段：フォルダー名



上段：
下段：ファイル名



上段：フォルダー名
下段：ファイル名



上段：
下段：サンプリング周波数と再生経過時間表示
に戻る

メモ

曲名などが収録されていないCDで表示を切り換えると、“No track name”などと表示されます。
WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
VBR（可変ビットレート）で記録されたMP3ファイルを再生中に、表示をビットレート表示に切り換えた場合、“VBR”と表示されます。
VBR（可変ビットレート）で記録されたWMAファイルを再生中に、表示をビットレート表示に切り換えた場合、平均ビットレートが表示されます。
AACファイルをライティングしたiTunesのバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
表示をビットレート（サンプリング周波数）と再生経過時間以外に切り換えたときに、自動的に1回スクロール表示します。

隠れている文字の表示

1 隠れているタイトルを表示する

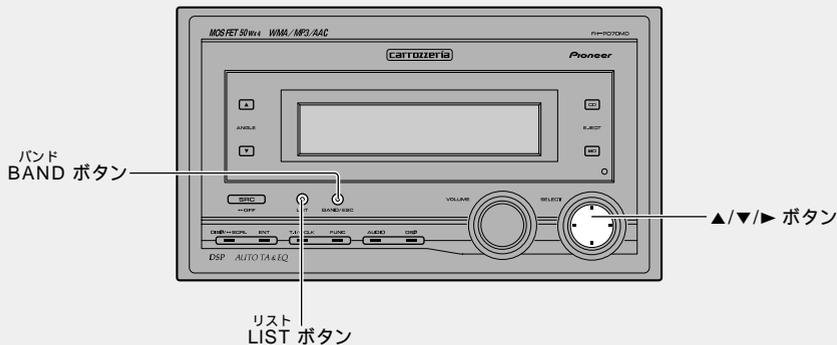
DISPLAY ボタンを2秒以上押す



隠れている文字が順番に表示されます。

メモ

初期設定で連続スクロール機能をONにした場合、タイトルが繰り返しスクロールして表示されます。タイトルの最初を表示させて、再びスクロールさせたいときは、DISPLAY ボタンを2秒以上押してください。連続スクロールについては(※) 便利な機能 122 ページ)



WMA/MP3 / AAC/WAV
11

聞きたいフォルダーや曲を一覧からさがす

フォルダー/ファイルリスト

名前の一覧(フォルダー/ファイルリスト)を見ながら、聞きたいフォルダーや曲をさがすことができます。

1 フォルダー/ファイルリストモードにする

LIST ボタンを押す

2 聞きたいフォルダーや曲(ファイル)を表示する

▲または▼ボタンを押す

ボタンを押すごとに、選択されるフォルダーや曲(ファイル)の表示が切り換わります。

項目がフォルダーのときに表示されます。 選択中の曲



再生中の曲。反転表示されます。

3 聞きたい曲が入っているフォルダーの中身を表示する

フォルダーが選択されているときに、▶ボタンを押す

選んだフォルダーに収録されているフォルダーや曲(ファイル)の一覧が表示されます。

4 聞きたいフォルダーや曲を再生する

フォルダーを再生するとき

聞きたいフォルダーが選択されているときに、▶ボタンを2秒以上押すフォルダー内のはじめの曲から再生されます。

曲(ファイル)を再生するとき

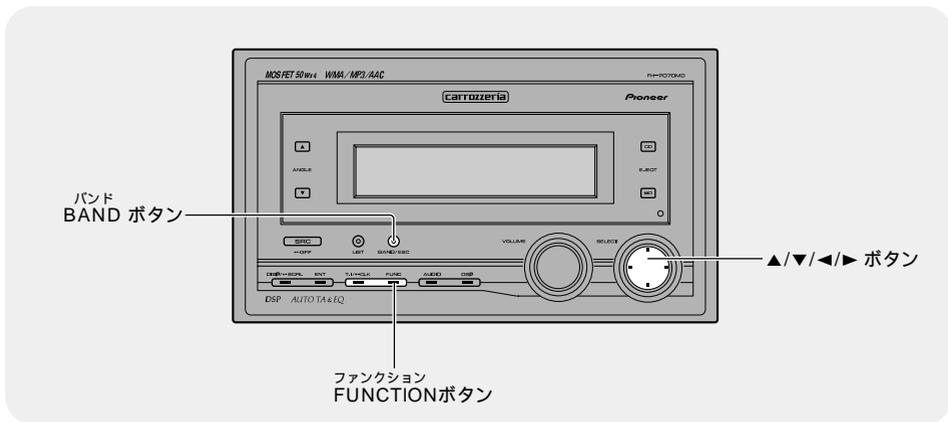
聞きたい曲(ファイル)が選択されているときに、▶ボタンを押す曲(ファイル)が再生されます。

BAND ボタンを押して、フォルダー/ファイルリストモードを解除してください。

メモ

◀ボタンを押すと、1つ前のリスト(1階層上のフォルダー)に戻ります。ファイルリストは、必ず「ROOT」から表示されます。フォルダー内に再生できるファイルがない場合、▶ボタンを押しても効果はありません。フォルダー/ファイルリストモードは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。収録ファイル数が多く、リスト番号が3桁になる場合は、下2桁だけが表示されます。

WMA / MP3 / AAC / WAV を聞く



内蔵MD 1 聞きたい曲を直接選ぶ

ダイレクトサーチ

リモコンを使って、聞きたい曲を直接選ぶことができます。

1 曲番号入力画面を表示する

リモコンのDIRECTボタンを押す
(☞ はじめに ① 9 ページ)

2 聞きたい曲の番号を入力する

リモコンの数字ボタンを押す



3 聞きたい曲を再生する

リモコンのDIRECTボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

曲番号入力画面は、約8秒間何も操作しないと解除されます。
リモコンのCLEARボタンを押すと、入力した番号を消去することができます。

内蔵MD 2 モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードを切り換える

FUNCTIONボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

- 再生範囲切替モード (☞ 内蔵MD ③)
- ↓
- ランダムプレイ設定モード (☞ 内蔵MD ④)
- ↓
- スキランプレイ設定モード (☞ 内蔵MD ⑤ 50 ページ)
- ↓
- ポーズ設定モード (☞ 内蔵MD ⑥ 51 ページ)
- ↓
- 再生範囲切替モードに戻る

メモ

ファンクションモードを解除するには、BANDボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)

内蔵 MD

3

同じ曲やグループを 繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞くことができます。グループディスクの場合、今聞いている曲や1つのグループなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲（繰り返し聞く範囲）は、次の中から選ぶことができます。

再生範囲	リピート再生の内容
トラックリピート	再生中の曲を繰り返し再生します。
グループリピート	再生中のグループを繰り返し再生します。
ディスクリピート	本機にセットされているディスクを通して再生します。（通常は、このモードにしておきます。）

1 再生範囲切換モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ
( 内蔵 MD②)

2 再生範囲を切り換える

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



Disc (ディスクリピート)

↓

Track (トラックリピート)

↓

Group (グループリピート)

↓

Disc に戻る

BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

グループディスクを再生しているときだけ、Group (グループリピート) に切り換わります。

内蔵 MD

4

いつもと違う曲順で 聞く

ランダム再生

選曲を MD プレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

1 グループディスクの場合、再生範囲 切換モードにして再生範囲を選ぶ

( 内蔵 MD③)

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ランダムプレイ設定 モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ
( 内蔵 MD②)

3 ランダム再生を ON にする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンで OFF)

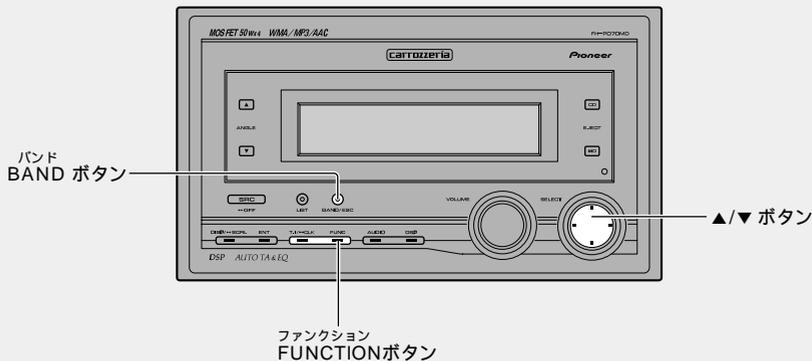


次の曲から、ランダムに選曲します。

BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

グループディスクの場合、トラックリピートのときにランダム再生を ON にすると、再生範囲がグループリピートに切り換わり、ランダム再生します。



内蔵MD

5

聞きたい曲やグループをさがす

スキャン再生

曲の出だし部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。グループディスクの場合、今聞いているグループの曲の出だし部分だけを次々に聞くことができます。また、全グループの1曲目の出だし部分だけを次々に聞くこともできます。

1 グループディスクの場合、再生範囲 切換モードにして再生範囲を選ぶ

(内蔵MD④ 49ページ)

聞きたい曲をさがすとき
(トラックスキャン再生)

再生範囲をグループリピートに切り換えます。再生中のグループの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。

聞きたいグループをさがすとき
(グループスキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。ディスク内の全グループの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 スキャンプレイ設定 モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ
(内蔵MD② 48ページ)

3 スキャン再生を始める

▲ ボタンを押す



曲の出だしの約10秒間が次々に再生されます。

スキャン再生を初めて約30秒たつと、自動的にファンクションモードが解除されます。

MD 再生を一時停止することができます。

1 ポーズ設定モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ
( 内蔵 MD② 48 ページ)

2 MD 再生を一時停止する

▲ ボタンを押す (▼ ボタンで再生)



BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

4 聞きたい曲 (グループ) が再生されたらスキャン再生を OFF にする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、まず手順2の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてください。次に、スキャン再生を OFF にします。

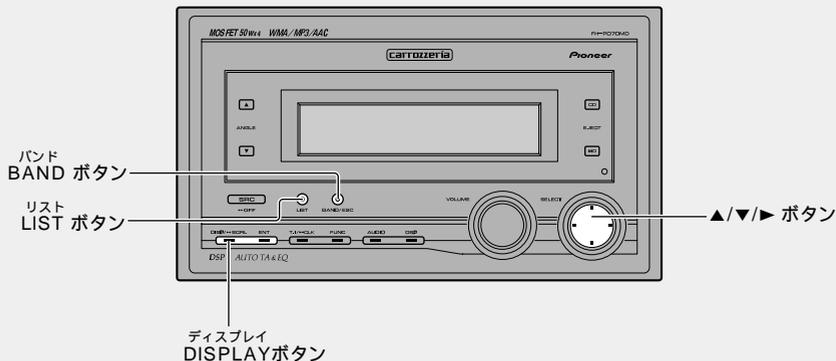
スキャンプレイ設定モードのときに、▼ ボタンを押す



BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

スキャン再生を始めた曲 (またはグループ) まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
グループディスクの場合、トラックリピートのときにスキャン再生を ON にすると、再生範囲がグループリピートに切り換わり、スキャン再生します。



内蔵MD

7

MDのタイトルなどを表示する

タイトル表示 / タイトルスクロール

再生経過時間以外に、ディスクタイトルやトラックタイトル (曲名) などを表示させることができます。一度に表示可能なのは、全角で11文字、半角で22文字までです。また、隠れている文字はスクロールさせて見ることができます。

タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけではなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。MDに漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

本機では、MDの録音方式にかかわらずトラックタイトル先頭の「:LP」を表示しません。(録音ははじめに③ 13ページ)
(長時間録音されたトラックタイトルの先頭には、「:LP」があらかじめ入力されている場合があります。)

メモ

ディスクタイトルなどが入力されていないMDで表示を切り換えると、“No disc data” などと表示されます。

表示を再生経過時間以外に切り換えたときに、自動的に1回スクロール表示します。

表示の切り換え

1 表示を切り換える

DISPLAY ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

グループディスク以外の場合

上段:
下段: 再生経過時間表示



上段:
下段: ディスクタイトル



上段:
下段: トラックタイトル



上段: ディスクタイトル
下段: トラックタイトル



上段:
下段: 再生経過時間表示
に戻る

グループディスクの場合

上段：
下段：再生経過時間表示
↓

上段：
下段：ディスクタイトル
↓

上段：
下段：グループタイトル
↓

上段：
下段：トラックタイトル
↓

上段：ディスクタイトル
下段：トラックタイトル
↓

上段：グループタイトル
下段：トラックタイトル
↓

上段：
下段：再生経過時間表示
に戻る

1 グループ/トラックリスト
モードにする

LIST ボタンを押す

グループディスクの場合

グループリストが表示されます。ボタンをもう一度押すと、トラックリストが表示されます。

グループディスク以外の場合

トラックリストが表示されます。

2 聞きたいグループや曲を
表示する

▲または▼ボタンを押す

ボタンを押すごとに、選択されるグループまたは曲が切り換わります。

選択中の曲



再生中の曲。反転表示されます。

3 聞きたいグループや曲を
再生する

聞きたいグループまたは曲が選択されているときに、▶ボタンを押すグループまたは曲が再生されます。

BAND ボタンを押して、グループ/トラックリストモードを解除してください。

隠れている文字の表示

1 隠れているタイトルを
表示する (スクロール表示)

DISPLAY ボタンを 2 秒以上押す



隠れている文字が順番に表示されます。

メモ

初期設定で連続スクロール機能を ON にした場合、タイトルが繰り返しスクロールして表示されます。タイトルの最初を表示させて、再びスクロールさせたいときは、DISPLAY ボタンを 2 秒以上押してください。連続スクロールについては (P.122) 便利な機能 122 ページ

メモ

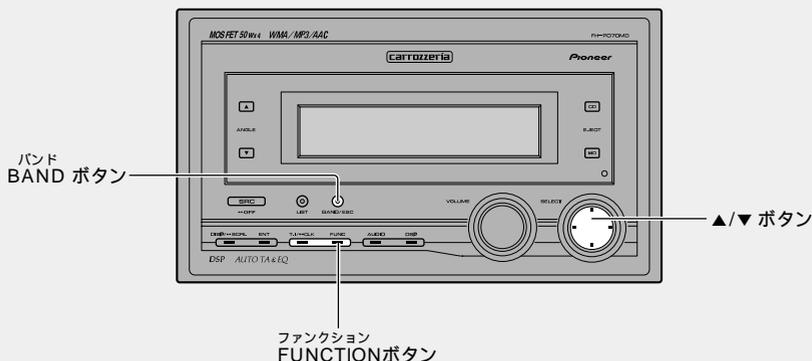
グループリストの場合は、♪ の代わりに □ が表示されます。

グループの再生は、グループ内のはじめの曲から始まります。

トラックタイトル (曲名) などが収録されていないときは、“No Data” などと表示されます。

グループ/トラックリストモードは、30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

収録ファイル数が多く、リスト番号が 3 桁になる場合は、下 2 桁だけが表示されます。

ラジオ
1

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

ファンクションモードの切り換え

1 ファンクションモードにする

FUNCTION ボタンを押す

BSMモード (ラジオ②) になります。

メモ

ファンクションモードを解除するには、BAND ボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)

1 詳細設定モードにする

詳細設定モードの切り換え

FUNCTION ボタンを2秒以上押す

放送局名選択モードになります。

(ラジオ⑥ 56ページ)

メモ

詳細設定モードを解除するには、BAND ボタンを押します。

ラジオ
2

複数の放送局を自動的に記憶させる

BSM

受信状態の良い放送局をさがして、自動的に1～6の記憶番号に記憶させることができます。

1 記憶させるバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

(ラジオ② ここだけで② 28ページ)

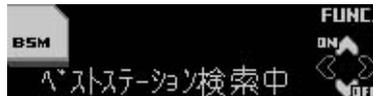
2 BSMモードにする

FUNCTION ボタンを押す

(ラジオ①)

3 BSMを始める

▲ ボタンを押す (▼ ボタンで途中解除)



記憶が終わると点滅が止まり、1の記憶番号に記憶した放送局を受信します。

BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

受信状態の良い放送局が、6局より少ないときは、前の記憶が残ることがあります。BSMとは、Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー)の略です。記憶させた放送局を呼び出すには (ラジオ④)

放送局を 1局ずつ記憶させる

プリセットメモリー

リモコンを使って、お好みの放送局を1局ずつ手動で記憶させることができます。

1 記憶させるバンドを選ぶ

リモコンのBANDボタンを押す
(☞ はじめに① 9ページ)

2 記憶させたい放送局を選局する

リモコンのジョイスティックを左右に操作する
(☞ はじめに① 9ページ)

3 記憶させる

リモコンにある1～6のボタンの1つを2秒以上押す



押したボタンの番号(記憶番号)が点滅します。



記憶が完了すると点滅が終わり、押したボタンの番号に受信中の放送局が記憶されます。

メモ

本体の▶ボタンで放送局を記憶することもできます。(☞ ラジオ⑤ 56ページ)
記憶させた放送局を呼び出すには(☞ ラジオ④)

記憶させた放送局を 呼び出す

プリセットチューニング

記憶させた放送局は、簡単に呼び出すことができます。

本体で操作する場合

1 記憶させたバンドを選ぶ

BANDボタンを押す
(☞ ここだけで⑤ 28ページ)

2 記憶させた放送局を呼び出す

- ▲または▼ボタンを押す
- ▲：次の記憶番号の放送局を呼び出すとき
- ▼：前の記憶番号の放送局を呼び出すとき



受信中の記憶番号

リモコンで操作する場合

1 記憶させたバンドを選ぶ

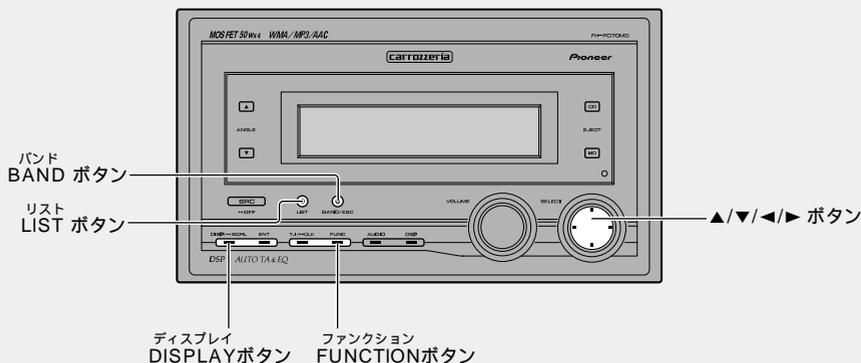
リモコンのBANDボタンを押す
(☞ はじめに① 9ページ)

2 記憶させた放送局を呼び出す

記憶させた放送局を直接呼び出す
リモコンの1～6のボタンの1つを押す
記憶させた放送局を順番に呼び出す
ジョイスティックを上下に操作する
上：次の記憶番号の放送局を呼び出すとき
下：前の記憶番号の放送局を呼び出すとき



受信中の記憶番号



ラジオ
5

聞きたい放送局を一覧からさがす

ステーションリスト

1 ~ 6 の記憶番号に記憶させた放送局を、放送局名の一覧(ステーションリスト)の中からさがすことができます。

1 ステーションリストモードにする

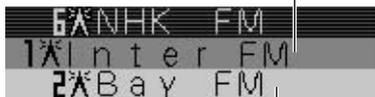
LIST ボタンを押す

2 聞きたい放送局を表示する

▲ または ▼ ボタンを押す

ボタンを押すごとに、選択される放送局が切り換わります。

選択中の放送局



受信中の放送局。反転表示されます。

3 聞きたい放送局を選ぶ

聞きたい放送局が選択されているときに、▶ ボタンを押す
選択した放送局を受信します。

BAND ボタンを押して、ステーションリストモードを解除してください。

メモ

表示されている放送局名が受信している放送局と異なる場合、放送局名を変更できます。(ラジオ⑥) 放送局名が登録されていない放送局の場合、周波数が表示されます。

ステーションリストモードは、30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

▶ ボタンを 2 秒以上押すと、受信中の放送局が選択中の記憶番号に記憶されます。

ラジオ
6

放送局名を選ぶ

放送局名選択

受信している放送局に合わせて、表示する放送局名を選ぶことができます。

放送局名について

同じ周波数でも、受信する放送局は地域によって違います。表示される放送局名は、受信している放送局のものとは異なる場合に変更することができます。

注意

本機に登録されていない放送局名は選べません。

1 実際の放送局名と表示が異なる場合、放送局名選択モードにする

FUNCTION ボタンを 2 秒以上押す

注意

現在受信している周波数以外の放送局名を変更することはできません。別の周波数の放送局名を変更したい場合、その周波数を受信して(ラジオ⑥) ②9 ページ) から放送局名選択モードにしてください。

受信周波数以外に、放送局名選択で選んだ放送局名を表示させることができます。

2 放送局名を選ぶ

◀ または ▶ ボタンを押す

▶ : 次の放送局名を選ぶとき

◀ : 前の放送局名を選ぶとき



3 選んだ放送局名に変更する

▲ ボタンを押す

選んだ放送局名に変更されます。

BAND ボタンを押して、詳細設定モードを解除してください。

メモ

選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていない場合、“No data” と表示されます。

放送局名を表示させたくないときは、すべてが空白の表示を選んでください。

パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCDをお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を“FM M-CD”に変更して表示することができます。

パイオニア製のTVをFMモジュレーターでお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を“FM TVsound”に変更して表示することができます。

1 表示を切り換える

DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

上段 :

下段 : 受信周波数表示

↓

上段 :

下段 : 放送局名表示

↓

上段 : 放送局名表示

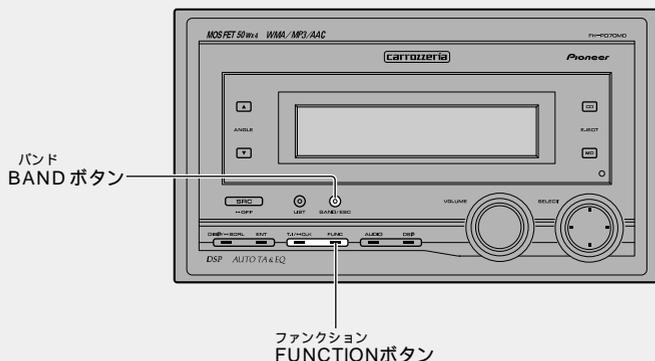
下段 : 周波数表示

↓

上段 :

下段 : 受信周波数表示

に戻る



マルチCD 1 聞きたいCDを 直接選ぶ

ダイレクトサーチ (ディスク)

リモコンを使って、聞きたいCDを直接選ぶことができます。

1 聞きたいCDを選ぶ

リモコンの1～6のボタンを押す
2秒未満：1～6枚目のCDを選ぶとき
2秒以上：7～12枚目のCDを選ぶとき



CD 番号

マルチCD 2 聞きたい曲を 直接選ぶ

ダイレクトサーチ (トラック)

リモコンを使って、今聞いているCDの中の聞きたい曲を直接選ぶことができます。

1 曲番号入力画面を表示する

リモコンのDIRECTボタンを押す
(☞はじめに①9ページ)

2 聞きたい曲の番号を入力する

リモコンの数字ボタンを押す



3 聞きたい曲を再生する

リモコンのDIRECTボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

曲番号入力画面は、約8秒間何も操作しないと解除されます。
リモコンのCLEARボタンを押すと、入力した番号を消去することができます。

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

ファンクションモードの切り換え

1 ファンクションモードを切り換える

FUNCTION ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

再生範囲切換モード

(マルチ CD ④ 60 ページ)



ランダムプレイ設定モード

(マルチ CD ⑤ 61 ページ)



スキャンプレイ設定モード

(マルチ CD ⑥ 61 ページ)



ITS プレイ設定モード

(マルチ CD ⑧ 63 ページ)



ポーズ設定モード

(マルチ CD ⑫ 66 ページ)



コンプレッション設定モード

(マルチ CD ⑬ 66 ページ)



再生範囲切換モードに戻る

メモ

ファンクションモードを解除するには、BAND ボタンを押します。(約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)

詳細設定モードの切り換え

1 詳細設定モードにする

FUNCTION ボタンを 2 秒以上押す

2 詳細設定モードを切り換える

FUNCTION ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

タイトル入力モード ¹

(マルチ CD ⑪ 64 ページ)



ITS 登録モード

(マルチ CD ⑦ 62 ページ)

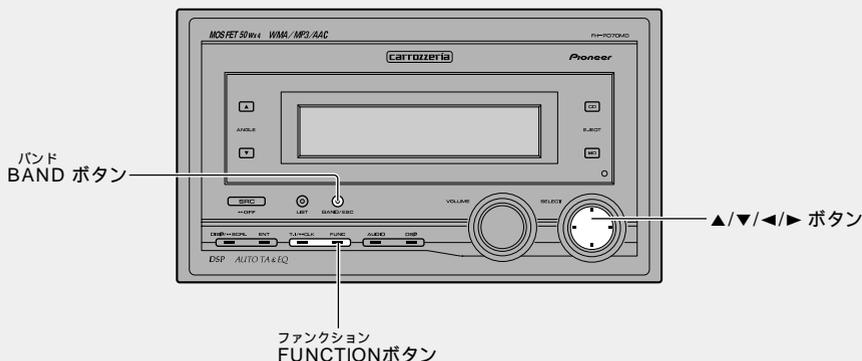


タイトル入力モードに戻る

メモ

詳細設定モードを解除するには、BAND ボタンを押します。

¹「CD TEXT」に対応しているマルチ CD プレーヤー (「CDX-P670」など) で「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードに切り換わりません。(「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは変更できません。)



マルチCD
4

同じ曲やCDを繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲や1枚のCDなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲 (繰り返し聞く範囲) は、次の中から選ぶことができます。

再生範囲	リピート再生の内容
トラックリピート	再生中の曲を繰り返し再生します。
ディスクリピート	再生中のCDを繰り返し再生します。
マルチCDリピート	マルチCDにセットされているすべてのCDを通して再生します。(通常はこのモードにしておきます。)

1 再生範囲切換モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ
(E マルチCD 59 ページ)

2 再生範囲を切り換える

◀または▶ ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



MCD (マルチCDリピート)
↓
Track (トラックリピート)
↓
Disc (ディスクリピート)
↓
MCD に戻る

BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲をマルチCDにまかせて、いつもと違う曲順(ランダム)で再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ

(☞ マルチCD④)

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ランダムプレイ設定モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ

(☞ マルチCD③ 59ページ)

3 ランダム再生をONにする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンでOFF)



次の曲から、ランダムに選曲します。

BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

トラックリピートのときに、ランダム再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わります。

聞きたい曲やCDをさがす

スキャン再生

今聞いているCDの曲の出だし部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、全CDの1曲目の出だし部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (☞ マルチCD④)

聞きたい曲をさがすとき(トラックスキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。再生中のCDの全曲を、約10秒ずつ再生できます。

聞きたいCDをさがすとき(ディスクスキャン再生)

再生範囲をマルチCDリピートに切り換えます。マルチCD内の全CDの1曲目だけを、約10秒ずつ再生できます。

2 スキャンプレイ設定モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ

(☞ マルチCD③ 59ページ)

3 スキャン再生を始める

▲ ボタンを押す



曲の出だしの約10秒間が次々に再生されます。

スキャン再生を始めて約30秒たつと、自動的にファンクションモードが解除されます。

4 聞きたい曲(CD)が再生されたらスキャン再生をOFFにする

確認

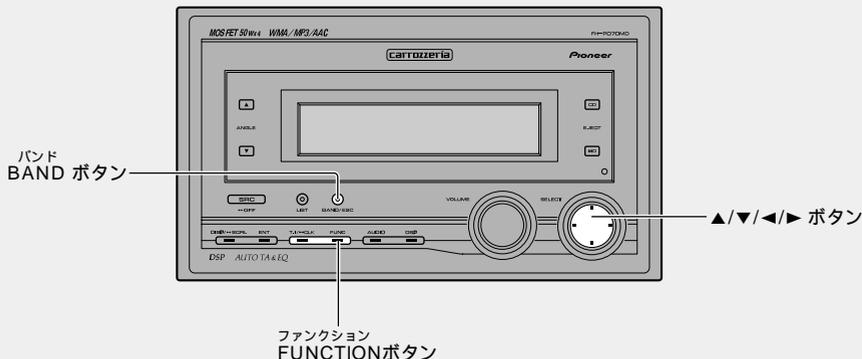
ファンクションモードが解除されていたら、まず手順2の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてください。次に、スキャン再生をOFFにします。

スキャンプレイ設定モードのときに、▼ ボタンを押す

BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

スキャン再生を始めた曲(またはCD)まで戻ると、スキャン再生は解除されます。トラックリピートのときに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わります。



マルチCD
7

聞きたい曲だけ指定しておく

ITS 指定

聞きたい曲だけ再生する (☞ マルチCD ⑧) ために、曲をあらかじめ指定しておきます。

ITS について

ITSは、Instant Track Selection (インスタントトラックセレクション)の略です。

ITSは、聞きたい曲だけを指定しておき、それを再生する機能です。

曲の指定はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、そのCDの指定は消えません。

CD1枚につき99曲まで指定することができます。(「CDX-P1250」「CDX-P650」以前に発売されたマルチCDでは、指定できる曲が24曲目までになります。)

ITSは、タイトル (☞ マルチCD ⑩ 64ページ) と合わせてCD100枚分の指定ができます。

100枚を超えたときは、いちばん古いCDの指定が解除されて、新しいCDが指定されます。

1 指定したいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す
(☞ ここだけで⑥ 30ページ)

2 ITS登録モードにする

FUNCTION ボタンを2秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押して選ぶ
(☞ マルチCD ⑤ 59ページ)

3 指定したい曲を選ぶ

◀または▶ボタンを押す
(☞ ここだけで⑥ 30ページ)

4 指定する

▲ボタンを押す



約2秒間表示され、指定したことを知らせます。

BAND ボタンを押して、詳細設定モードを解除してください。

指定した曲だけ再生する

ITS 再生

ITS 指定 (☞ マルチ CD ⑦) で指定した曲だけを再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ

(☞ マルチ CD ④ 60 ページ)

選んだ再生範囲内で ITS 再生が行われます。

2 ITS プレイ設定モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ

(☞ マルチ CD ③ 59 ページ)

3 ITS 再生を ON にする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンで OFF)



ITS 再生が始まり、指定した曲だけが再生されます。

BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

トラックリピートのときに、ITS 再生を ON にすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わります。

手順 1 で選んだ再生範囲内に指定した曲がない場合は、“ITS empty” が約 2 秒間表示されて、ITS 再生は行われません。

曲の指定を1曲ずつ解除する

ITS 解除 (1 曲ずつ)

曲の指定を 1 曲ずつ解除できます。

1 ITS 再生を ON にする

(☞ マルチ CD ⑧)

2 指定を解除したい曲を再生する

◀ または ▶ ボタンを押す

(☞ ここだけで ⑥ 30 ページ)

3 ITS 登録モードにする

FUNCTION ボタンを 2 秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押して選ぶ
(☞ マルチ CD ③ 59 ページ)

4 解除する

▼ ボタンを押す



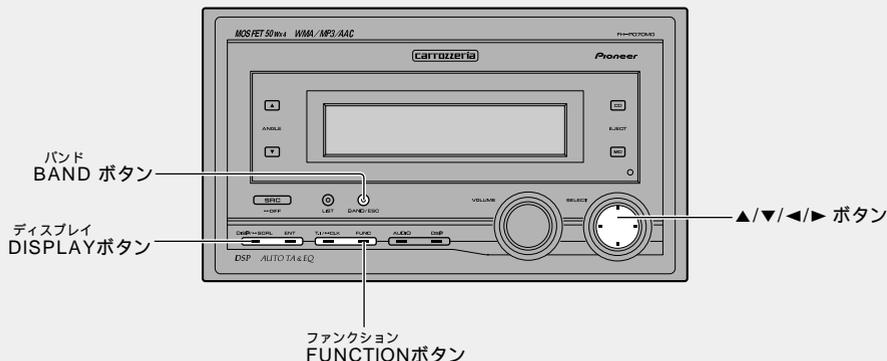
次に指定されている曲

再生していた曲の指定が解除され、次に指定されている曲が再生されます。

BAND ボタンを押して、詳細設定モードを解除してください。

メモ

現在の再生範囲内に指定した曲がなくなった場合は、“ITS empty” が約 2 秒間表示されて、ITS 再生が OFF になります。



マルチCD 10 曲の指定を CD ごとに解除する

ITS 解除 (CD ごと)

曲の指定を CD ごとに解除できます。

1 指定を解除したい CD を再生する

▲または▼ボタンを押す

(☞ ここだけで⑥ 30 ページ)

ITS 再生が ON になっているときは、ITS 再生を OFF にしてください。

(☞ マルチ CD ⑧ 63 ページ)

2 ITS 登録モードにする

FUNCTION ボタンを 2 秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押して選ぶ
(☞ マルチ CD ③ 59 ページ)

3 解除する

▼ボタンを押す



約 2 秒間表示され、解除したことを知らせます。

BAND ボタンを押して、詳細設定モードを解除してください。

マルチCD 11 CD のタイトルを記憶させる

タイトル入力

CD のタイトルを表示させる (☞ マルチ CD ⑦ 70 ページ) ために、あらかじめタイトルを入力して記憶させておきます。

タイトル入力について

タイトル入力は、CD のタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。

CD にタイトルを付けるとディスクリスト (☞ マルチ CD ④ 67 ページ) で聞きたい CD をさがすこともできます。

「CD TEXT」に対応しているマルチ CD (「CDX-P670」など) では、「CD TEXT」にあらかじめ収録されている CD タイトルで同様にディスクリストを表示することができます。

タイトルは 10 文字まで入力できます。

記憶は CD ごとに行われます。CD を入れ換えても、その CD の記憶は消えません。

タイトルは、ITS (☞ マルチ CD ⑦ 62 ページ) と合わせて CD 100 枚分の記憶ができます。

100 枚を超えたときは、いちばん古い CD の記憶が消えて、新しい CD が記憶されます。

1 タイトルを入力したいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す
(☞ ここだけで⑥ 30 ページ)

2 タイトル入力モードにする

FUNCTION ボタンを 2 秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押して選ぶ
(☞ マルチ CD ⑤ 59 ページ)

ご注意

「CD TEXT」に対応しているマルチ CD (「CDX-P670」など) に「CD TEXT」をセットしているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。(「CD TEXT」にあらかじめ収録されている CD タイトルは変更できません。)

3 タイトルを入力する

入力する位置を選ぶとき

- ◀または▶ ボタンを押す
- ▶ : 右に移動させるとき
- ◀ : 左に移動させるとき



入力する位置でカーソルが点滅します。

入力する文字を選ぶとき

- ▲または▼ボタンを押す
- ▲ : 次の文字を選ぶとき
- ▼ : 前の文字を選ぶとき



選んだ文字が点滅します。

文字の種類を変更するとき

DISPLAY ボタンを押す

DISPLAY ボタンを押すごとに、文字の種類が次のように切り換わります。

アルファベットの大文字(A ~ Z)、数字(0 ~ 9)、記号(!、#、&など)、空白(_)



アルファベットの小文字(a ~ z)、空白(_)



数字(0 ~ 9)、記号(!、#、&など)、空白(_)



カタカナ(A ~ ン)、音引き(-)、空白(_)



拗促音(ア、ヨ、ツなど)、濁点、半濁点、空白(_)



アルファベットの大文字に戻る

4 入力が終わったら 10 文字目を点滅させる



余ったところを空白にして、10 文字目を点滅させます。

5 入力したタイトルを記憶する

▶ ボタンを押す

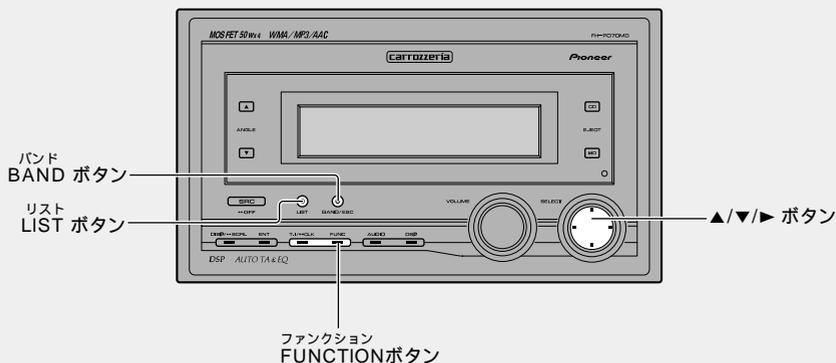


入力位置の点滅が終わり、入力したタイトルが記憶されます。

BAND ボタンを押して、詳細設定モードを解除してください。

メモ

タイトル入力中(文字が点滅しているとき)に BAND ボタンを押すと、詳細設定モードが途中で解除されます。(この場合、入力中のタイトルは記憶されません。)



マルチCD
12

CD再生を一時停止する

ポーズ

CD再生を一時停止することができます。

1 ポーズ設定モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ
(マルチCD ⑤ 59 ページ)

2 CD再生を一時停止する

▲ ボタンを押す (▼ ボタンで再生)



BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

マルチCD
13

CDの音質を調節する

COMP/DBE

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、低音域を押し上げたりすることができます。

チェック COMP/DBE 機能の付いたマルチCDプレーヤーで操作できます。

COMPについて

COMPは、COMPression (コンプレッション) の略です。コンプレッションは、大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

DBEについて

DBEは、Dynamic Bass Emphasis (ダイナミックバスエンファシス) の略です。DBEは、車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。

マルチCD 14 聞きたいCDを一覧からさがす

ディスクリスト

COMP/DBE (つづき)

CDのタイトル一覧(ディスクリスト)を見ながら、聞きたいCDをさがすことができます。

1 コンプレッション設定モードにする

FUNCTION ボタンを押して選ぶ
(▶ マルチCD ⑤ 59 ページ)

ご注意

COMP/DBE 機能のないマルチCDを組み合わせたときは、“No COMP”と表示されて、操作できません。

2 機能を選ぶ

▲または▼ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

OFF	→	COMP 1
↑		↓
DBE 2		COMP 2
↑		↓
DBE 1	←	OFF



現在のCOMP/DBEの状態が表示されます。

BAND ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

メモ

COMP、DBEともに1より2の方が効果が大きくなります。

1 ディスクリストモードにする

LIST ボタンを押す

2 聞きたいCDを表示する

▲または▼ボタンを押す

ボタンを押すごとに、選択されるCDが切り換わります。

選択中のディスク



再生中のディスク。反転表示されます。

3 聞きたいCDを再生する

聞きたいCDのタイトルが選択されているときに、▶ボタンを押す
選んだCDのはじめの曲から再生されます。

BAND ボタンを押して、ディスクリストモードを解除してください。

メモ

マガジンにCDがセットされていないときは、“No Disc”と表示されます。
タイトルが入力されていないCDを入れたときは、“No D.Title”と表示されます。
ディスクリストモードは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
選択されているディスクが「CD TEXT」の場合、▶ボタンを押すとトラックリストが表示されます。
(▶ マルチCD ⑤ 68 ページ)

CDのタイトルなどを表示する

ディスクタイトル表示

タイトル入力 (☞ マルチCD 64 ページ) で入力したCDのタイトルを表示させることができます。

1 表示を切り換える

DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

上段：

下段：再生経過時間表示



上段：

下段：ディスクタイトル



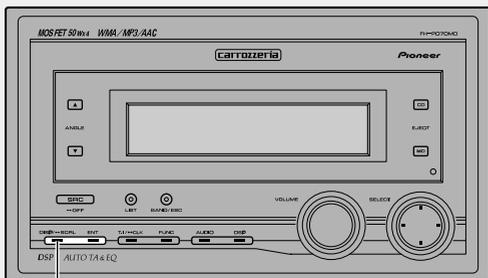
上段：

下段：再生経過時間表示

に戻る

メモ

タイトルが入力されていないCDで表示を切り換えると、“No disc title” と表示されます。



ディスプレイ
DISPLAYボタン

マルチCD「CD TEXT」のタイトルや歌手名を表示する

17

タイトル表示/タイトルスクロール

「CD TEXT」(※はじめに13ページ)に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CD TEXT」再生中に、ディスクタイトルやトラックタイトル、ディスクアーティスト名を表示することができます。一度に表示可能なのは、全角で11文字、半角で22文字までです。また、隠れている文字はスクロールさせて見ることができます。

チェック 「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)の機能です。

タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけではなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

表示の切り換え

1 表示を切り換える

DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

上段：
下段：再生経過時間表示

上段：
下段：ディスクタイトル

上段：
下段：ディスクアーティストネーム

上段：
下段：トラックタイトル

上段：
下段：トラックアーティストネーム

上段：ディスクタイトル
下段：ディスクアーティストネーム

上段：トラックタイトル
下段：トラックアーティストネーム

上段：
下段：再生経過時間表示
に戻る

メモ

トラックアーティストネーム(歌手名)などが収録されていないCDで表示を切り換えると、「No track artist name」などと表示されます。表示を再生経過時間以外に切り換えたときに、自動的に1回スクロール表示します。

隠れている文字の表示

1 隠れているタイトルを
表示する

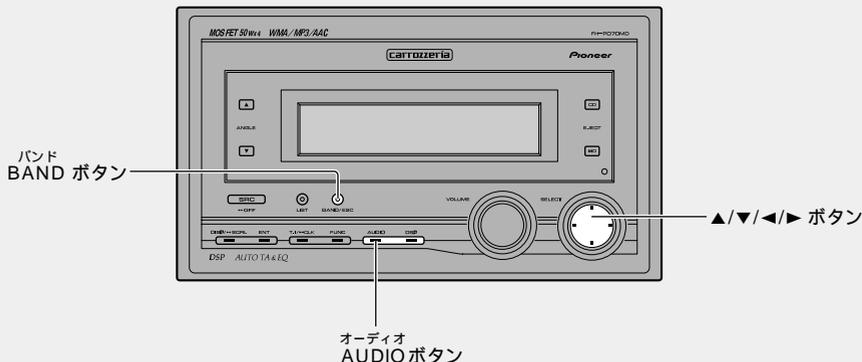
DISPLAY ボタンを 2 秒以上押す



隠れている文字が順番に表示されます。

メモ

初期設定で連続スクロール機能をONにした場合、タイトルが繰り返しスクロールして表示されます。タイトルの最初を表示させて、再びスクロールさせたいときは、DISPLAY ボタンを 2 秒以上押してください。連続スクロールについては(※ 便利な機能 122 ページ)



音の調節

1

オーディオ調節モードの切り換えかた

音を調節するときは、オーディオ調節モードを切り換えて操作します。

1 オーディオ調節モードを切り換える

AUDIO ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

FAD/BAL : 音量バランス調節モード
(音の調節②)



LOUD : ラウドネスモード
(音の調節③)



SW1 : サブウーファー設定モード
(音の調節④ 74 ページ)



SW2 : サブウーファー調節モード 1
(音の調節④ 75 ページ)



SW3 : サブウーファースローブ調節モード 1
(音の調節④ 75 ページ)



F-HPF1 : ハイパスフィルター設定モード (フロント)
(音の調節⑤ 76 ページ)



F-HPF2 : ハイパスフィルター調節モード (フロント)
(音の調節⑤ 76 ページ)



R-HPF1 : ハイパスフィルター設定モード (リア)
(音の調節⑤ 76 ページ)



R-HPF2 : ハイパスフィルター調節モード (リア)
(音の調節⑤ 76 ページ)



FAD/BAL : 音量バランス調節モードに戻る

メモ

オーディオ調節モードを解除するには、BAND ボタンを押します。

オーディオ調節モードは、約30秒間、何も操作しなかったときに自動で解除されます。

RCA外部出力の設定 (便利な機能⑬ 119 ページ) をRear (リアスピーカー) にしたときは、サブウーファー設定モード、サブウーファー調節モード、およびサブウーファースローブ調節モードには切り換わりません。

¹サブウーファー設定モード (音の調節④ 74 ページ) でサブウーファーをOFFにした場合は、サブウーファー調節モード、サブウーファースローブ調節モードには切り換わりません。

前後左右の音量 バランスを調節する

フェーダー/バランス

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

1 音量バランス調節 モードにする

AUDIO ボタンを押して選ぶ
( 音の調節①)

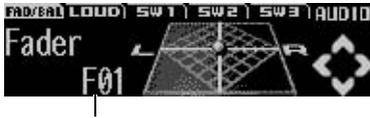
2 音量バランスを調節する

前後を調節する

▲または▼ボタンを押す

▲：前を強めるとき

▼：後ろを強めるとき



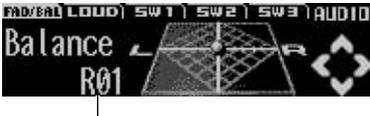
前後のバランスはF25 ~ R25の範囲で調節
できます。

左右を調節する

◀または▶ボタンを押す

▶：右を強めるとき

◀：左を強めるとき



左右のバランスはL25 ~ R25の範囲で調節
できます。

BAND ボタンを押して、オーディオ調節モード
を解除してください。

小音量時の音に メリハリをつける

ラウドネス

小さな音量で聞いているときの低・高音の
不足感を補正して、メリハリのある音にす
ることができます。

1 ラウドネスモードにする

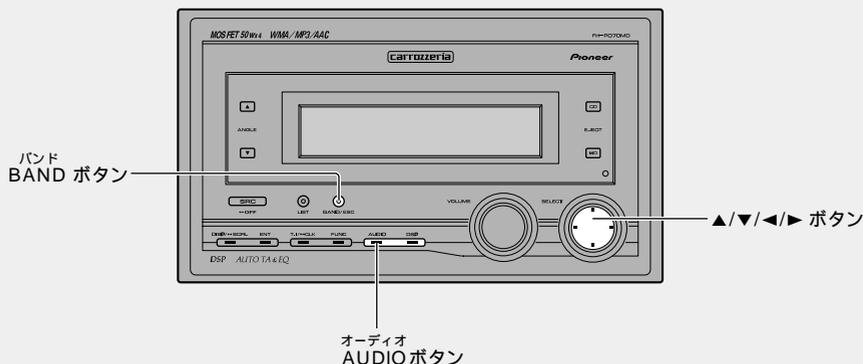
AUDIO ボタンを押して選ぶ
( 音の調節①)

2 ラウドネスをONにする

▲ボタンを押す (▼ボタンでOFF)



BAND ボタンを押して、オーディオ調節モード
を解除してください。



音の調節

4

サブウーファーを使う

サブウーファー

本機では、RCA出力端子に接続したサブウーファーの調節を行うことができます。(この機能は、初期状態ではOFFになっています。)

位相切り換えについて

サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内条件により、これらの音の位相どうしが反転(干渉)すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐものが、サブウーファーの位相切り換えです。車内条件によって、位相の正相(フロント/リアスピーカーと同時に出力される)が良いか、逆相(フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される)が良いかを選んで設定してください。

カットオフ周波数について

選んだ周波数以下の音域がサブウーファーから出力されます。

スロープについて

スロープ(減衰の傾き)を調節することにより、サブウーファーとフロント/リアスピーカーの音のつながりを調整することができます。

1 サブウーファー設定モードにする

AUDIO ボタンを押して選ぶ
(音の調節① 72 ページ)

2 サブウーファーをONにする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンでOFF)



3 位相を切り換える

◀ または ▶ ボタンを押す

- ▶ : Normal (正相)
- ◀ : Reverse (逆相)



4 サブウーファー調節モードにする

AUDIO ボタンを押す

5 カットオフ周波数とレベルを調節する

周波数を選ぶとき

◀または▶ ボタンを押す

▶ : 高い周波数を選ぶとき

◀ : 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125、160、200 (Hz) の中から選ぶことができます。

レベルを調節するとき

▲または▼ ボタンを押す

▲ : レベルを大きくするとき

▼ : レベルを小さくするとき



レベルは - 24 ~ + 6 の範囲で調節できます。

6 サブウーファースロープ調節モードにする

AUDIO ボタンを押す

7 スロープを調節する

◀または▶ ボタンを押す

▶ : スロープを小さくするとき

◀ : スロープを大きくするとき



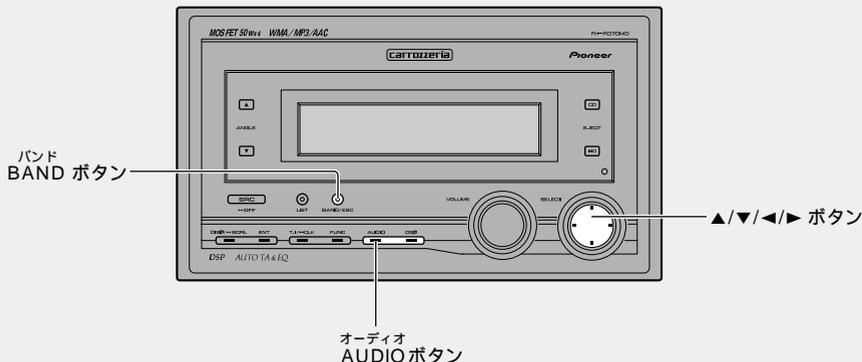
スロープは - 18、- 12、- 6 (dB/oct.) の中から選ぶことができます。

BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除してください。

メモ

RCA 外部出力の設定 (☞ 便利な機能 119 ページ) を Rear にした場合は、サブウーファー機能は ON/OFF できません。

サブウーファー機能を OFF にした場合は、サブウーファー調節モードとサブウーファースロープ調節モードには切り換わりません。

音の調節
5

低い音をスピーカーから出力させない

ハイパスフィルター (HPF)

ハイパスフィルターを使うと、選んだ周波数より低い周波数の音が各スピーカーから出力されなくなります。

ハイパスフィルター (HPF) について

ハイパスフィルターは、設定した周波数から下の音域 (低域) をカットして、高域を通すフィルターです。ハイパスフィルターを設定することにより、サブウーファーとの音のつながりを調節することができます。フロントスピーカーとリアスピーカーで別々に調節することができます。

スロープについて

スロープ (減衰の傾き) を調節することにより、サブウーファーとフロント/リアスピーカーの音のつながりを調整することができます。

スロープを Pass (0 dB/oct.) に設定すると、オーディオ信号はフィルター回路を回避するため、ハイパスフィルターは効果がなくなります。

カットオフ周波数について

選んだ周波数より高い音域が各スピーカーから出力されます。

ミュートについて

フロント/リアスピーカー (フィルター) をミュートすることができます。ミュートしたスピーカーからは、音が出なくなります。

1 ハイパスフィルター設定モードにする

AUDIO ボタンを押して選ぶ
(車 音の調節 72 ページ)

F-HPF1 : フロントスピーカーを調節するとき
R-HPF1 : リアスピーカーを調節するとき

2 スロープを調節する

- ◀または▶ ボタンを押す
- ▶ : スロープを小さくするとき
- ▶ : スロープを大きくするとき



- 12、- 6、Pass の中から選ぶことができます。

3 ハイパスフィルター調節モードにする

AUDIO ボタンを押す
(車 音の調節 72 ページ)

4 ハイパスフィルターの カットオフ周波数を選ぶ

◀ または ▶ ボタンを押す

▶ : 高い周波数を選ぶとき

◀ : 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125、160、200 (Hz) の
の中から選ぶことができます。

選んだ周波数より高い周波数の音だけが、各
スピーカーから出力されます。

5 ハイパスフィルターの レベルを調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ : レベルを大きくするとき

▼ : レベルを小さくするとき



レベルは - 24 ~ ± 0 の範囲で調節できます。

BAND ボタンを押して、オーディオ調節モード
を解除してください。

スピーカーにミュートをかける

1 ハイパスフィルター設定 モードにする

AUDIO ボタンを押して選ぶ

(音の調節 ① 72 ページ)

F-HPF1 : フロントスピーカーをミュートするとき

R-HPF1 : リアスピーカーをミュートするとき

2 ミュートを ON にする

▼ ボタンを 2 秒以上押す

(▲ ボタンで解除)

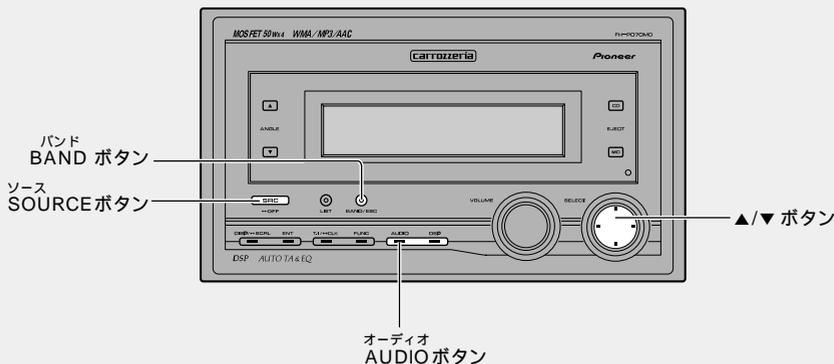


“ MUTE ” が表示されます。

BAND ボタンを押して、オーディオ調節モード
を解除してください。

メモ

ミュートを ON にした場合は、ハイパスフィルター
調節モードには切り換わりません。

音の調節
6

各ソースの音量をそろえる

SLA

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。

1 FM放送を受信して、FMの音量を確かめる

SOURCE ボタンを押す
(ここだけで② 28 ページ)

2 調節したいソースに切り換える

SOURCE ボタンを押す
(ここだけで① 20 ページ)

3 SLA モードにする

AUDIO ボタンを 2 秒以上押す

4 レベルを調節する

- ▲または▼ボタンを押す
- ▲：レベルを大きくするとき
- ▼：レベルを小さくするとき



- 4 ~ +4 の範囲で調節できます。

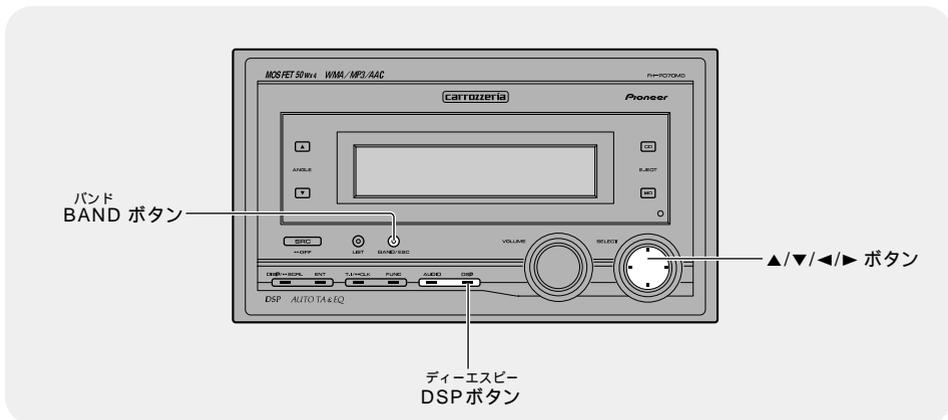
BAND ボタンを押して、SLA モードを解除してください。

メモ

SLAとはSource Level Adjuster (ソース レベル アジャスター) の略です。

FMの音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときはSLAモードに切り換えることはできません。

AM、テレビ、CD、MD、DVD、iPod、AUX (外部機器)、エクスターナルユニットのそれぞれの音量差を調節することができます。なお、内蔵CDとマルチCD、エクスターナル1とエクスターナル2、およびAMと交通情報 (便利な機能③ 113 ページ) は同じ設定になります。



音場と音質の調節

1

DSP 調節モードの切り換えかた

音場と音質を調節するときは、DSP 調節モードを切り換えて操作します。

1 DSP 調節モードを切り換える

DSP ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

G.EQ1：イコライザー選択モード

(音場と音質の調節②)



G.EQ2：イコライザー調節モード

(音場と音質の調節④ 82 ページ)



POSI：リスニングポジションセクターモード

(音場と音質の調節⑤ 83 ページ)



TA1：タイムアライメント選択モード

(音場と音質の調節⑥ 83 ページ)



TA2：タイムアライメント調節モード¹

(音場と音質の調節⑦ 84 ページ)



AUTO-EQ：オートイコライザーモード

(音場と音質の調節⑧ 85 ページ)



SFC：SFCモード

(音場と音質の調節⑨ 86 ページ)



ASL：ASLモード

(音場と音質の調節⑩ 87 ページ)



G.EQ1：イコライザー選択モードに戻る

メモ

DSP 調節モードを解除するには、BAND ボタンを押します。

DSP 調節モードは、約 30 秒間、何も操作しなかったときに自動で解除されます。ただし、イコライザー調節モードまたはタイムアライメント調節モードを選んでおられるときは、自動では解除されません。¹タイムアライメント選択モード(音場と音質の調節⑥ 83 ページ)で TA OFF に設定した場合、タイムアライメント調節モードには切り換わりません。

音楽に合った音質を設定する

イコライザー

あらかじめ用意されたイコライザーカーブの中から、お好みのものを選ぶことができます。

Custom について

Custom1 と Custom2 は、お好みに合わせて調節することができます。

( 音場と音質の調節 ④ 82 ページ)

Flat について

Flat は、イコライザーによる音の補正はされていません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えることで、設定したイコライザーカーブの効果を確認することができます。

1 イコライザー選択モードにする

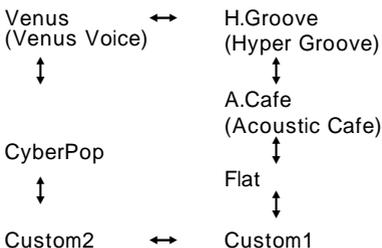
DSP ボタンを押して選ぶ

( 音場と音質の調節 ①)

2 イコライザーカーブを切り換える

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



選んだイコライザーカーブが表示されます。

BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除してください。

イコライザーカーブを大まかに補正する

ニュアンスコントロール

呼び出したイコライザーカーブは、全体的なバランスをくずさずに、大まかに強めたり弱めたりすることができます。

1 イコライザー選択モードにする

DSP ボタンを押して選ぶ

( 音場と音質の調節 ①)

2 補正したいイコライザーカーブを選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

( 音場と音質の調節 ②)

ご注意

Flat および、すべての周波数が 0 に設定されている Custom1 と Custom2 を補正することはできません。

3 イコライザーカーブを補正する

▲または▼ ボタンを押す

▲：効果を強めるとき

▼：効果を弱めるとき

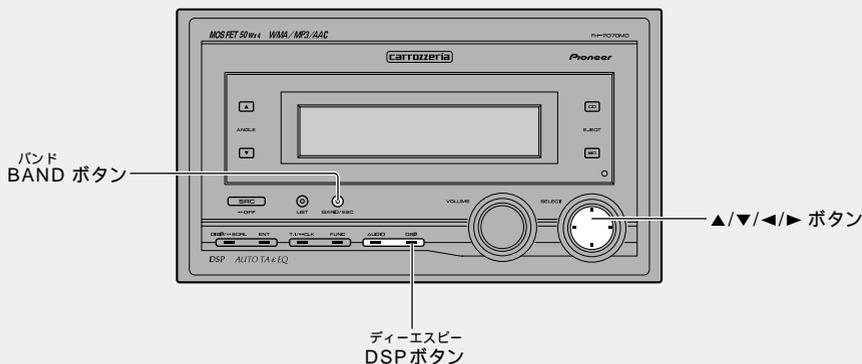


CyberPop は - 5 ~ + 6、Venus は - 3 ~ + 6、H.Groove は - 6 ~ + 6、A.Cafe は - 5 ~ + 6、Custom1 と Custom2 は - 6 ~ + 6 の範囲で調節できます。

BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除してください。

メモ

Custom1 と Custom2 は、記憶されているカーブによって調節できる範囲が狭くなる場合があります。



音場と音質の調節

4

イコライザーカーブを細かく調節する

イコライザー調節

お好みに合わせて、イコライザーカーブの周波数レベルを細かく調節することができます。調節した内容は自動的に記憶されます。

Custom1 について

Custom1には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。(内蔵CDとマルチCD、およびエクスターナル1とエクスターナル2は同じ設定になります。) また、一度も調節をしていないソースでは、最後に他のソースで調節した内容が呼び出されます。

Custom2以外のカーブを選んでいるときに調節すると、調整したカーブがCustom1に記憶されます。

Custom2 について

Custom2は、すべてのソースに共通したイコライザーカーブです。お好みに合わせて調節することができます。

Custom2を選んでいるときに調節すると、調節したカーブが新しいCustom2として記憶されます。

1 イコライザー選択モードにする

DSP ボタンを押して選ぶ
(音場と音質の調節 ① 80 ページ)

2 調整したいイコライザーカーブを選ぶ

▲または▶ ボタンを押す
(音場と音質の調節 ② 81 ページ)

3 イコライザー調節モードにする

DSP ボタンを押す

4 各周波数ごとのレベルを調節する

周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す



周波数は、次の中から選べます。

50、80、125、200、315、500、800
1.25k、2k、3.15k、5k、8k、12.5k (Hz)

レベルを調節する

▲または▼ ボタンを押す

▲ : 効果を強めるとき

▼ : 効果を弱めるとき



レベルは -6 ~ +6 の範囲で調節できます。

BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除してください。

音場の中心で聞く

リスニングポジション

乗車位置や人数に合わせて、聞く位置を選ぶことができます。

1 リスニングポジション
セクターモードにする

DSP ボタンを押して選ぶ
( 音場と音質の調節① 80ページ)

2 乗車位置を選ぶ

▲、▼、◀、▶ ボタンを押す
同じボタンを押すごとにON/OFFします。

- ▶ : Front Right
- ◀ : Front Left
- ▲ : Front R&L
- ▼ : All seat

表示	乗車位置
Front Right	右ハンドル車に運転者のみ がいるとき
Front Left	左ハンドル車に運転者のみ がいるとき
Front R&L	同乗者が助手席にいるとき
All seat	同乗者が後部座席にいるとき



選んだ乗車位置が表示されます。

BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除してください。

メモ

リスニングポジションごとに、音量バランス ( 音の調節② 73ページ) を記憶させることができます。

タイムアライメント
を選ぶ

タイムアライメント選択

3種類のタイムアライメントの中から、お好みのものを選ぶことができます。

タイムアライメントについて

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することができる機能です。

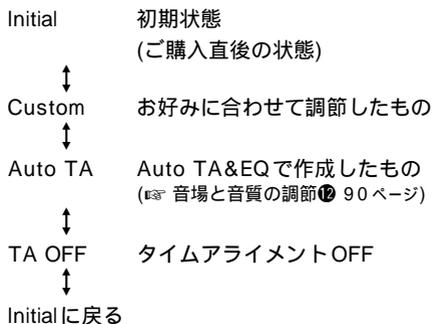
1 タイムアライメント選択
モードにする

DSP ボタンを押して選ぶ
( 音場と音質の調節① 80ページ)

2 タイムアライメントを選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

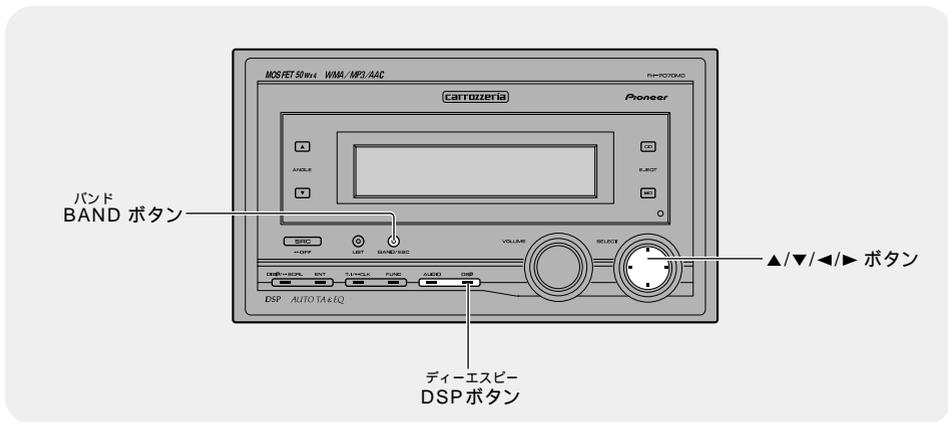
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除してください。

メモ

Auto TA&EQ ( 音場と音質の調節② 90ページ) を行っていないときは、Auto TA を選ぶことはできません。



音場と音質の調節

7

タイムアライメントを調節する

タイムアライメント調節

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節することができます。

1 調節の元になるタイムアライメントを選ぶ

(音場と音質の調節 ① 80 ページ)

2 タイムアライメント調節モードにする

DSP ボタンを押して選ぶ

(音場と音質の調節 ① 80 ページ)

3 各スピーカーの距離を調節する

調節するスピーカーを選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Front L : 左フロントスピーカー



Front R : 右フロントスピーカー



Rear R : 右リアスピーカー



Rear L : 左リアスピーカー



Sub W. : サブウーファー



Front L : 左フロントスピーカーに戻る

距離を調節する

▲または▼ ボタンを押す

▲ : 距離を遠くするとき

▼ : 距離を近くするとき



0.0 cm ~ 400.0 cm の範囲で調節できます。調節した内容は、Custom (音の調節 ⑥ 83 ページ) に自動的に記憶されます。

BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除してください。

メモ

リスニングポジションセレクターモード (音場と音質の調節 ⑤ 83 ページ) でリスニングポジションを Front Right または Front Left に設定して、タイムアライメント選択モード (音場と音質の調節 ⑥ 83 ページ) で TA OFF 以外に設定しないと、タイムアライメントは調節できません。サブウーファー設定モード (音の調節 ④ 74 ページ) でサブウーファーを OFF にした場合は、Sub W. : サブウーファーには切り換わりません。

オートイコライザー をON/OFFする

Auto EQ

オートタイムアライメント&イコライジング (Auto TA&EQ) で作成した、オートイコライザーカーブをON/OFFすることができます。

1 オートイコライザー モードにする

DSP ボタンを押して選ぶ

( 音場と音質の調節 80 ページ)

2 オートイコライザーをONにする

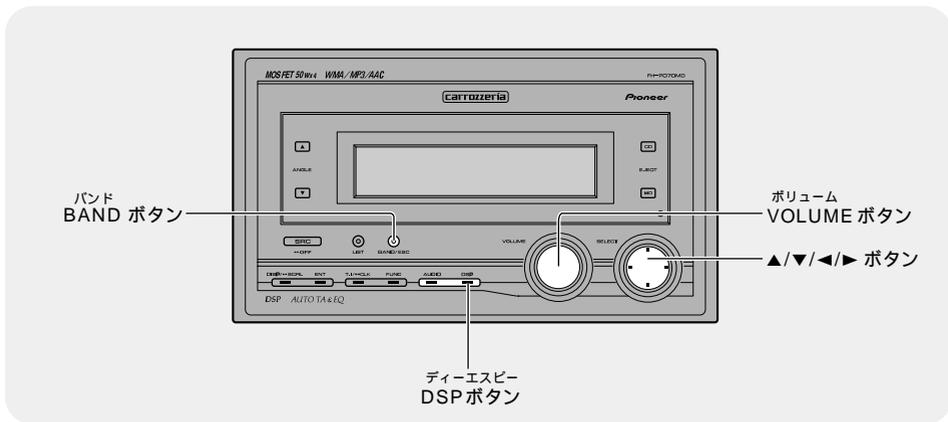
▲ ボタンを押す (▼ ボタンでOFF)



BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除してください。

メモ

Auto TA&EQ ( 音場と音質の調節 90 ページ) を行っていないときは、オートイコライザーモードは操作できません。



音場と音質の調節

9

イメージに合った演奏会場を再現する

SFC/BBE

SFCでは、実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。また、BBEではレベルの調節をすることができます。

SFC について

SFCは、Sound Field Control (サウンドフィールドコントロール)の略です。SFCは、車室内にリアルな音場を再現することができます。StudioやClubなど、3つの音場空間を再現するプログラムが用意されています。

BBE について

BBEは、音楽再生時に発生する高調波成分の遅延、振幅の狂いを位相補正と高域ブーストを組み合わせることで、極めて原音に近い再生音にすることができます。このため、鮮明度が高く、ライブ演奏に近い自然な臨場感を再現することができます。

1 SFCモードにする

DSP ボタンを押して選ぶ
(※ DSP 調節① 80 ページ)

2 音場プログラムを選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



選んだ音場プログラムが表示されます。

BBEを以外を選んだときは、BAND ボタンを押してDSP調節モードを解除してください。

手順2でBBEを選んだとき

3 BBEのレベルを調節する

- ▲または▼ボタンを押す
- ▲：レベルを大きくするとき
- ▼：レベルを小さくするとき



レベルは - 4 ~ + 4 の範囲で調節できます。

BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除してください。

メモ

この製品はBBEサウンド・インコーポレーテッドからの実施権に基づき製造されています。この製品は米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc. の登録商標です。

ASLについて

ASLは、Automatic Sound Levelizer (オートマチック サウンド レベライザー) の略です。

ASLは、走行速度や道路状況によって変化する車内の騒音を検出して、騒音が大きくなると自動的に音量を大きくする機能です。

1 ASLモードにする

DSP ボタンを押して選ぶ
(音場と音質の調節 80 ページ)

2 ASLをONにする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンでOFF)

3 ASLの感度を選ぶ

- ◀または▶ ボタンを押す
- ▶：感度を高くするとき
- ◀：感度を低くするとき



Low、Mid-Low、Mid、Mid-High、Highの中から選ぶことができます。

BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除してください。



ASLがONのときに、ASLインジケータが表示されます。また、効果量がバーで表示されます。

メモ

音量が十分にあるときは、騒音が大きくても、音量の上げ幅は小さくなります。

この機能が働いて音量が上がりがすぎたとき、音が歪むことがあります。そのときはVOLUMEで音量を下げてください。

オートタイムアライメント & イコライジングを行う前に

オートタイムアライメント & イコライジング (Auto TA&EQ) を行う前に必ずお読みください。



警告

走行中に Auto TA&EQ を行わない



自動車が走行中に Auto TA&EQ を行わないでください。Auto TA&EQ 機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

スピーカー破損防止について

次の状態で Auto TA&EQ を行うと、スピーカーが破損する恐れがあります。Auto TA&EQ を行う前に、よく確認してください。

スピーカーの接続を誤っている場合

(例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)

スピーカーの耐入力を超える出力のパワーアンプを接続している場合

Auto TA&EQ 機能について

車室内空間は、その広さや複雑な形状、材質により、ホームオーディオに比べ、一般的に音響特性が大きく乱れています。このような車室内の音響特性を補正するためにイコライザーを使用しますが、測定器などを使用せずに設定するのはかなり困難な作業になります。

本機の Auto TA&EQ 機能は、車室内の音響特性を自動的に測定し、そのデータに基づいて、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな特性に近づくように自動的に補正します。(イコライザーカーブを呼び出したときは、Auto TA&EQ により乱れの少ない滑らかな特性になった上でイコライザーカーブが設定されますので、より効果的になります。) また、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を自動的に測定して、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節します。

Auto TA&EQを行う前にお読みください

Auto TA&EQは、なるべく静かな所で、車のエンジンおよびエアコンやヒーターを止めて行ってください。また、携帯電話や自動車電話などを車載している場合は、電話を車外へ持ち出さず電源を切ってからAuto TA&EQを行ってください。計測音以外の音(車周辺の騒音、エンジン音、電話の着信音など)によって、車室内の音響特性が正しく測定できないことがあります。

Auto TA&EQは、必ず付属の音響特性測定用マイクを使用して行ってください。付属の音響特性測定用マイク以外のマイクでは、Auto TA&EQが実行できなかったり、車室内の音響特性が正しく測定できません。

フロントスピーカーが接続されていない場合は、Auto TA&EQが実行できません。

フロントスピーカーをミュートしている場合は、Auto TA&EQが実行できません。

入力レベルコントロール付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプの入力レベルコントロールを下げていると、Auto TA&EQが実行できない場合があります。パワーアンプの入力レベルコントロールは推奨位置に合わせてください。

ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプのローパスフィルターはOFFにして測定してください。また、パワードサブウーファー内蔵のローパスフィルターは、カットオフ周波数を最も高い値に設定してください。

Auto TA&EQ測定時に算出したタイムアライメントの値は、次の場合に実際の距離と異なることがあります。計測状況によりコンピューターが算出した正確な遅延時間をもとに設定された距離です。そのままの値でご使用ください。

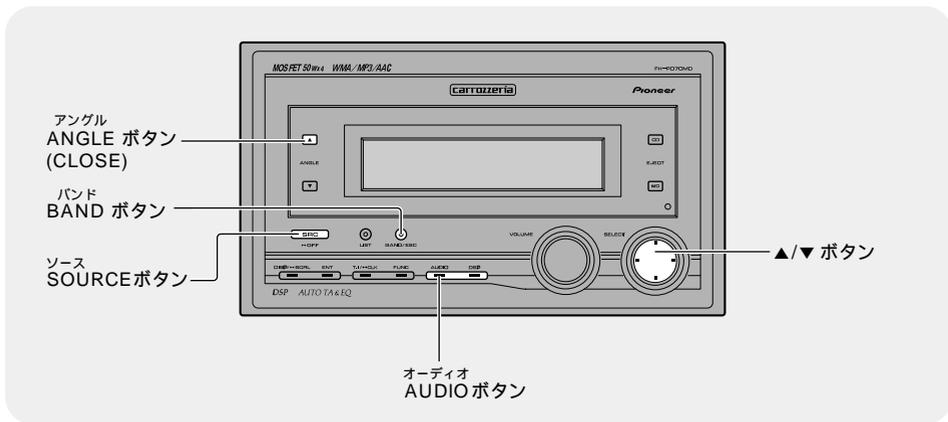
- * 車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている場合。
- * パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている場合。

Auto TA&EQを行うと、各モードの内容が次のように変更されます。

- * 前後左右の音量バランス調節(フェーダー/バランス)の設定がリセットされ、初期設定に戻ります。
- * イコライザーカーブは、フラット(Flat)になります。
- * リスニングポジションセレクターは、Front Rightに設定されます。(ただし、Front Leftに設定していたときだけは、Front Leftのままです。)
- * サブウーファーを接続している場合、サブウーファー出力とリアハイパスフィルターの設定が調節されます。(サブウーファー出力をOFFにしても、自動的にONになり調節されます。)

Auto TA&EQの調節内容について

一度Auto TA&EQを行ったあとに、再度Auto TA&EQを行うと、前のAuto TA&EQの調節内容は消去されます。



音場と音質の調節
12

オートタイムアライメント & イコライジングを行う

Auto TA&EQの設定

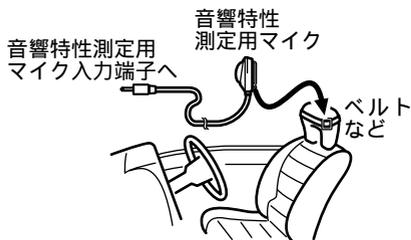
車室内の音響特性を自動的に計測して、車室内の音響特性を最適に自動補正することができます。

1 車の環境を整える

- 静かな所に車を停車させる
- ドア、窓、サンルーフなどを閉める
- 車のエンジンを停止させる
- エアコンやヒーターをOFFにする

2 音響特性測定用マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に音響特性測定用マイクを前向きに固定する



注意

音響特性測定用マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がる恐れがあります。音響特性測定用マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。

3 車のエンジンスイッチをACCまたはONにする

注意

車のエアコンやヒーターがONになっている場合は、OFFにしてください。エアコンやヒーターのファンの騒音によってAuto TA&EQが実行できないことがあります。

4 本機の電源を入れる

SOURCE ボタンを押す

5 乗車位置を決定する

リスニングポジションセレクターモードで、音響特性測定用マイクをセットした座席を乗車位置に設定する

(※音場と音質の調節 ⑧ 83 ページ)

メモ

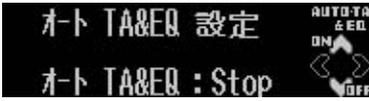
乗車位置をFront RightまたはFront Left以外に設定したときは、Auto TA&EQを始めると、強制的にFront Rightに再設定されます。

6 本機の電源を切る

SOURCE ボタンを 1 秒以上押す

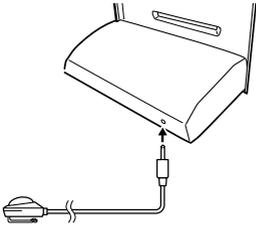
7 Auto TA&EQ設定モードにする

AUDIO ボタンを 2 秒以上押す
フロントパネルが自動的に開きます。



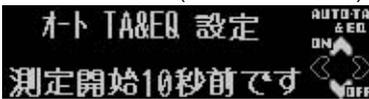
8 音響特性測定用マイクを本機に接続する

音響特性測定用マイクを、音響特性測定用マイク入力端子に接続する



9 Auto TA&EQを始める

▲ ボタンを押す (▼ ボタンで中止)



Auto TA&EQ が始まるまでの秒数が表示されます。

注意

Auto TA&EQ を始めてから測定が終了するまでに、約4分かかります。測定時間は、周囲の騒音状態、車両形状、スピーカーの数などにより変わります。

10 車外に出る

“ピッ”という音で10秒のカウントダウンが始まるので、10秒以内に車外に出て、ドアを閉める

計測音(ノイズ)が各スピーカーから出力され、Auto TA&EQ が始まります。

11 Auto TA&EQが自動的に終了する



Auto TA&EQ が正常に行われると、“設定を終了しました”と表示されます。

セットした音響特性測定用マイクを取り外してください。次に、BAND ボタンを押して Auto TA&EQ モードを解除し、ANGLE (CLOSE) ボタンを押してフロントパネルを元の位置に戻してください。

注意

ANGLE (CLOSE) ボタンを押す前に、音響特性測定用マイクを音響特性測定用マイク入力端子から取り外してください。音響特性測定用マイクを接続したまま ANGLE (CLOSE) ボタンを押すと、警告音が鳴り、フロントパネルは閉まりません。



手を挟まれない
よう注意

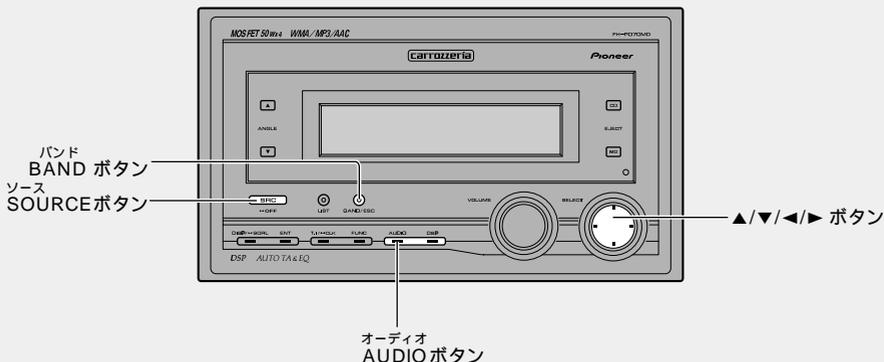
フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。



フロントパネルを開けたまま、走行しないでください。急ブレーキ時にフロントパネルに体が当たったりして、思わぬケガをする恐れがあります。

メモ

Auto TA&EQ を途中でやめたくなったときは、BAND ボタンを押してください。強制的に解除して、電源が OFF になります。音響特性測定用マイクをセットする位置により、Auto TA&EQ の調節内容が変わります。お好みにより、助手席にセットすることもできます。音響特性測定用マイクはグローブボックスなどに、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になる恐れがあります。



チェック 「別売DSPで音を調節する」の機能は、別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を本機に接続している場合に使用できます。「DEQ-P9」を接続すると、「音を調節する」の機能は使用できません。

音の調節
(別売DSP)

1

オーディオ調節モードの切り換えかた

音の調節は、オーディオ調節モードを切り換えて操作します。

1 オーディオ調節モードを切り換える

AUDIO ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

FAD/BAL : 音量バランス調節モード
(音の調節 (別売DSP) ②)

↓
SIZE : スピーカー設定モード
(音の調節 (別売DSP) ③ 94 ページ)

↓
X/O : クロスオーバー周波数設定モード
(音の調節 (別売DSP) ⑤ 95 ページ)

↓
SP-LV : スピーカーレベル調節モード
(音の調節 (別売DSP) ⑥ 96 ページ)

↓
TEST : テストトーンモード
(音の調節 (別売DSP) ⑦ 96 ページ)

↓
TA1 : タイムアライメント選択モード
(音の調節 (別売DSP) ⑧ 97 ページ)

↓
TA2 : タイムアライメント調節モード 1
(音の調節 (別売DSP) ⑨ 97 ページ)

↓
D-MIX : ダウンミックスモード
(音の調節 (別売DSP) ⑩ 98 ページ)

DRC : ダイナミックレンジコントロールモード
(音の調節 (別売DSP) ⑪ 98 ページ)

↓
DIRECT : ダイレクトモード
(音の調節 (別売DSP) ⑫ 99 ページ)

↓
FAD/BAL : 音量バランス調節モードに戻る

メモ

オーディオ調節モードを解除するには、BAND ボタンを押します。

オーディオ調節モードは、約30秒間、何も操作しなかったときに自動で解除されます。ただし、テストトーンモードまたはタイムアライメント調節モードを選んでおられるときは、自動では解除されません。DVDディスクを再生しているとき以外は、ダイナミックレンジコントロールモードには切り換わりません。

リスニングポジションセクターモードでFront RightまたはFront Leftを選んでいないと、タイムアライメント調節は操作できません。

オートタイムアライメント&イコライジングを行っていない場合は、オートイコライザーモードは操作できません。

ダイレクトがONの間は、音量調節 (VOLUME と ATT) とDSP調節モードのドルビープロロジックのみが有効です。そのほかのオーディオ調節またはDSP調節はできません。

¹タイムアライメント選択モード(音の調節 (別売DSP) ⑧ 97 ページ)でTA OFFに設定した場合、タイムアライメント調節モードには切り換わりません。

前後左右の音量 バランスを調節する

フェーダー/バランス

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

1 音量バランス調節 モードにする

AUDIO ボタンを押して選ぶ
( 音の調節 (別売 DSP) )

2 音量バランスを調節する

前後を調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ : 前を強めるとき

▼ : 後ろを強めるとき



前後のバランスは F25 ~ R25 の範囲で調節
できます。

左右を調節する

◀ または ▶ ボタンを押す

▶ : 右を強めるとき

◀ : 左を強めるとき



左右のバランスは L25 ~ R25 の範囲で調節
できます。

BAND ボタンを押して、オーディオ調節モード
を解除してください。

接続したスピーカーの設定をする

スピーカー設定

スピーカーの接続の有無や接続したスピーカーのサイズ(低音域再生能力)を設定できます。この設定により、スピーカーを接続していないために再生できないチャンネルの音を他のスピーカーから出力させたり、より再生に適したスピーカーから低音を出力させることができます。

スピーカーサイズについて

スピーカーサイズ設定は、100Hz以下の周波数帯域を再生可能かどうかが目安になります。

再生可能な場合はLargeに、再生不可能な場合はSmallに設定してください。

Auto TA&EQを行うときは、スピーカーの設定はON/OFFだけ行ってください。

1 スピーカー設定モードにする

AUDIO ボタンを押して選ぶ

(音の調節 (別売 DSP) ① 92 ページ)

2 設定したいスピーカーを選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Front SP : フロントスピーカー



Center SP : センタースピーカー



Rear SP : リアスピーカー



Sub w. : サブウーファー



Phase : サブウーファー位相切り換え ①



Front SP : フロントスピーカーに戻る

3 スピーカーの有無やサイズを設定する

▲または▼ ボタンを押す

各スピーカーの設定は、次の中から選ぶことができます。

スピーカーの種類	設定/調節範囲
フロント	Small, Large
センター	OFF、Small、Large
リア	OFF、Small、Large
サブウーファー	ON、OFF
サブウーファー位相切り換え	Normal、Reverse



BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除してください。

メモ

1 サブウーファーをOFFにすると、サブウーファー位相切り換えモードは選択できません。

接続していないスピーカーの設定は、必ずOFFにしてください。

サブウーファーを接続していない場合は、フロントまたはリアスピーカーに低音再生能力のある限り、スピーカー設定はLargeを選んでください。フロントとリアの両方のスピーカー設定をSmallにすると、低音が著しく不足した感じになることがあります。

2 チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジック をONにすると、次のような現象が起こることがあります。

* センタースピーカーの設定をSmallやLargeにしている場合、センタースピーカーだけから音が出力されることがあります。また、センタースピーカーを接続しないと、音が出力されないことがあります。

サブウーファーの
位相を切り換える

サブウーファー

サブウーファーからの低音域の出力を調節しても低音域がよく聞こえてこなかったり、逆に小さくなったように感じた場合、他のスピーカーの低音域と打ち消し合っていることがあります。位相を切り換えることで、この現象を防ぎ低音域を聞きやすくすることができます。

1 スピーカー設定モードにする

AUDIO ボタンを押して選ぶ

(音の調節 (別売DSP) ① 92 ページ)

2 サブウーファー
位相切り換えを選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

(音の調節 (別売DSP) ②)

3 位相を選ぶ

▲または▼ ボタンを押す

▲ : Normal (正相)

▼ : Reverse (逆相)



BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除してください。

メモ

サブウーファー設定をOFFにすると、サブウーファー位相切り換えモードは選択できません。

クロスオーバー
周波数を設定する

クロスオーバー周波数

クロスオーバー周波数は、スピーカーサイズをSmallに設定したスピーカーやサブウーファーの再生音域を設定します。サブウーファーからは、選んだ周波数より低い音域が出力されます。また、Smallに設定したスピーカーからは、選んだ周波数より高い音域が出力され、音量が抑えられた低い音域はサブウーファーから出力されるようになります。サブウーファーを接続していない場合、音量が抑えられた低い音域はLargeに設定したスピーカー (フロントまたはリア) から出力されるようになります。

1 クロスオーバー周波数設定
モードを選ぶ

AUDIO ボタンを押して選ぶ

(音の調節 (別売DSP) ① 92 ページ)

2 スピーカーを選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

フロントスピーカー ↔ センタースピーカー
 リアスピーカー ↔ サブウーファー
 フロントスピーカーに戻る

3 クロスオーバー周波数
を選ぶ

▲または▼ ボタンを押す



63、80、100、125、160、200 (Hz) の中から選ぶことができます。

BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除してください。

メモ

スピーカー設定モード (音の調節 (別売DSP) ②) でOFFに設定したスピーカーを選ぶことはできません。

音の調節
(別売DSP)

6

スピーカーレベルを
調節する

スピーカーレベル調節

テストトーン (音の調節 (別売DSP) ⑦) で行った各スピーカーからの出力レベルを、実際の音声を聞きながらもう一度調節することができます。

1 スピーカーレベル調節
モードにする

AUDIO ボタンを押して選ぶ
(音の調節 (別売DSP) ① 92 ページ)

2 スピーカーを選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Front-L : 左フロントスピーカー
 ↔ Center : センタースピーカー
 ↔ Front-R : 右フロントスピーカー
 ↔ Rear-R : 右リアスピーカー
 ↔ Rear-L : 左リアスピーカー
 ↔ Sub w. : サブウーファー
 ↔ Front-L : 左フロントスピーカーに戻る

3 レベルを調節する

▲または▼ ボタンを押す

▲ : レベルを大きくするとき
 ▼ : レベルを小さくするとき



レベルは - 10 ~ + 10 の範囲で調節できます。

BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除してください。

メモ

スピーカーレベル調節モードとテストトーンモード (音の調節 (別売DSP) ⑦) のどちらで設定しても、出力レベルは同じ値になります。スピーカー設定モード (音の調節 (別売DSP) ⑩ 94 ページ) でOFFに設定したスピーカーを選ぶことはできません。

音の調節
(別売DSP)

7

テストトーンで
スピーカーレベルを調節する

テストトーン

テストトーンを聞きながら、各スピーカーからの出力レベルを調節し、スピーカーシステム全体のバランスを整えます。

1 テストトーンモードにする

AUDIO ボタンを押して選ぶ
(音の調節 (別売DSP) ① 92 ページ)

2 テストトーン出力を始める

▶ ボタンを押す

約2秒ずつ、次の順で切り換わります。

Front-L : 左フロントスピーカー
 ↔ Center : センタースピーカー
 ↔ Front-R : 右フロントスピーカー
 ↔ Rear-R : 右リアスピーカー
 ↔ Rear-L : 左リアスピーカー
 ↔ Sub w. : サブウーファー
 ↔ Front-L : 左フロントスピーカーに戻る

3 レベルを調節する

▲または▼ ボタンを押す

▲ : レベルを大きくするとき
 ▼ : レベルを小さくするとき



レベルは - 10 ~ + 10 の範囲で調節できます。

4 テストトーン出力を停止する

◀ ボタンを押す

BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除してください。

メモ

スピーカーレベル調節モード (音の調節 (別売DSP) ⑩) とテストトーンモードのどちらで設定しても、出力レベルは同じ値になります。スピーカー設定モード (音の調節 (別売DSP) ⑩ 94 ページ) でOFFに設定したスピーカーには切り換わりません。レベルを調節している間、テストトーンは次のスピーカーには切り換わりません。

タイムアライメント を選ぶ

タイムアライメント選択

3種類のタイムアライメントの中から、お好み
のものを選ぶことができます。

タイムアライメントについて

タイムアライメントは、各スピーカーからリス
ニングポジションまでの距離を調節するこ
とができる機能です。

1 タイムアライメント選択 モードにする

AUDIO ボタンを押して選ぶ

(音の調節 (別売DSP) ① 92ページ)

2 タイムアライメントを選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わり
ます。

Initial	初期状態 (ご購入直後の状態)
↓	
Custom	お好みに合わせて調節したもの
↓	
Auto TA	Auto TA&EQで作成したもの (音場と音質の調節 (別売DSP) ⑩ 110ページ)
↓	
TA OFF	タイムアライメントOFF
↓	
Initialに戻る	



BAND ボタンを押して、オーディオ調節モード
を解除してください。

メモ

Auto TA&EQ (音場と音質の調節 (別売DSP)
⑩ 110ページ) を行っていないときは、Auto TA
を選ぶことはできません。

タイムアライメント を調節する

タイムアライメント調節

各スピーカーからリスニングポジションまで
の距離を調節することで、音声の到達時間
を補正し、音像の定位や全体的なバランス
を調節することができます。

1 タイムアライメント調節 モードにする

AUDIO ボタンを押して選ぶ

(音の調節 (別売DSP) ① 92ページ)

2 調節したいスピーカーを選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わり
ます。

Front L : 左フロントスピーカー
↔ Center : センタースピーカー
↔ Front R : 右フロントスピーカー
↔ Rear R : 右リアスピーカー
↔ Rear L : 左リアスピーカー
↔ Sub w. : サブウーファー
↔ Front L : 左フロントスピーカーに戻る

3 距離を調節する

▲または▼ ボタンを押す

▲ : 距離を遠くするとき

▼ : 距離を近くするとき



0.0 cm ~ 500.0 cm の範囲で調節できます。
調節した内容は、Custom (音の調節 (別売
DSP) ⑩) に自動的に記憶されます。

BAND ボタンを押して、オーディオ調節モード
を解除してください。

メモ

スピーカー設定モード (音の調節 (別売DSP) ⑩
94ページ) でOFFに設定したスピーカーを選ぶこと
はできません。

リスニングポジションセレクターモード (音場と音
質の調節 (別売DSP) ⑩ 103ページ) でリスニングポ
ジションをFront RightまたはFront Leftに設定し
て、タイムアライメント選択モード (音の調節 (別
売DSP) ⑩) でTA OFF以外に設定していないと、タ
イムアライメントは調節できません。

音の調節
(別売DSP)

10

ダウンミックス機能 を使う

ダウンミックス

マルチチャンネルの音声を足し合わせて(ダウンミックス)、2チャンネルの音声で再生することができます。

1 ダウンミックスモードにする

AUDIO ボタンを押して選ぶ

(音の調節 (別売 DSP) ① 92 ページ)

2 ダウンミックスの設定を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに、Lo/RoとLt/Rtが切り換わります。

表示	内容
Lo/Ro	オリジナルの音声がサラウンド成分のようなチャンネルモードを含まない場合、音声をステレオミックスします。
Lt/Rt	サラウンド成分を復元(デコード)できるようにダウンミックスします。



BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除してください。

メモ

DVD オーディオには、ダウンミックスを禁止しているものがあります。その場合は、ダウンミックスを設定しても実行されません。

音の調節
(別売DSP)

11

ダイナミックレンジ コントロールを使う

DRC

ダイナミックレンジとは、一番大きな音と一番小さな音との幅のことです。ダイナミックレンジコントロールをONにすると、この幅が圧縮され、音量を下げて楽しむ場合にも小さな音を聞きとりやすくすることができます。

1 ダイナミックレンジ コントロールモードにする

AUDIO ボタンを押して選ぶ

(音の調節 (別売 DSP) ① 92 ページ)

2 ダイナミックレンジ コントロールモードをONにする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンでOFF)



BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除してください。

メモ

ダイナミックレンジコントロールの効果が行われるのは、ドルビーデジタル音声だけです。DVDディスクを再生しているとき以外は、ダイナミックレンジコントロールモードには切り換わりません。

オリジナルの音質で
聞く

ダイレクト

各種オーディオの設定を無効にすることができます。調整したオーディオ設定の効果を確かめるのに便利です。

1 ダイレクトモードにする

AUDIO ボタンを押して選ぶ

(音の調節 (別売DSP) ① 92 ページ)

2 ダイレクトモードをONにする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンでOFF)



BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除してください。

メモ

ダイレクトモードがONの間は、音量調節(VOLUMEとATT)とDSP調節モードのドルビープロロジックのみが有効です。そのほかのオーディオ調節およびDSP調節はできません。

各ソースの音量を
そろえる

SLA

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。

1 FM放送を受信して、
FMの音量を確かめる

SOURCE ボタンを押す

(ここだけで⑤ 28 ページ)

2 調節したいソースに
切り換える

SOURCE ボタンを押す

(ここだけで① 20 ページ)

3 SLAモードにする

AUDIO ボタンを2秒以上押す

4 レベルを調節する

▲ または▼ ボタンを押す

▲ : レベルを大きくするとき

▼ : レベルを小さくするとき



- 4 ~ +4 の範囲で調節できます。

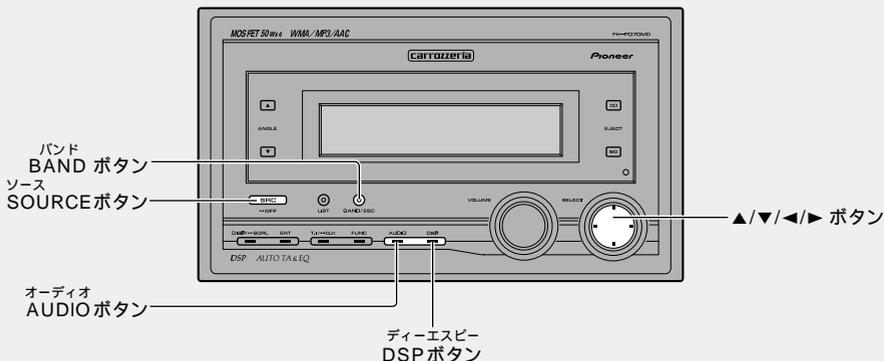
BAND ボタンを押して、SLAモードを解除してください。

メモ

SLAとはSource Level Adjuster(ソース レベルアジャスター)の略です。

FMの音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときは、SLAモードに切り換えることはできません。

AM、テレビ、CD、MD、DVD、iPod、AUX(外部機器)、エクスターナルユニットのそれぞれの音量差を調節することができます。なお、内蔵CDとマルチCD、エクスターナル1とエクスターナル2、およびAMと交通情報(便利な機能⑥ 113 ページ)は同じ設定になります。



チェック 「別売DSPで音場と音質を調節する」の機能は、別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を本機に接続している場合に使用できます。「DEQ-P9」を接続すると、「音場と音質を調節する」の機能は使用できません。

音場と音質の調節
(別売DSP)

1

DSP 調節モードの切り換えかた

音場と音質の調整は、DSP 調節モードを切り換えて操作します。

1 DSP 調節モード を切り換える

DSP ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

P. EQ1 : イコライザー選択モード
(音場と音質の調節 (別売 DSP) ②)



P. EQ2 : 3バンドパラメトリックイコライザーモード
(音場と音質の調節 (別売 DSP) ③ 102 ページ)



POSI : リスニングポジションセクターモード
(音場と音質の調節 (別売 DSP) ④ 103 ページ)



PL 1 : ドルビープロロジック モード
(音場と音質の調節 (別売 DSP) ⑤ 104 ページ)



PL 2 : ドルビープロロジック ミュージックモード
(音場と音質の調節 (別売 DSP) ⑥ 105 ページ)



SFC : SFC モード
(音場と音質の調節 (別売 DSP) ⑦ 106 ページ)



AUTO EQ : オートイコライザーモード
(音場と音質の調節 (別売 DSP) ⑧ 107 ページ)



P. EQ1 : イコライザー選択モードに戻る

メモ

DSP 調節モードを解除するには、BAND ボタンを押します。

DSP 調節モードは、約30秒間、何も操作しなかったときに自動で解除されます。ただし、3バンドパラメトリックイコライザーモードを選んでいるときは、自動では解除されません。

スピーカー設定モード (音の調節 (別売 DSP) ⑨ 94 ページ)で、センタースピーカーとリアスピーカーがOFF に設定されているときは、ドルビープロロジック モードには切り換わりません。

オーディオ調節モードのダイレクトがONの間は、音量調節 (VOLUME と ATT) とドルビープロロジック のみが有効です。そのほかのDSP 調節およびオーディオ調節はできません。

音楽に合った音質を設定する

あらかじめ用意されたイコライザーカーブの中から、お好みのものを選ぶことができます。

Custom1 について

Custom1 には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。(内蔵CDとマルチCD、およびエクスターナル1とエクスターナル2は同じ設定になります。) また、一度も調節をしていないソースでは、最後に他のソースで調節した内容が呼び出されます。

Custom2 以外のカーブを選んでいるときに調節すると、調整したカーブが Custom1 に記憶されます。

Custom2 について

Custom2 は、すべてのソースに共通したイコライザーカーブです。お好みに合わせて調節することができます。

Custom2 を選んでいるときに調節すると、調節したカーブが新しい Custom2 として記憶されます。

Flat について

Flat は、イコライザーによる音の補正はされていません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えることで、設定したイコライザーカーブの効果を確認することができます。

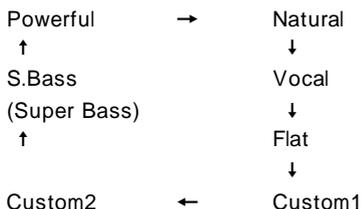
1 イコライザー選択モードにする

DSP ボタンを操作して選ぶ
( 音場と音質の調節 (別売 DSP) ①)

2 イコライザーカーブを切り換える

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除してください。

3 バンドパラメトリックイコライザーを調節する

3 バンドパラメトリックイコライザー

Custom 1 と Custom 2 はフロント/リア/センターのイコライザーカーブを別々に調節することができます。各スピーカーのバンドごとに中心周波数を設定し、レベル調節やカーブの傾きの切り換えを行うことができます。

イコライザーの調節について

センタースピーカーは、音像を定位させる際に影響が大きいスピーカーです。このため、他のスピーカーと同時にバランスをとるのは、とても難しい作業です。全体のバランスをとるため、2チャンネルの音声(CDなど)を再生し、センターを除く全てのスピーカーのバランスを調節したあと、5.1チャンネルの音声(ドルビーデジタルやDTS)を再生し、センタースピーカーを全体のバランスに合わせるように調節すると、スムーズに行うことができます。

中心周波数について

各バンドの中心周波数は、26種類の周波数のの中から選ぶことができます。周波数は、1/3オクターブずつのステップで切り換えることができますが、各バンドの中心周波数の間隔を1オクターブ未満に設定することはできません。

1 3バンドパラメトリックイコライザーモードにする

DSP ボタンを押して選ぶ

(音場と音質の調節(別売DSP) 100ページ)

2 調節したい項目を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

スピーカーモード ↔ バンドモード ↔ 中心周波数モード ↔ レベルモード ↔ カーブの傾きモード

3 調節したいスピーカーを選ぶ

▶ ボタンを押してスピーカーモードを選び、▲または▼ボタンを押す



Front (フロント)、Center (センター)、Rear (リア)の中から選ぶことができます。

4 バンドを選ぶ

▶ ボタンを押してバンドモードを選び、▲または▼ボタンを押す



Low (低音)、Mid (中音)、High (高音)、の中から選ぶことができます。

5 中心周波数を選ぶ

▶ ボタンを押して中心周波数モードを選び、▲または▼ボタンを押す

▲: 高い周波数を選ぶとき

▼: 低い周波数を選ぶとき



40、50、63、80、100、125、160、200、250、315、400、500、630、800、1k、1.25k、1.6k、2k、2.5k、3.15k、4k、5k、6.3k、8k、10k、12.5k (Hz) のの中から選ぶことができます。
選択できる周波数は、手順4で選んだバンドによって異なります。

乗車位置や人数に合わせて、聞く位置を選ぶことができます。

6 レベルを調節する

▶ ボタンを押してレベルモードを選び、

▲または▼ボタンを押す

▲ : 強めるとき

▼ : 弱めるとき



レベルは - 6 ~ + 6 の範囲で調節できます。

7 カーブの傾きを選ぶ

▶ ボタンを押してカーブの傾きモードを選び、▲または▼ボタンを押す

▲ : Q: Wide (穏やかな傾き)

▼ : Q:Narrow (急な傾き)



8 各スピーカーの各バンドを同様に調節する

手順 3 ~ 7 を繰り返す

BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除してください。

メモ

スピーカー設定モード (音の調節 (別売 DSP) 94 ページ) で OFF に設定したスピーカーは選べません。

1 リスニングポジションセクターモードにする

DSP ボタンを押して選ぶ

(音場と音質の調節 (別売 DSP) 100 ページ)

2 乗車位置を選ぶ

▲、▼、◀、▶ ボタンを押す

同じボタンを押すごとに、ON/OFF します。

▶ : Front Right

◀ : Front Left

▲ : Front R&L

▼ : All seat

表示	乗車位置
Front Right	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
Front Left	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
Front R&L	同乗者が助手席にいるとき
All seat	同乗者が後部座席にいるとき



選んだ乗車位置が表示されます。

BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除してください。

音場と音質の調節
(別売 DSP)

5

ドルビープロロジック を使う

ドルビープロロジック

ドルビープロロジック を使うと、2チャンネルの音声を5チャンネルに拡張して全帯域で再生することができます。オリジナルの録音空間情報から、より立体的なサラウンド空間を作り出す先進的な機能です。従来のドルビープロロジックに比べ、音の定位がより鮮明になり、音の移動も自然に再生されるので、より立体的な音場を楽しむことができます。

ドルビープロロジック のON/OFFについて

2チャンネルの音声で5.1チャンネルに適したSFC (Musical、Drama、Action) を選んだ場合 (音場と音質の調節 (別売 DSP) ⑦ 106ページ)、ドルビープロロジック をONにすることをおすすめします。また、2チャンネルに適したSFC (Jazz、Hall、Club) を選んだ場合、ドルビープロロジック をOFFにすることをおすすめします。

1 ドルビープロロジック
モードにする

DSP ボタンを押して選ぶ

(音場と音質の調節 (別売 DSP) ① 100ページ)

2 好みのモードを選択する

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Movie → Music → Matrix → OFF → Movieに戻る



BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除してください。

ドルビープロロジック モードについて

ムービー (Movie)

映画やTVドラマなどのステレオ音声を、5.1チャンネル録音に迫る立体的な音で楽しめます。

ミュージック (Music)

広く深い音場を表現し、音楽などを臨場感豊かに楽しめます。

ミュージックモードのパラメーターを調整することで、好みに合わせた空間表現を得ることができます。(音場と音質の調節 (別売 DSP) ⑥)

マトリクス (Matrix)

方向性強調回路がオフになるため、シンプルなサラウンド再生になります。FMやTVなどのステレオ放送で受信状態が不安定な場合に向いています。

OFF

ドルビープロロジック をOFFにします。

メモ

スピーカー設定モード (音の調節 (別売 DSP) ③ 94ページ) で、センタースピーカーとリアスピーカーがOFFに設定されているときは、ドルビープロロジック モードには切り換わりません。2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジック をONにすると、次のような現象が起こることがあります。

* センタースピーカーの設定をSmallやLargeにしている場合、センタースピーカーだけから音が出ることがあります。また、センタースピーカーを接続しないと、音が出されることがあります。

ドルビープロロジック は、48kHzまでのサンプリング周波数で動作します。

ミュージックモードの切り換えかた

ドルビープロロジック ミュージック

広く深い音場を表現し、音楽などを臨場感豊かに楽しむことができます。

1 ドルビープロロジック モードで Music を選ぶ

(音場と音質の調節 (別売 DSP) ⑤)

2 ドルビープロロジック ミュージックモードにする

DSP ボタンを押して選ぶ
(音場と音質の調節 (別売 DSP) ① 100 ページ)

注意

ドルビープロロジック モードで Music を選んだときだけ、ドルビープロロジック ミュージックモードに切り換わります。

3 好みのモードを選択する

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Panorama ↔ DIME ↔ Center W



4 選んだ項目を調節する

▲または▼ ボタンを押す

項目	設定/調節範囲
Panorama	ON、OFF
DIME	- 3 ~ + 3
Center W	0 ~ 7

BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除してください。

メモ

スピーカー設定モード (音の調節 (別売 DSP) ③ 94 ページ) で、センタースピーカーとリアスピーカーが OFF に設定されているときは、ドルビープロロジック ミュージックモードには切り換わりません。

ミュージックモードについて

パノラマ (Panorama)

フロントのステレオイメージをサラウンドスピーカーまで拡張して、包み込みの効果を大きくします。

ディメンション (DIME)

音場の位置をフロント側、リア側に細かく調節します。- 3 ~ + 3 の間で調節します。+ はフロント側に、- はリア (サラウンド) 側に音を移動します。

センター幅 (Center W)

センターの音を、フロントの LR チャンネルとセンターチャンネルの3つのスピーカーにどのように振り分けるかを 0 ~ 7 の間で設定します。推奨は 3 で、ほとんどの録音に適しています。0 は、センタースピーカーだけでセンターの音を再生します。7 は通常のステレオと同様にセンターの音をフロントの L と R に振り分けます。

SFCでは、実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。

SFCについて

SFCは、Sound Field Control (サウンドフィールドコントロール)の略です。

演奏会場は、会場ごとに独特の雰囲気があります。これは、会場の広さや形状、残響特性が異なり、直接音・初期反射音・残響音の長さや質が変化するためです。SFCには、このようなことを考慮した音場空間プログラムが設定されています。

1 SFCモードにする

DSP ボタンを押して選ぶ

( 音場と音質の調節 (別売DSP) ① 100ページ)

2 SFCモードを切り換える

◀または▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

OFF ↔ Musical ↔ Drama ↔ Action
↔ Jazz ↔ Hall ↔ Club ↔ OFFに戻る



BAND ボタンを押して、DSP 調節モードを解除してください。

音場空間プログラムについて

Musical

音楽ソフトやミュージカル系の映画の再生を楽しむのに適しています。

Drama

リアスピーカーの音と一体となって、1つの大きなスピーカーのように響くイメージで幅広いサウンド感を再現します。また、直接音もしっかりと響き、ストーリー重視の映画を楽しむのに適しています。

Action

躍動感、スピード感に加え、爆発シーンの迫力を包み込むように再現します。アクションシーンの多い映画を楽しむのに適しています。

Jazz

ジャズクラブでの音場を再現します。ライブ録音の音声などを楽しむのに適しています。

Hall

コンサートホールの音場を再現します。残響音豊かな響きでクラシック音楽などを楽しむのに適しています。

Club

クラブの音場を再現します。残響音が吸収されやすい音場を再現し、ビートの効いた音楽を楽しむのに適しています。

メモ

2チャンネルの音声で5.1チャンネルに適したSFC (Musical, Drama, Action) を選んだ場合、ドルビープロロジック ( 音場と音質の調節 (別売DSP) ⑤ 104ページ) をONにすることをおすすめします。また、2チャンネルに適したSFC (Jazz, Hall, Club) を選んだ場合、ドルビープロロジック をOFFにすることをおすすめします。

オートイコライザー をON/OFFする

Auto EQ

オートタイムアライメント&イコライジング (Auto TA&EQ)で作成した、オートイコライザーカーブをON/OFFすることができます。

1 オートイコライザー モードにする

DSP ボタンを押して選ぶ

( 音場と音質の調節 (別売DSP) ① 100ページ)

2 オートイコライザーを ONにする

▲ ボタンを押す (▼ボタンでOFF)



BAND ボタンを押して、DSP調節モードを解除してください。

メモ

Auto TA&EQ ( 音場と音質の調節 (別売DSP) ⑩ 110ページ) を行っていないときは、オートイコライザーモードは操作できません。

オートタイムアライメント & イコライジングを行う前に

オートタイムアライメント & イコライジング (Auto TA&EQ) を行う前に必ずお読みください。



警告

運転中に Auto TA&EQ を行わない



自動車が走行中に Auto TA&EQ を行わないでください。Auto TA&EQ 機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

スピーカー破損防止について

次の状態で Auto TA&EQ を行うと、スピーカーが破損する恐れがあります。Auto TA&EQ を行う前に、よく確認してください。

スピーカーの接続を誤っている場合
(例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)

スピーカーの耐入力を超える出力のパワーアンプを接続している場合

Auto TA&EQ 機能について

車室内空間は、その広さや複雑な形状、材質により、ホームオーディオに比べ、一般的に音響特性が大きく乱れています。このような車室内の音響特性を補正するためにイコライザーを使用しますが、測定器などを使用せずに設定するのはかなり困難な作業になります。

「DEQ-P9」の Auto TA&EQ 機能は、車室内の音響特性を自動的に測定し、そのデータに基づいて、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな特性に近づくように自動的に補正します。(イコライザーカーブを呼び出したときは、Auto TA&EQ により乱れの少ない滑らかな特性になったうえでイコライザーカーブが設定されますので、より効果的になります。) また、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を自動的に測定して、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調整します。

Auto TA&EQを行う前にお読みください

Auto TA&EQは、なるべく静かな所で、車のエンジンおよびエアコンやヒーターを止めて行ってください。また、携帯電話や自動車電話などを車載している場合は、電話を車外へ持ち出すか電源を切ってからAuto TA&EQを行ってください。計測音以外の音（車周辺の騒音、エンジン音、電話の着信音など）によって、車室内の音響特性が正しく測定できないことがあります。

Auto TA&EQは、必ず「DEQ-P9」に付属の音響特性測定用マイクを使用してください。付属の音響特性測定用マイク以外のマイクでは、Auto TA&EQが実行できなかったり、車室内の音響特性が正しく測定できません。

フロントスピーカーが接続されていない場合は、Auto TA&EQが実行できません。

フロントスピーカーをミュートしている場合は、Auto TA&EQが実行できません。

入力レベルコントロール付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプの入力レベルコントロールを下げていると、Auto TA&EQが実行できない場合があります。パワーアンプの入力レベルコントロールは推奨位置に合わせてください。

ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプのローパスフィルターはOFFにして測定してください。また、パワードサブウーファー内蔵のローパスフィルターは、カットオフ周波数を最も高い値に設定してください。

Auto TA&EQ測定時に算出したタイムアライメントの値は、次の場合に実際の距離と異なることがあります。計測状況によりコンピューターが算出した正確な遅延時間をもとに設定された距離です。そのままの値でご使用ください。

- * 車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている場合。
- * パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている場合。
Auto TA&EQを行うと、各モードの内容が次のように変更されます。
- * 前後左右の音量バランス調節（フェーダー/バランス）の設定がリセットされ、初期設定に戻ります。
- * イコライザーカーブは、フラット（Flat）になります。
- * リスニングポジションセレクターは、Front Rightに設定されます。（ただし、Front Leftに設定していたときだけは、Front Leftのままです。）
- * サブウーファーを接続している場合、サブウーファー出力とリアハイパスフィルターの設定が調節されます。（サブウーファー出力をOFFにしても、自動的にONになり調節されます。）

Auto TA&EQの調節内容について

一度Auto TA&EQを行ったあとに、再度Auto TA&EQを行うと、前のAuto TA&EQの調節内容は消去されます。

オートタイムアライメント&イコライジングを行う

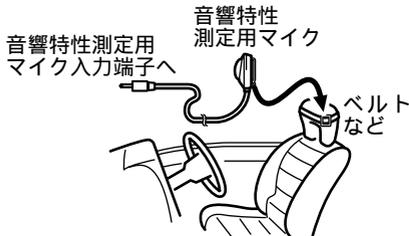
車内の音響特性を自動的に計測して、車室内の音響特性を最適に自動補正することができます。

1 車の環境を整える

- 静かな所に車を停車させる
- ドア、窓、サンルーフなどを閉める
- 車のエンジンを停止させる
- エアコンやヒーターをOFFにする

2 音響特性測定用マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に「DEQ-P9」に付属の音響特性測定用マイクを前向きに固定する



注意

音響特性測定用マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がる恐れがあります。音響特性測定用マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。

3 車のエンジンスイッチをACCまたはONにする

注意

車のエアコンやヒーターがONになっている場合は、OFFにしてください。エアコンやヒーターのファンの騒音によってAuto TA&EQが実行できないことがあります。

4 本機の電源を入れる

SOURCE ボタンを押す

5 乗車位置を決定する

リスニングポジションセクターモードで、音響特性測定用マイクをセットした座席を乗車位置に設定する

(103 音場と音質の調節 (別売DSP) ④ 103ページ)

メモ

乗車位置をFront RightまたはFront Left以外に設定したときは、Auto TA&EQを始めると、強制的にFront Rightに再設定されます。

6 本機の電源を切る

SOURCE ボタンを1秒以上押す

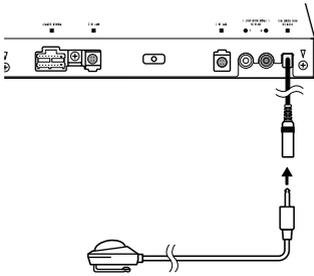
7 Auto TA&EQ設定モードにする

AUDIO ボタンを2秒以上押す



8 音響特性測定用マイクを「DEQ-P9」に接続する

「DEQ-P9」に付属の音響特性測定用マイクを「DEQ-P9」のマイク入力端子 (Auto TA&EQ用) に接続する

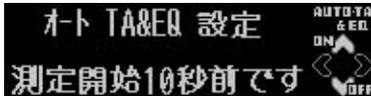


メモ

マイク入力端子 (Auto TA&EQ用) に音響特性測定用マイクがしっかりと挿入されていない状態でAuto TA&EQを行うと、エラーが発生します。音響特性測定用マイクを確実に挿入して、Auto TA&EQを行ってください。

9 Auto TA&EQを始める

▲ ボタンを押す (▼ ボタンで中止)



Auto TA&EQが始まるまでの秒数が表示されます。

注意

Auto TA&EQを始めてから測定が終了するまでに、約8分かかります。測定時間は、周囲の騒音状態、車両形状、スピーカーの数などにより変わります。

10 車の外に出る

“ピッ”という音で10秒のカウントダウンが始まるので、10秒以内に車外に出て、ドアを閉める

計測音 (ノイズ) が各スピーカーから出力され、Auto TA&EQが始まります。

11 Auto TA&EQが自動的に終了する



Auto TA&EQが正常に行われると、“設定を終了しました”と表示されます。

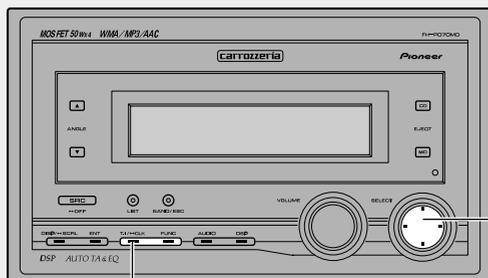
BANDボタンを押して、Auto TA&EQ設定モードを解除してください。また、音響特性測定用マイクを取り外してください。

メモ

Auto TA&EQを途中でやめなくなったときは、BANDボタンを押してください。強制的に解除して、電源がOFFになります。

音響特性測定用マイクをセットする位置により、Auto TA&EQの調節内容が変わります。

お好みにより、助手席にセットすることもできます。音響特性測定用マイクはグローブボックスなどに、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になる恐れがあります。



トラフィックインフォメーション
T.I. ボタン

◀▶ ボタン

便利な機能

1

瞬時に 音量を小さくする

アッテネーター

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくすることができます。

1 瞬時に音量を小さくする

リモコンの ATT ボタンを押す

(はじめに ① 9 ページ)

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



アッテネーターが ON のときに点滅します。

アッテネーターが ON のときは、音量が約 1/10 になります。

便利な機能

2

時計を表示する

時計表示

本機の電源が ON のとき、または電源が OFF でフィーチャーデモ (はじめに ④ 14 ページ) を解除しているときに、時計を表示することができます。

1 時計を選ぶ

T.I. ボタンを 2 秒以上押す

ボタンを 2 秒以上押すごとに ON/OFF します。



メモ

本体の電源が ON の場合は、時計表示のときにほかの操作をすると、時計表示は一度解除されますが、約 6 秒後にもとの表示に戻ります。

時計を合わせるには (便利な機能 ⑧ 117 ページ)

交通情報を受信する

トラフィックインフォメーション

AM 1,620 kHzまたは1,629 kHzの交通情報を、簡単に受信することができます。

1 交通情報を受信する

T.Iボタンを押す
交通情報を受信します。

2 放送に合わせて周波数を切り換える

- ◀または▶ ボタンを押す
- ▶ : 1,629 kHz にするとき
 - ◀ : 1,620 kHz にするとき



受信周波数

3 交通情報の受信をやめる

T.Iボタンを押す
交通情報を受信する前の状態に戻ります。

メモ

この機能は、電源がOFFのときでも、どのソースからでも操作できます。
交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定することができます。
交通情報を受信すると、SFC (音場と音質の調節) 86ページ、音場と音質の調節 (別売DSP) 7106ページがOFFになり、イコライザーカーブは交通情報用になります。交通情報の受信をやめるとSFCおよびイコライザーカーブは、もとの状態に戻ります。

よく使う機能を直接操作する

ダイレクトファンクション

リモコンのDFボタンを押すと、よく使う機能をソースごとに直接操作することができます。

内蔵CD・WMA/MP3/AAC/WAV・内蔵MD・マルチCDのとき

1 再生を一時停止する

リモコンのDFボタンを押す
(☞ はじめに① 9ページ)
ボタンを押すごとに機能がON/OFFします。
(☞ 内蔵CD⑥ 35ページ、☞ WMA/MP3/AAC/WAV⑥ 43ページ、☞ 内蔵MD⑥ 51ページ、マルチCD⑫ 66ページ)

ラジオのとき

1 BSM を始める

リモコンのDFボタンを2秒以上押す
(☞ はじめに① 9ページ)
BSMが始まります。
(☞ ラジオ② 54ページ)

メモ

BSM中にリモコンのDFボタンを押すことで、BSMを途中解除することもできます。

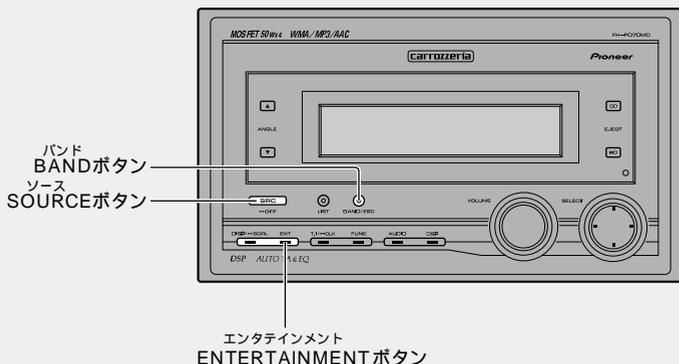
テレビのとき

1 BSSM を始める

リモコンのDFボタンを2秒以上押す
(☞ はじめに① 9ページ)
BSSMが始まります。
(☞ テレビの取扱説明書)

メモ

BSSM中にリモコンのDFボタンを押すことで、BSSMを途中解除することもできます。



便利な機能
5

エンタテインメント表示を切り換える

エンタテインメント表示

各ソースを聞いているときに、エンタテインメントディスプレイの表示を切り換えることで、いろいろな表示を楽しむことができます。

1 聞きたいソースを選ぶ

SOURCE ボタンを押す

(ここだけで① 20 ページ)

スピーカーから音が出力されている状態にします。

2 エンタテインメント表示を切り換える

ENTERTAINMENT ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

バックグラウンドビジュアル 1



バックグラウンドビジュアル 2



バックグラウンドビジュアル 3



バックグラウンドピクチャー 1



バックグラウンドピクチャー 2



バックグラウンドピクチャー 3



バックグラウンドピクチャー 4



バックグラウンドピクチャー 5



スペクトラムアナライザー



レベルインジケーター 1



レベルインジケーター 2



レベルインジケーター 3



エンタテインメントクロック



ムービースクリーン 1 (リメインズ)



ムービースクリーン 2 (ディメンション)



エンタテインメント表示 OFF



バックグラウンドビジュアル 1 に戻る

外部機器に合わせてデジタル接続に切り換える

デジタル/アナログ切り換え

パイオニア製のナビゲーションユニット（「AVIC-DRV50」など）と5.1ch対応・DSPユニット（「DEQ-P9」など）を光ケーブルでつないで本機と組み合わせたときに、ナビゲーションユニットで選択したソースの音声を、AUX（外部機器）として車両のスピーカーから出力できます。

チェック 別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を本機に接続しているときだけ操作できます。

デジタルに設定する場合について

ナビゲーションユニットの内蔵プレーヤーを選択しているときは、本機のAUX（外部機器）をデジタルに設定してください。

アナログに設定する場合について

ナビゲーションユニットのテレビ、ミュージックサーバーを選択したとき、または本機にナビゲーションユニットを接続しないときは、AUXをアナログに設定してください。

1 ソースをAUXにする

SOURCE ボタンを押す

( ここだけで① 20 ページ)

2 デジタル/アナログを切り換える

BAND ボタンを押す

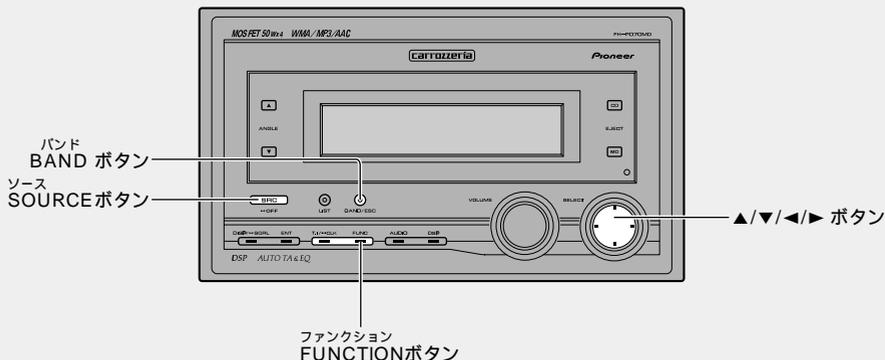
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

DIGITAL : デジタル



ANALOG : アナログ





便利な機能

7

初期設定モードの切り換えかた

外部機器やディマーの設定をするときは、初期設定モードを切り換えて操作します。

1 電源を OFF にする

SOURCE ボタンを 1 秒以上押す
(☞ ここだけで① 20 ページ)

2 初期設定モードにする

電源が OFF のときに FUNCTION ボタン
を 2 秒以上押す

3 初期設定モードを切り換える

FUNCTION ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

時計調節モード
(☞ 便利な機能⑧)

AUX (外部機器) モード
(☞ 便利な機能⑨)

ディマーモード
(☞ 便利な機能⑩ 118 ページ)

輝度調節モード
(☞ 便利な機能⑪ 119 ページ)

RCA 外部出力モード
(☞ 便利な機能⑫ 119 ページ)

デジタルアッテネーターモード
(☞ 便利な機能⑬ 120 ページ)

ミュート/アッテネートモード
(☞ 便利な機能⑭ 120 ページ)

デモンストレーション設定モード
(☞ 便利な機能⑮ 121 ページ)

画面反転機能設定モード
(☞ 便利な機能⑯ 122 ページ)

連続スクロール設定モード
(☞ 便利な機能⑰ 122 ページ)

オーディオリセット設定モード
(☞ 便利な機能⑱ 123 ページ)

時計調節モードに戻る

メモ

初期設定モードを解除するには、BAND ボタンを押します。(解除すると、電源が OFF になります。)別売の 5.1ch 対応・DSP ユニット「DEQ-P9」を接続しているときは、RCA 外部出力モードには切り換わりません。

オーディオリセット設定モードには、別売の 5.1ch 対応・DSP ユニット「DEQ-P9」を接続しているときだけ切り換わります。

時計を合わせる

時計合わせ

時計を合わせることができます。

1 時計調節モードにする

電源がOFFのときにFUNCTIONボタンを2秒以上押してから、FUNCTIONボタンを押して選ぶ

(☞ 便利な機能⑦)



2 時計の設定をする

時、分を選ぶ

◀または▶ボタンを押す
操作することにより時、分が切り換わります。

時刻を合わせる

▲または▼ボタンを押す

▲：時刻を進めるとき

▼：時刻を戻すとき

時または分を調節すると、0秒からカウントが始まります。

BANDボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

外部機器の音声を聞く

AUX (外部機器) の設定

本機にポータブル機器やVTRなどの外部機器を接続すると、その音声を聞くことができます。

外部機器との接続について

別売のRCA/IP-BUSインターコネクター「CD-RB20」または「CD-RB10」を使うと、RCA出力のあるポータブル機器やVTRを、外部機器として本機に接続することができます。詳しくは、RCA/IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

1 AUX (外部機器)モードにする

電源がOFFのときにFUNCTIONボタンを2秒以上押してから、FUNCTIONボタンを押して選ぶ

(☞ 便利な機能⑦)

2 AUX (外部機器) の設定をONにする

▲ボタンを押す (▼ボタンでOFF)

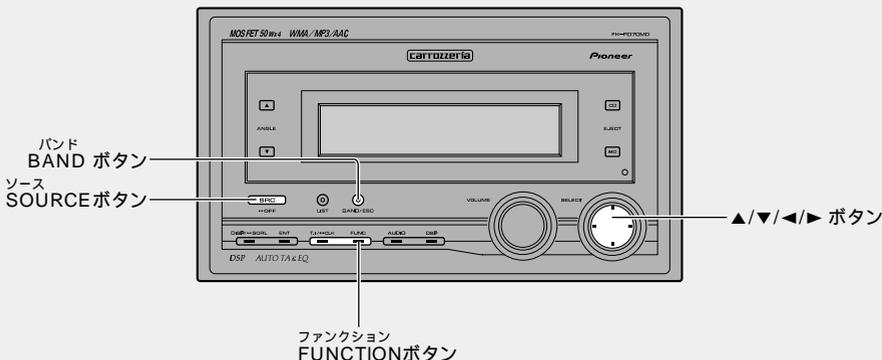


3 ソースをAUXにする

SOURCEボタンを押す

(☞ ここだけで① 20 ページ)

ソースをAUXに切り換えると、外部機器の音声が出力されます。



10 外部機器の名称を入力する

便利な機能

AUX (外部機器) の名称設定

接続した外部機器の名称を入力することができます。

1 ソースを AUX にする

SOURCE ボタンを押す
(☞ ここだけで① 20 ページ)



2 外部機器の名称入力モードにする

FUNCTION ボタンを2秒以上押す



3 外部機器の名称を入力して、記憶させる

CDタイトル入力の手順3～5を参照し、同様の操作で外部機器の名称を記憶させてください。(☞ マルチCD① 65 ページ)
入力できるのは、8文字までです。

例) “DAT” を入力した場合



“AUX” の表示の代わりに、入力した名称が表示されます。

11 夜のディスプレイの明るさを切り換える

便利な機能

ディマー

夜間、周囲が暗くなったときにディスプレイがまぶしくならないように、車のライトをONにするとディマーが働き、ディスプレイが暗くなるように設定できます。

1 ディマーモードにする

電源がOFFのときにFUNCTIONボタンを2秒以上押してから、FUNCTIONボタンを押して選ぶ

(☞ 便利な機能⑦ 116 ページ)

2 ディマーの設定をONにする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンでOFF)



BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

ディスプレイの明るさを調節する

ブライト

ディスプレイの明るさを調節できます。

1 輝度調節モードにする

電源がOFFのときにFUNCTIONボタンを2秒以上押してから、FUNCTIONボタンを押して選ぶ

(便利な機能⑦ 116ページ)

2 明るさを調節する

◀または▶ボタンを押す

▶：明るくするとき

◀：暗くするとき



0～15の範囲で調節できます。

BANDボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

メモ

ディマー (便利な機能⑩) をONにして車のライトをONにしている場合、輝度調節モードの調節範囲は0～10になります。

RCA外部出力から出力される信号を選ぶ

外部出力

本機のRCA外部出力に外部アンプを接続した場合、外部アンプに接続するスピーカーに合わせてこの設定を切り換えます。

チェック 別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を本機に接続しているときは操作できません。

1 RCA外部出力モードにする

電源がOFFのときにFUNCTIONボタンを2秒以上押してから、FUNCTIONボタンを押して選ぶ

(便利な機能⑦ 116ページ)

2 接続するスピーカーに合わせて選択する

◀または▶ボタンを押す

▶：リアスピーカーを接続するとき (Rear)

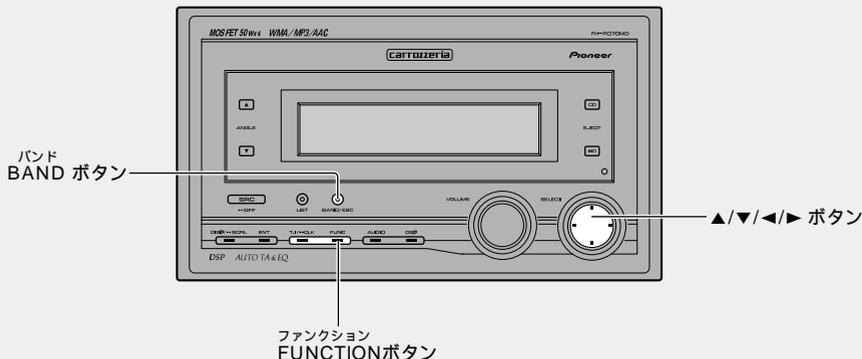
◀：サブウーファーを接続するとき (S/W)



BANDボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

メモ

Rearに設定したときは、サブウーファーの調節 (④ 74ページ) はできません。



便利な機能
14

音の歪みを補正する

デジタルアッテネーター

イコライザーカーブの設定 (E 音場と音質の調節 ④ 82 ページ、音場と音質の調節 (別売 DSP) ⑤ 102 ページ) による音の歪みをなくすことができます。

デジタルアッテネーターについて

イコライザーカーブの設定でレベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。イコライザーカーブの設定で音が歪んだように感じたときは、デジタルアッテネーターの設定を LOW に切り換えてください。

1 デジタルアッテネーターモードにする

電源が OFF のときに FUNCTION ボタンを 2 秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押して選ぶ

(E 便利な機能 ⑦ 116 ページ)

2 設定を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : High を選ぶとき
- ◀ : Low を選ぶとき



BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

便利な機能
15

ミュート/アッテネートを切り換える

ミュート/アッテネート設定

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときに、本機の音声をミュートするかアッテネートするかを選ぶことができます。

ミュート/アッテネート機能について

ミュート機能のあるパイオニア製ナビゲーションシステムと本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているときだけ、ミュートまたはアッテネート機能が働きます。ミュート信号を受け取っているときの各設定の音量は、次のようになります。

Mute : 音量 "0"

10dB ATT : もとの音量の約 1/3

20dB ATT : もとの音量の約 1/10

ミュートまたはアッテネート機能が解除されると、自動的にもとの音量に戻ります。

便利な機能 **16** **フィーチャーデモを ON/OFF する**
 フィーチャーデモ

フィーチャーデモを ON/OFF することができます。

フィーチャーデモについて

フィーチャーデモは、本機が OFF のときに、各ソースや本機の機能の画面を表示して紹介する機能です。

1 デモンストレーション設定モードにする

電源が OFF のときに FUNCTION ボタンを 2 秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押して選ぶ

(☞ 便利な機能 116 ページ)

2 フィーチャーデモを ON にする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンで OFF)



BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

メモ

フィーチャーデモは、本機が OFF のときに、ENTERTAINMENT ボタンを押すことでも ON/OFF することができます。

1 ミュート/アッテネートモードにする

電源が OFF のときに FUNCTION ボタンを 2 秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押して選ぶ

(☞ 便利な機能 116 ページ)

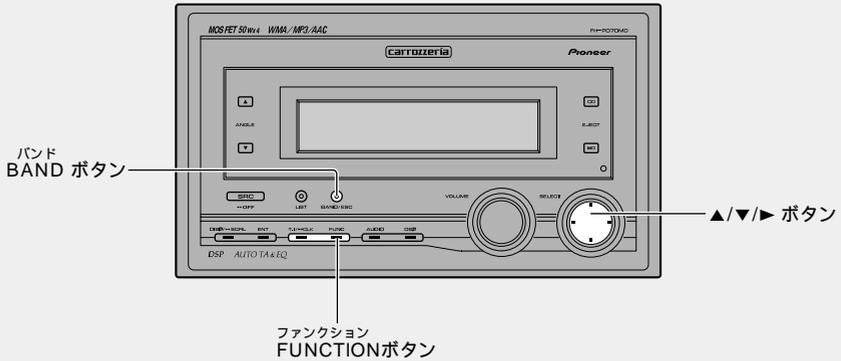
2 設定を選ぶ

◀ または ▶ ボタンを押す



Mute、10dB ATT、20dB ATT の中から選ぶことができます。

BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除してください。



便利な機能 17 リバースモードを ON/OFF する

画面反転

リバースモードをON/OFFすることができます。

リバース（画面反転）機能について

リバースは、各ソースを聞いているときに約30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10秒間隔で行われます。

1 画面反転機能設定モードにする

電源がOFFのときにFUNCTIONボタンを2秒以上押してから、FUNCTIONボタンを押して選ぶ

(☞ 便利な機能 116 ページ)

2 リバースモードをONにする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンでOFF)



BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

メモ

リバースモードは、本機がOFFのときに、BAND ボタンを押すことでもON/OFFすることができます。

便利な機能 18 CDタイトルなどのスクロールのしかたを切り換える

連続スクロール設定

連続スクロール機能をONにすると、CDのタイトルなどを繰り返しスクロールさせることができます。一度だけスクロールさせたいときは、この機能をOFFにしてください。(初期状態ではOFFになっています。)

1 連続スクロール設定モードにする

電源がOFFのときにFUNCTIONボタンを2秒以上押してから、FUNCTIONボタンを押して選ぶ

(☞ 便利な機能 116 ページ)

2 連続スクロールの設定をONにする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンでOFF)



BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

オーディオ設定をリセットする

オーディオリセット

オーディオ調節およびDSP調節の設定を出荷時の状態に戻すことができます。

チェック 別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を本機に接続しているときだけ操作できます。

リセットされる設定について

リセットされるのは、別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続して調節できるオーディオ調節およびDSP調節の設定です。ただし、以下のモードの設定を除きます。

リセットされない設定

- オーディオ調節の音量バランス調節モード
- オーディオ調節のダウンミックスモード
- オーディオ調節のダイナミックレンジコントロールモード
- オーディオ調節のダイレクトモード
- オーディオ調節のSLAモード
- DSP調節のリスニングポジションセクターモード
- 初期設定のデジタルアッテネーターモード
- 初期設定のミュート/アッテネートモード
- ボリューム

1 オーディオリセット設定モードにする

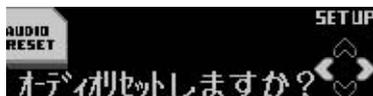
電源がOFFのときにFUNCTIONボタンを2秒以上押してから、FUNCTIONボタンを押して選ぶ

(☞ 便利な機能⑦ 116ページ)

2 リセットを選ぶ

▲ ボタンを押す

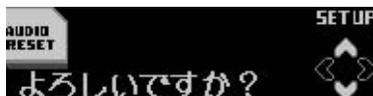
確認の画面が表示されます。リセットをやめるときは、BANDボタンを押します。



3 リセットの確認をする

▶ ボタンを押す

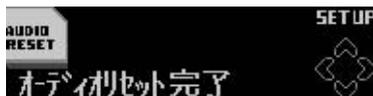
確認の画面が、再度、表示されます。リセットしないときは、BANDボタンを押します。



4 リセットする

▲ ボタンを押す

リセットが完了します。



BANDボタンを押して、初期設定モードを解除してください。

CDの正しい使いかた

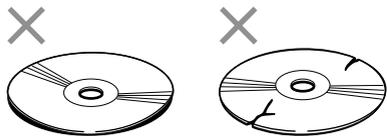
使用できるCDについて

下記マークの付いているコンパクトディスク(光学式デジタルオーディオディスク)をご使用ください。

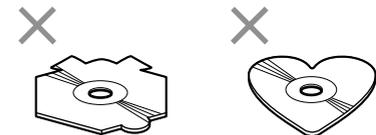


本機は音楽CD規格に準拠して設計されています。コピーコントロールCDなどのCD規格外ディスクの動作保証及び性能保証は致しかねます。

ひび、キズ、そのあるCDは使用しないでください。



特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



音楽用CDレコーダーまたはパソコンで記録したCD-R/CD-RWディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。

パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できないことがあります。(詳細はアプリケーションの発売元にお問い合わせください。)

直射日光や高温等、車内での保管状況により、CD-R/CD-RWディスクは再生できなくなる場合があります。

CD-R/CD-RWディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。(音楽データ(CD-DA)再生時)

本機はCD-R/CD-RWディスクのトラックスキップ機能に対応しています。スキップ指定された曲を飛ばして再生します。(音楽データ(CD-DA)再生時)

ファイナライズされていないCD-R/CD-RWディスクには対応していません。

CD-RWディスクは、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常のCDやCD-Rディスクより時間がかかります。

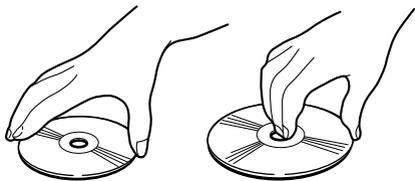
CD-R/CD-RWディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

メモ

製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

取り扱い上のご注意

CDは、下図のように、信号記録面(虹色に光っている面)をさわらないように持ってください。



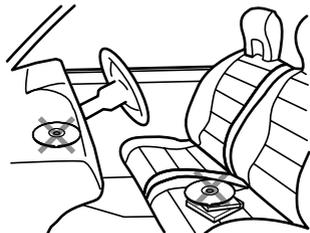
CDにキズを付けないでください。

CDにシールなどを貼り付けしないでください。



保管上のご注意

直射日光の当たるところや高温になるところには、CDを保管しないでください。



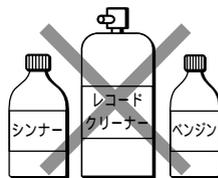
CDがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

CDが汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽く拭いてください。



アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけたください。



CD再生の環境について

走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。

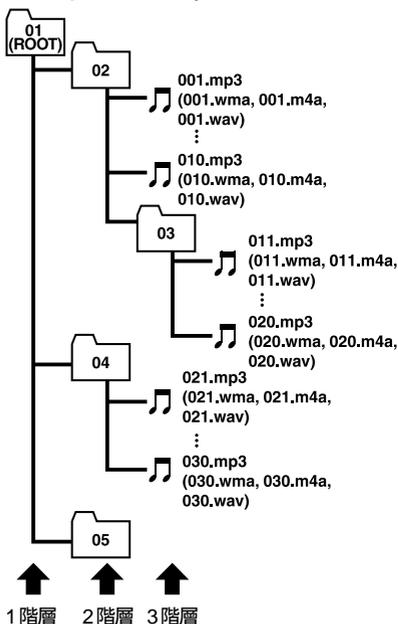
寒いとき、ヒーターを入れた直後にCD再生を始めると、本機内部の光学系レンズやCDに露が付いて、正常な再生ができないことがあります。

このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。CDに付いた露は柔らかい布でふいてください。

WMA/MP3/AAC/WAV ファイルについて

フォルダーとWMA/MP3/AAC/WAVファイルについて

WMA/MP3/AAC/WAVファイルを収録したCD-R/CD-RW/CD-ROMのイメージは下図のようになります。



本機はWMA/MP3/AAC/WAVファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMの再生に対応しています。ISO9660のレベル1、レベル2、および拡張フォーマット (Joliet, Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。(☞ その他 136 ページ)

本機はマルチセッション (☞ その他 136 ページ) 方式で記録したディスクの再生に対応しています。

パケットライト (☞ その他 136 ページ) には対応していません。

m3u (☞ その他 137 ページ) のプレイリストには対応していません。

MP3i (MP3 interactive) フォーマット、およびMP3 PRO フォーマットには対応していません。

ファイル名の最大表示文字数は、拡張子 (.wma, .mp3, .m4a, .wav) を含めて半角64文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は半角64文字です。ファイル名、フォルダー名を全角で入力した場合は32文字まで表示できます。

拡張フォーマット (Romeo) (☞ その他 136 ページ) に準拠して記録されたファイルの場合、先頭から64文字までの表示に対応しています。

再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては、再生の順番を設定できるものもあります。

曲間 (トラック間) にブランクがないCDを、WMA/MP3/AAC/WAVファイルとしてCD-R/CD-RW/CD-ROMに記録して再生した場合、曲間が音飛びしたように聞こえます。

メモ

フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てることはできません。

CD-R、CD-RW、CD-EXTRA、MIXED-MODE CD ディスクに、WMA/MP3/AAC/WAVファイルと音楽データ (CD-DA) が混在しているときは、WMA/MP3/AAC/WAVファイルと音楽データ (CD-DA) を切り換えることができます (☞ ここだけで 25 ページ)。WMA/MP3/AAC/WAVファイルと音楽データ (CD-DA) を切り換えた場合、再生は一番先頭の曲から始まります。

WMA/MP3/AAC/WAVファイルを含まないフォルダーは認識しません。(フォルダー番号の表示をせず、スキップします。)

8階層までのWMA/MP3/AAC/WAVファイルの再生に対応していますが、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスク作成時には、階層を2つ以下にすることをおすすめします。

ディスクに含まれるフォルダーの合計が99個まで再生可能です。

WMA とは？

「Windows Media™ Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver.7 以降を使用してエンコードすることができます。(☞ その他 ⑦ 137 ページ)

ご注意

WMA ファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
WMA ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
本機で画像データを含む WMA ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

再生できる WMA ファイルについて

ご注意

WMA ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wma) を付けてください。
本機は、拡張子 (.wma) が付いているファイルを WMA ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WMA ファイル以外には拡張子 (.wma) を付けしないでください。
本機は、Windows Media Player Ver. 7/7.1/8/9 を使用してエンコードした WMA ファイルを再生することができます。

再生可能な WMA ファイルのサンプリング周波数は 32/44.1/48 kHz です。
一般的に WMA ファイルは、ビットレート (☞ その他 ⑦ 136 ページ) が高いほど音質は良くなります。本機は、CBR (固定ビットレート) 時は 48 kbps ~ 320 kbps、VBR (可変ビットレート) 時は 48 kbps ~ 384 kbps の WMA ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ高いビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。

デジタル著作権保護 (DRM) で保護されたファイルを再生したときは、“TRK SKIPPED” と表示され、そのファイルの再生がスキップされます。

ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護 (DRM) で保護されている場合は、“PROTECT” と表示され、そのディスクの再生はできません。

この製品は、次の形式には対応していません。

- * Windows Media Audio 9 Professional (5.1ch)
- * Windows Media Audio 9 Lossless (可逆圧縮)
- * Windows Media Audio 9 Voice

MP3 とは？

MPEG Audio Layer-3 の略で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
(☞ その他 ⑦ 137 ページ)

再生できる MP3 ファイルについて

ご注意

MP3 ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.mp3) を付けてください。
本機は、拡張子 (.mp3) が付いているファイルを MP3 ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、MP3 ファイル以外には拡張子 (.mp3) を付けしないでください。

ID3 Tag (☞ その他 ⑦ 136 ページ) の Ver.1.0、1.1、2.2、2.3 および 2.4 のアルバム名、曲名、アーティスト名の表示に対応しています。なお、ID3 Tag の Ver.1.X と Ver.2.X が混在している場合は、Ver.2.X が優先されます。

32/44.1/48 kHz の MP3 ファイルを再生している場合のみエンファシスに対応しています。(なお、再生可能なサンプリング周波数は 16/22.05/24/32/44.1/48 kHz です。)

一般的に MP3 ファイルは、ビットレート (☞ その他 ⑦ 136 ページ) が高いほど音質は良くなります。本機は、8 kbps ~ 320 kbps の MP3 ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、128 kbps 以上のビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。

AAC とは？

Advanced Audio Codingの略で、MPEG-2およびMPEG-4で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

(☞ その他⑦ 136ページ)

再生できる AAC ファイル について

ご注意

AACファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.m4a)を付けてください。

本機は、iTunes Ver.4.1.1.54以降を使用してエンコードされたAACファイルの再生に対応しています。

本機は、iTunesで作成された拡張子(.m4a)が付いているファイルをAACファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、AACファイル以外には拡張子(.m4a)を付けないでください。

本機で画像データを含むAACファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

AACファイルをエンコードしたiTunesのバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。

再生可能なAACファイルのサンプリング周波数は、11.025、16、22.05、24、32、44.1、48 kHzです。

一般的にAACファイルは、ステレオビットレートが高いほど音質は良くなります。本機は、16 kbps ~ 320 kbpsのステレオビットレートで記録されたAACファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ高いステレオビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。

この製品は、下記の形式には対応していません。

* Apple Lossless Encoder

WAV とは？

Waveformの略で、Windows®での標準音声フォーマットです。

(☞ その他⑦ 137ページ)

再生できる WAV ファイル について

ご注意

WAVファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.wav)を付けてください。

本機は、拡張子(.wav)が付いているファイルをWAVファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WAVファイル以外には拡張子(.wav)を付けないでください。

本機は、LPCM形式およびMS ADPCM形式でエンコードされたWAVファイルの再生に対応しています。

本機は、LPCM形式では16/22.05/24/32/44.1/48 kHz、MS ADPCM形式では22.05/44.1 kHzのサンプリング周波数で記録されたファイルの再生に対応しています。

表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではない場合があります。

一般的にWAVファイルは、量子化ビット数(☞ その他⑦ 136ページ)が高いほど音質は良くなります。本機は、LPCM時は8/16 bit、MS ADPCM時は4 bitの量子化ビット数での再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ高い量子化ビット数で記録されたディスクの使用を推奨します。

MDの正しい使いかた

使用できるMDについて

下記マークの付いているMD(ミニディスク)をご使用ください。



音楽用以外のMDは使用しないでください。故障の原因になります。

取り扱い上のご注意

MDのシャッターを手であけないでください。無理にあけるとこわれることがあります。

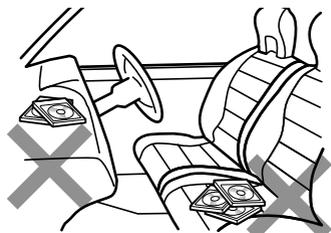
カートリッジ

シャッター



保管上のご注意

MDは、直射日光の当たるところや高温になるところには、保管しないでください。



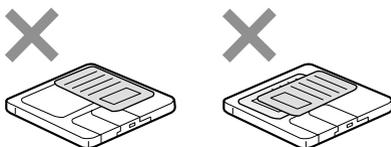
寒いときの結露について

寒いとき、ヒーターを入れた直後にMDの再生を始めると、本機内部の光学系レンズやMDに露が付いて、正常な再生ができないことがあります。

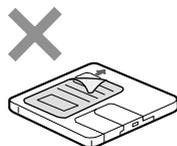
このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。MDのカートリッジ表面に付いた露は柔らかい布で拭いてください。

ラベルについて

MDに付属のラベルは、必ず指定の位置に貼ってください。指定以外の位置に貼ったり、2枚重ねて貼ったりすると、MDが取り出せなくなることがあります。



ラベルがめくれたり、浮いたりしたMDは使用しないでください。ラベルが引っかかり、MDが取り出せなくなります。このようなMDは新しいラベルに貼り換えてからお使いください。



お手入れについて

MDのカートリッジ表面が汚れたときは、柔らかいきれいな布で軽く拭いてください。

MDにベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



MD用クリーニングディスクを使用するときは、クリーニングディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。クリーニングディスクによっては製品の故障の原因になる場合があります。

故障かな?と思ったら

故障かな?と

思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。

チェックしても

直らないときは

本機をリセットしてください。(☞ はじめに④ 14 ページ)

それでも

直らないときは

「保証書とアフターサービス」(☞ その他⑥ 135 ページ)をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症 状	原 因	処 置
本機の電源をOFFにしても、表示が消えない。	フィーチャーデモがONになっている。	デモモードを解除してください。 (☞ 便利な機能⑩ 121 ページ)
ディスプレイが反転表示する。	リバースモードがONになっている。	リバースモードを解除してください。 (☞ 便利な機能⑪ 122 ページ)
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。 (☞ 取付説明書)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものと交換してください。(☞ 取付説明書)
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を上げてください。 (☞ ここだけで②③④⑤⑥ 23、25、27、29、31 ページ)
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください。 (☞ 便利な機能① 112 ページ)
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(☞ 音の調節② 73 ページ、音の調節(別売DSP)② 93 ページ)
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(☞ 音の調節② 73 ページ、音の調節(別売DSP)② 93 ページ)
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(☞ 音の調節② 73 ページ、音の調節(別売DSP)② 93 ページ)
音量が自動的に変化する。	ASLがONになっている。	ASLを解除してください。 (☞ 音場と音質の調節⑩ 87 ページ)

CD、WMA/MP3/AAC/WAV

症 状	原 因	処 置
CD再生中、大きな雑音が出る。 CDの再生が途中で止まる。	CDに大きなキズやそりがあ る。	他のCDと交換してください。良くなればCDの不良です。
	CDが極端に汚れている。	CDの汚れを拭きとってください。 (☞ その他① 125ページ)
	CDに曇りや水滴が付いて いる。	CDの曇りや水滴を拭きとってください。 (☞ その他① 125ページ)
	CDの裏表を逆にしてセッ トしている。	CDのタイトル面を上にしてセットしてください。(☞ ここだけで②③ 22、24ページ)
CDを再生できない。 CDを取り出せない。	本機がディスクを認識して いない。	フロントパネルを開けた状態で、CD EJECT ボタンを2秒以上押すと、ディスクを取り出すことができます。もう一度、入れ直してください。

MD

症 状	原 因	処 置
MD再生中、大きな雑音が出る。 MDの再生が途中で止まる。	MDが極端に汚れている。	MDを交換してください。
	MDに曇りや水滴が付いて いる。	
	録音されていないMDを挿 入した。	
	MDが正しい方向に挿入さ れていない。	MDを取り出し、正しい方向に挿入してください。(☞ ここだけで④ 26ページ)

ラジオ

症 状	原 因	処 置
ラジオの受信中、“ジ ジー、ザーザー”という雑 音が多い。	放送局の周波数が合ってい ない。	周波数を正しく合わせてください。 (☞ ここだけで⑤ 29ページ)
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。 (☞ ここだけで⑤ 29ページ)
	周りに障害物があるなど、 受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音も少 くなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。 (☞ ここだけで⑤ 29ページ)

こんなメッセージが表示されたら

CD、WMA/MP3/AAC/WAVのエラー表示

CDやWMA/MP3/AAC/WAVを正常に再生できないときは、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

メッセージ(エラー番号)	原因	処置
「ERROR-11」「ERROR-12」 「ERROR-17」「ERROR-30」	CDが汚れている。	CDの汚れを拭きとってください。 (☞ その他① 125ページ)
	CDにキズやひびがある。	CDを交換してください。
「ERROR-12」「ERROR-15」 「ERROR-17」	CD-R/CD-RWを録音しないまま使用している。	CD-R/CD-RWは、録音してからお使いください。
「ERROR-22」「ERROR-23」	再生できないフォーマットのCD-ROMを挿入した。	CDを交換してください。
「ERROR-10」「ERROR-11」 「ERROR-12」「ERROR-15」 「ERROR-17」「ERROR-30」 「ERROR-50」「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられる。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、CD再生を一度やめてから、もう一度CD再生にしてください。
「ERROR-44」	すべての曲がトラックスキップ指定されている。	CDを交換してください。
「NO AUDIO」	何も録音されていないCD-ROMを挿入した。	WMA/MP3/AAC/WAVファイルの記録されているCD-ROMと交換してください。
「TRK SKIPPED」	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されたWMAファイルを再生した。	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されていないファイルを再生してください。
「PROTECT」	ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護 (DRM) で保護されている。	ディスクを交換してください。

メモ

マルチCD再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチCDの取扱説明書をご覧ください。

MDのエラー表示

MDを正常に再生できないときは、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

メッセージ(エラー番号)	原因	処置
「TEMP」	本機の内部温度に異常がある。	本機が正常に動作する温度になるまでお待ちください。
「ERROR-11」「ERROR-12」 「ERROR-17」「ERROR-30」	MDが汚れている。 MDにキズやひびがある。	他のMDと交換してください。
「ERROR-20」 「ERROR-21」	振動などが原因で曲の情報を読み取れなかった。	MDを取り出し、もう一度入れ直してください。それでも同じメッセージが表示される場合は、他のMDと交換してください。
	MDに異常(損傷している、TOCが入っていないなど)がある。	
「ERROR-22」 「ERROR-24」	MDに異常(損傷している、TOCが入っていないなど)がある。	他のMDと交換してください。
「ERROR-23」	音楽以外の情報が記録されたMDを使用した。	音楽が録音されたMDを使用してください。
「ERROR-01」「ERROR-11」 「ERROR-12」「ERROR-17」 「ERROR-30」「ERROR-A0」	本機の電気系、機構系の故障が考えられる。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、MD再生を一度やめて、もう一度MD再生にしてください。
「ERROR-A1」	本機の電気系、機構系の故障が考えられる。	MD再生を一度やめて、リセットボタンを押して (E3 はじめに④ 14 ページ) もう一度MD再生にしてください。
「ERROR」	MDが何らかの原因で再生しない。	他のMDと交換してください。
		リセットボタンを押してください。 (E3 はじめに④ 14 ページ)
「BLANK MD」	何も録音されていないMDを挿入した。	他のMDと交換してください。

TOC について

TOC (Table Of Contents) とは、CD・MD・DATなどに収録されている曲数、演奏時間、タイトルなどの音声信号以外の情報のことです。

オートコライジングのエラー表示

オートコライジングが正常に実行できないときは、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

メッセージ	原因	処置
「マイク エラー」	音響特性測定用マイクが接続されていない。	音響特性測定用マイクをきちんと差し込んでください。(E38 音場と音質の調節 ⑩ 91 ページ、音場と音質の調節 (別売 DSP) ⑩ 111 ページ)
「フロントレフトスピーカー エラー」 「フロントライトスピーカー エラー」 「フロントスピーカー エラー」 「センタースピーカー エラー」 「サブウーファー エラー」 「リアレフトスピーカー エラー」 「リアライトスピーカー エラー」 「リアスピーカー エラー」	スピーカーの計測音が音響特性測定用マイクで拾えない。	ソースを切り換えて、スピーカーから音が出るか確認してください。音が出ない場合は、スピーカーリード線の接続を確認してください。(E38 取付説明書) 音響特性測定用マイクを正しくセットしてください。
「騒音が大きすぎます」	周囲の騒音レベルが高すぎる。	なるべく静かな所に車を停車させ、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。 音響特性測定用マイクを正しくセットしてください。

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

ドルビープロロジック

ドルビープロロジック は、2チャンネル信号を5.1チャンネルに拡張することができます。CDのような通常のステレオ音楽でも立体音場効果、包囲感、より明確な定位感を実現します。



パケットライト

フロッピーやハードディスクと同じように、必要なファイルを必要な時点で、CD-Rなどに書き込む方式の総称です。

ビットレート

1秒当たりの情報量を表し、単位はbps (bit per second) です。この数字が大きいほど、音楽を再現するために多くの情報を持つことになるため、同じ符号化方式 (MP3など) の比較では、一般的に数字が大きい方が良い音となります。(MP3とWMAのように、異なる符号化方式の場合、単純な比較はできません。)

マルチセッション

マルチセッションは、データの追加ができる記録方式です。CD-ROMやCD-R、CD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1枚のディスクに2つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

リニアPCM (LPCM)

音楽CDに用いられている信号記録方式で、Linear Pulse Code Modulationの略です。音楽CDは、44.1 kHz/16 bitで記録されています。

量子化ビット数

量子化ビット数は、音質を定義する要素の1つです。この値が大きいほど、音質が良くなります。ただし、量子化ビット数が大きくなるほどデータサイズが大きくなるため、より多くの記憶容量が必要となります。

AAC

Advanced Audio Codingの略で、MPEG-2およびMPEG-4で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

ID3 Tag

曲の関連情報をMP3ファイルの中に埋め込む方式です。埋め込むことのできる情報には、曲名、アーティスト名、アルバム名、ジャンル、製作年、コメントなどがあります。この内容はID3 Tag編集機能のあるソフトを利用して自由に編集ができます。通常は文字数などに制限がありますが、曲の再生時に情報を見ることができるようになっています。

ISO9660 フォーマット

CD-ROMのファイルおよびフォルダーに関する論理フォーマットの国際基準です。ISO9660フォーマットには、次のようなレベルに関する規制があります。

レベル1

ファイル名は、8.3形式 (名前は半角英文大文字と半角数字、“_”で8文字以下、拡張子は3文字)

レベル2

ファイル名は、最大31文字 (区切り文字、“.”と拡張子を含む) で、各フォルダーの階層は8つ以下

拡張フォーマット

Joliet :

ファイル名は、最大で64文字

Romeo :

ファイル名は、最大で128文字

m3u

プレイリストファイルの拡張子 (.m3u) で、「WINAMP」というソフトで作成したプレイリストに付きます。

MP3 (エムピーシー)

MPEG Audio Layer-3の略で、ISO (国際標準化機構) のワーキンググループ (MPEG) の定めた音声圧縮の規格です。MP3は、音声データを元のデータの約1/10のサイズに圧縮することができます。

MS ADPCM

Microsoft adaptive differential pulse code modulationの略で、米国Microsoft Corporationのマルチメディア・ソフトウェアで使用される信号記録方式です。

VBR (バイバーアール)

Variable Bit Rate (可変ビットレート)の略です。圧縮状況に合わせてビットレートを可変にすることで、音質を優先した圧縮が可能となります。

WAV

Waveformの略で、Windows®での標準音声フォーマットです。

WMA (ダブルユーエムエー)

Windows Media™ Audioの略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver.7以降を使用してエンコードすることができます。

Microsoft、Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

アンプ・オーディオ部

最大出力 : 50 W × 4
 定格出力 : 22 W × 4
 (50 ~ 15,000 Hz、5 % THD)

13バンド

イコライザー

周波数 : 50 Hz、80 Hz、125 Hz、
 200 Hz、315 Hz、500 Hz、
 800 Hz、1.25 kHz、2 kHz、
 3.15 kHz、5 kHz、8 kHz、
 12.5 kHz

13バンド

イコライザー

調整幅 : ± 12 dB

ネットワーク

ハイパス

フィルター : 周波数 : 50/63/80/100/
 125/160/200 Hz
 スロープ : 0 dB/oct、
 - 6 dB/oct、
 - 12 dB/oct

調整幅 : - 24 dB ~ + 0 dB

サブウーファ

出力 : 周波数 : 50/63/80/100/
 125/160/200 Hz
 スロープ : - 6 dB/oct、
 - 12 dB/oct、
 - 18 dB/oct

調整幅 : - 24 dB ~ + 6 dB

位相 : NORMAL (正相)/
 REVERSE (逆相)

ラウドネス

コンター : 10 dB (100 Hz)、
 6.5 dB (10 kHz)
 (ボリューム : - 30 dB)

負荷

インピーダンス : 4 (4 ~ 8 使用可能)

プリアウト

最大出力レベル : 2.2 V

出力インピー

ダンス : 1 k

CD プレーヤー部

形式 : コンパクトディスク
 オーディオシステム

使用ディスク : コンパクトディスク
 信号

フォーマット : サンプリング周波数 : 44.1 kHz
 量子化ビット数 : 16 ビット直線

周波数特性 : 5 ~ 20,000 Hz (± 1 dB)

S/N : 94 dB (1 kHz)
 (IHF-A ネットワーク)

ダイナミック

レンジ : 94 dB (1 kHz)

チャンネル数 : 2 (ステレオ)

MP3

デコーディング

フォーマット : MPEG-1 & 2 Audio Layer-3

WMA

デコーディング

フォーマット : Ver 7、7.1、8、9 (2ch audio)

AAC

デコーディング

フォーマット : MPEG-4 AAC (iTunes でエン
 コードされたファイルのみ)

WAV

シグナル

フォーマット : Linear-PCM、MS ADPCM

MD プレーヤー部

形式 : ミニディスクデジタル
 オーディオシステム

使用ディスク : ミニディスク
 信号

フォーマット : サンプリング周波数 : 44.1 kHz
 量子化ビット数 : 16 ビット直線

周波数特性 : 20 ~ 20,000 Hz (± 1 dB)

S/N : 90 dB (1 kHz)
 (IHF-A ネットワーク)

ダイナミック

レンジ : 90 dB (1 kHz)

チャンネル数 : 2 (ステレオ)

FM チューナー部

受信周波数帯域	: 76.1 ~ 89.9 MHz
実用感度	: 8 dBf (0.7 μ V/75 、 モノラル、S/N : 30 dB)
S / N 50 dB	感度 : 10 dBf (0.9 μ V/75 、モノラル)
S / N	: 75 dB (IHF-A ネットワーク)
高調波歪率	: 0.3 % (65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ) 0.05 % (65 dBf 入力、1 kHz、モノラル)
周波数特性	: 30 ~ 15,000 Hz (\pm 3 dB)
ステレオ	
セパレーション	: 45 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

AM チューナー部

受信周波数帯域	: 522 ~ 1,629 kHz (9 kHz)
実用感度	: 18 μ V (S/N : 20 dB)
S / N	: 67 dB (IHF-A ネットワーク)

共通部

使用電源	: DC 14.4 V (10.8 ~ 15.1 V 使用可能)
アース方式	: マイナスアース方式
最大消費電流	: 10 A
外形寸法	(取付寸法) : 178 (W) \times 100 (H) \times 161 (D) mm (ノーズ寸法) : 169 (W) \times 94 (H) \times 19 (D) mm
質量	: 2.4 kg (コードユニット含まず)

付属品

リモコン	: 1
リチウム電池	: 1
(CR2025)	: 1
コードユニット	: 1
音響特性測定用	マイク : 1
取付ネジ類	: 1 式
取扱説明書	: 1
取付説明書	: 1
接続・取り付け時	のご注意 : 1
安全上のご注意	: 1
保証書	: 1
ご相談窓口・	
修理窓口のご案内	: 1

ドルビーラボラトリーズの米国及び外国特許に基づく許諾製品。

メモ

上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。なお、修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

パイオニアホームページ：お客様サポート <http://www.pioneer.co.jp/support/index.html>
 （商品についてよくあるお問い合わせ・カタログの請求・メールマガジン登録のご案内など）

<下記窓口へのお問い合わせ時のご注意>

市外局番「0070」で始まる ☎ フリーフォン、および「0120」で始まる ☎ フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

商品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付 月曜～金曜 9：30～17：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

カーオーディオ/カーナビゲーション商品のご相談窓口およびカタログのご請求窓口

☎ **0070-800-8181-11**

☎ 【一般電話】 **03-5496-8016**

ファックス受付 ☎ **03-3490-5718**

部品のご購入についてのご相談窓口

部品（付属品・リモコン・取扱説明書など）のご購入については、部品受付センターへお問い合わせください。

部品受付センター

受付 月曜～金曜 9：30～18：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

電話 ☎ **0120-5-81095**

☎ 【一般電話】 **0538-43-1161**

ファックス ☎ **0120-5-81096**

修理についてのご相談窓口

お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合は、修理受付センターへ（沖縄の方は、沖縄サービスステーションへ）

修理受付センター（沖縄県を除く全国）

受付 月曜～金曜 9：30～19：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～18：00（弊社休業日は除く）

電話 ☎ **0120-5-81028**

☎ 【一般電話】 **03-5496-2023**

ファックス ☎ **0120-5-81029**

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付 月曜～金曜 9：30～18：00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話 ☎ 【一般電話】 **098-879-1910**

ファックス ☎ **098-879-1352**

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

© パイオニア株式会社 2004

< KMIZX > < 04L00001 > < CZR2980-A >